東京小間物商報

二週年附錄豫告

本月は即ち當商報發刊の二週年に相當するを以て聊か祝意を表し且つ愛讀諸君の御厚意に酬ひんが爲め來十五日發行第六十一號には

商人必携　**雜字類纂**

と題する至極携帶に便にして而も商人に必要なる大附錄を添て進呈すべし猶相變らず御愛顧を乞ふ

東京小間物商報
發行所

雜報

（禁轉載）

○花簪類
○朝顔、團扇、茨、芒、水に鮎、水車、水玉、牡丹、菊、其他時候物上中下孰れも房付房なし、物賣口よし

○結掛の類
○團扇、萱瀧、茨、水玉、菊水、其他流行物、房付結び、銀セール細工物各種賣口よし

○根がけ類
○アルミ高彫一文字類、石入物、及び透し象眼入物、ゴム玉、人造蝶貝玉、水晶金銀玉、色硝子、紛ひゴム、上中下、赤燈玉、大中小、永玉手柄等向よし

○手柄類
○メリンス、モス、なかこ、鼈甲絞り、瑠璃織、三升、菱、鞘形、七寶、安田、金銀織、糸あみ、綿眼等相變らず向よし

○角かん類
○人形、花形、紋透し、花鳥、平紋、玉付、琴柱の類いづれも白足の類賣行あり

○金簪類
○相變らず洋燈上中並、玉つき玉なし、繪付、彫付、メッキ、無地等賣口よし

○かもじ類
○小枕中毛、嶋田細根、熊毛共、中等より上等物賣口よし

○附櫛類
○丸髷形、中厚大一番より二番位まで、唐人櫛一番より十番位まで、但し賣口よりの五番より七番位の品最も多く嶋田髷の少なく賣行

○櫛形類
○鼈甲入丸形、地出茶物流行

○たばさみ類
○相變らず、かたばさみ、切たばの類、季節物に付賣口よし

○匂ひ物の類
○麝香水、及び人造製、其他匂ひ袋、懷中持、ゑりかけ、腦輪、腰さげ用各種、新形物流行なり

○打粉の類
○あせ知らず、夏知らず、其他各店の製造品いづれも賣口よし

○石鹸類
○三〇内外の物最もはけ口よろしく中等上等物も相變らず賣行なり

○組合法發布祝宴大會の協議　同業組合法の發布を祝するの目的を以て府下の各組合が一大祝宴を開催するとの事は兼て本紙にも記載せしが右準備委員は去る一日日本橋區北槇町の池の尾樓上に相會して種々協議の結果左の如く決定したり

一會費は一人金拾錢と定め會券及徽章を交附すべき事

但し酒肴を供せず各組合の適宜に任すもの

一各賛成組合は本月五日限り寄附金額を定めて大會事務所へ報告する事

一會員は各組合代表者の許可を得て出席し其の人員を本會事務所に通知次第會券を引換ふる事

開會期日場所及び方法之事

一六月十五日（雨天順延）を期し上野不忍池畔に於て大會を開催し各閣僚、貴族總監、東京府知事、貴族兩院議員、各區長、警察部紳士、各新聞記者等を招待する事

一各組は其名稱を表彰せる旗幟を立て當日午前第七時迄に上野原練兵場に參集整頓ひなし、祝砲を發ち帝國萬歲兩議院萬歲を二唱し市中音樂隊の合奏に連れ整列して農商務省門前に至り同業組合法萬歲を參唱し銀座通り日本橋を經て順路上野廣小路に着し會場に入る事

但し行列の順次は各組合名稱の頭字いろは順に據る事

一會場には式場を設け有志の祝辭演說等に充て式了て帝國萬歲各同業組合萬歲を三唱する事

一餘興は煙花、撃劍、奏樂、唱歌等とし且つ池上に數艘の舟を浮べて馬鹿囃し等と演じ輕氣球數百個を飛揚せしむる等其他種々考案中

一右協議了て委員中より委員長一人を互選し投票の結果左の如く當選したり

活版印刷業組合頭取　佐久間貞一君

更らに大會準備に關する諸般の事務を整理する爲め委員長の指名にて專任委員四名を選擧し左の如く當選したり

貿易雜貨商組合副取　濱川德助君
陶磁工組合頭取　河原德吉君
寶巢特許家　福嶋宜三君
貿易雜貨商組合事務員　山本荷健君

八王子火災義捐者人名追加

前號第三回報告中左の金額人名を追加し合計金百十八圓七十錢と改む

埼玉縣川越町　渡辺屋作次郎

一金貳十錢

東京小間物商報第一編第四回以上六回迄拾壹錢第七回以上拾錢　發行所　東京小間物商組合事務所

●臺南郡の物產陳列場　臺灣島臺灣廳へ物產陳列場設立の件に付東京府廳より左の通牒ありたり

六月第一四號ノ一　臺灣總督府ノ一

臺灣島の國柄よりして日用什器の粗品に至る迄總て清國產を仰くの景況に有之る我版圖に歸したる上に深く遺憾の次第に付臺灣產に於て本年度より物產陳列場を設立し內地の物產種類品價格を知了せしめ其販路を擴張する等の見込より目下其設計畫中に付月刊雷會等の見込より目下其設托の陳列を爲す趣に付其區別を爲し直ちに同縣へ宛發候樣此際勸誘相成度此段予入候也

明治三年五月廿四日御中　東京府

本組合員東小間物商組合御中

●弔詞贈呈　本組合員前川忠兵衛君逝去に付左の弔詞贈呈したり

嗚呼前川忠兵衛君不幸病魔の襲ふ所ど爲り藥効なく遂然逝去君は明治廿四年本組合創立發起人ど爲て百事を整理せし以來或は會計主任ど爲し或は所の重任を負ひ拮据勢多年一日の如く而して其事績の正に熟するや又東京小間物商報發行の委員ど爲て其擴張に盡瘁し且つ五二會東京小間物部の評議員に特撰せられて一意專心其任を全ふする等君が功勞の多大なるを懷ひ殊に哀惜情の念に堪すまた本組合全員を代表して弔詞を呈す

明治三十年六月廿日

東京小間物卸商組合

頭取　天野源七

本組合員星野夘三郎君より左の届出ありたり

解屋御届

名古屋市北ノ町池山新五郎長男喜助事

池山鐵吉　二十歳

右之者儀不都合有之解屋致候間組合規約第十二條に依り處分有之度此段及御届候也

明治三十年五月廿三日

淺草區茅町一丁目七番地

星野夘三郎　印

東京小間物卸商組合

頭取　天野源七殿

●改良縫糸織物價格其他の改正　傳て愚物價格其他の改正は

●屋人解屋届出　

故平尾贊平君傳（承前）

編者大に良子の人となりを愛慕して措かず。因て細説せんと欲するに當り臨終の祭文を得たり。能く良子の本領を寫して盡せるものなれバ。此に記して編者の勞に代ふ

明治廿六年十月廿四日。法苑山廿四世。日規に代て恭しく香花清燈大乘妙法の庶羞を以て。東海院妙貞日長大姉靈に告ぐ。嗚呼法性常住の秋の月は無常輪廻の闇夜を照し。寂光淨土の虫の聲ハ十如究竟の眞理に感す。熟ら〳〵以みるに君名は良子。本姓山田氏。父を誠四郎と稱し。母は某氏。嘉永三年十月十七日遠州中泉に生れ後父に從て駿州三保に移り。後ち名を平尾清一郎の養女に假り。年甫めて十六同姓贊平に嫁す。君天性淑順。温柔寡言。平生心を家政に注き勤倹自ら奉し。夫と創業の艱苦を助け。終に守成の業を共にす。又能く人の貧困を憫み物を施すこと少なからず。是を以て人の景慕すること父母の如し。洵に婦人の摸範と謂ふべし。凡そ世の婦人の人に嫁するや。或は已か家の富貴に誇り。或は夫の貧賤を侮り。或は衣服の美麗を事とし。或は絲竹管絃を嗜み。甚しきは俳優演劇を弄ふに至る。君の行に比するに豈に愧さらんや

嗚呼傷しき哉。今玆十月の初め。病て蓐に就き。醫藥功を奏せず。遂に去ぬる廿一日溘然として逝く。親戚の傷み。故舊の哀み果して如何ぞや。然りと雖も死生は命なり。王公將相尚ほ免かるゝ能はず。佛祖既己に涅槃を示す。庶幾くは妙法蓮華の功力に因て。寂光淨土の臺に登り。親しく諸佛の側に侍し。長く子孫の追孝を受けんことを。玆に一篇の祭文を賦し。以て聊か微意を表す。嗚呼傷しき哉。尙くは饗けよ

明治廿六年十月廿四日　　今村隨順敬白

君又公共の事業に盡せる事多し。明治十六年二月千代田學校學務掛に擧られ。同廿一年二月東京商工會委員となりしを始めとし。同廿六年以來東京小間物卸商組合の理事員。及び賣藥商組合委員と爲て其事務に鞅掌し。同廿八年京都に於て第四回内國勸業博覽會の開催あるや。君審査補助を命せられ。其事務に精勵せし賞として銅牌の授與あり

同年六月小間物卸商組合の機關として。東京小間物商報發刊の議あるに方り。君又其委員と爲て是が擴張に盡瘁し。爲めに今日の隆盛に至れり。續で同廿九年五月東京小間物卸商組合の五二會に加盟するや。君は擧られて是が部長に特撰せられ。或は同年東西銀行の組織に就て君又創立委員と爲り。其事の全く成るに及んでハ撰せられて取締役となり。又君ハ神道大成教を信仰し且つ斯道に熱心通曉。傍ら教會の爲め力を盡せる事の尠なからざるより。廿八年二月中講監に補せられたり。其他衛生委員。學務委員等に撰ばるゝこと數回にして足らず。而して君は恭謙君子の風あり。其擧ばれて職に就くや。必らず之を先覺老成の人に讓る。蓋し君が愼重の資性其職務を輕んせざるの致す所なり。曾て曰く。人は其常職を恪守せざるべからず。妄に他事に狂奔するものハ守る所を知らざるものにして。家を覆へすの泉源此に伏すと。知言と謂ふべし。聞く君ハ未だ曾て吾國政事の上に可否の喙を容れしことなしと云ふ

君ハ藥商喜谷市郎右衛門氏と親交あり。喜谷氏曾て大倉喜八郎氏と謀り。日本製藥會社を創始せんとし。君を擧げて重役の任に當らしめんとす。君沈思默考敢て諾せず。數日の後大倉氏更に書を寄せて君に就任を勸む。君愼重尙は未だ即答を與へず退て之を夫人に諮る。夫人曰く喜谷氏ハ恩人なり背くべからず乞ふ速かに之を諾せよと。更に出でゝ之を店員と議す店員聲を齊ふして曰く。主公任に就かんにハと。更に之を從子平尾德太郎氏に告く氏亦勸むること前の如し。終に使を馳せて嫡男貫一氏を慶應義塾より招き諮ふに此事を以てす氏曰く任に就て名を貪らんよりは寧ろ任を辭して名を潔ふせんには如かず。大人請ふ之を再思せよと。君釋然として悟る所あり終に其勸誘を受けざりしと云ふ

君己に勤倹力行を以て今日の昌隆を致すも。敢て宴安逸樂を貪ることなく。益々得て益々倹に。愈々富で愈々勤め。躬行嚴正。家人をして薫育に馴致せしめんことを期す。又殊に義氣に富み。學校の建築。道路の修繕。及び日清戰爭の當時の如き。其他事ある毎に齊進財ヲ捐つ。故に賞杯褒章謝狀等を頒すること其幾何なるを知るべからず。而して彼の孤獨倚るなきの貧人を救扶し。病災養ふ能はざるの窮民を賑恤する博愛慈善は。實に君が天禀の義德たりしなり。嗚呼世の實業に依りて家を興さんとするもの。君の性行に傚へば大に益する所あらん

（畢）

最上等匂袋　定價

ウテハ 百花園　麝香入製糯珍地桐箱一個入七十五錢

仝　國の華　麝香入製縮緬地桐箱一個入五十錢

エリ掛　萬里香　麝香入製糯珍地桐箱一個入五十錢

仝　君の薫　麝香入製糯珍地桐箱一個入卅錢

仝　梅の風　特製糯珍地桐箱一個入廿錢

仝　くちべに牡丹　特製縮緬地甲州交發句付桐箱一個入十五錢

仝　江戸錦　特製縮緬地桐箱一個入十錢

右何レモ小間物卸商組合ニ於テ販賣相願居候ヘバ御便利ノ御店ヘ御用向ノ程奉願上候

猫印商標 麝香水　卸最低價五掛以上

角瓶猫印　美麗化粧函一本入　定價十五錢

青猫印　同　十二錢

赤猫印　同　十錢

猫ト商標 人造麝香　卸賣最低價五五掛以上　定價廿錢　十錢

猫印商標 麝香石鹸

卸賣一打ニ付　一號　一圓七十錢　二號　一圓十錢　麝香製松印　七十錢

一號　桐函一個入　廿五錢

二號　同　定價十五錢

麝香製松印　同　十錢

●右何レモ香料卓絶ニシテ意匠頗ル優美ナリ

●見本御入用ノ節ハ定價ノ半額ト郵送料一種毎ニ一錢ヲ要ス

東京横山町二丁目

田中花王堂廣告

卷莨用パイプ

薄荷パイプ材

ライスペーパ

各種製造元

舶來パイプ問屋

（越）

東京市日本橋區通鹽町四番地

萱谷爲吉

意匠斬新

玉手箱石鹸【一名テキメン石鹸】

全形十六分の一

●定價一個十二錢●卸賣一打ニ付九十錢五打以上八十五錢拾打入一櫃八圓●但シ十打入限　引札千枚

●見本御入用ノ向ハ郵券拾錢ヲ要ス

此玉手箱石鹸は弊舖發賣の男女白色剤テキメン水を以て精煉なしたる品なれは有効無害なるは勿論殊に五十打に對する每中に打込有之ば使用の節右福神を得るときは自鹸と云ふ最も意匠を凝らしたる石鹸にして品質價格共に備なしたる未曾有の品なれバ乞ふ續々御販賣あらんことを

美術金製

製二百個ノ福神純金製一個鍍金製を以て右

發賣元　東京日本橋區横山町二丁目　田中花王堂

發賣店　東京小間物卸商組合中

◎見本品陳列　在里昂山田二等商事より送附に係る佛國甲昂ロース縣メタル産の綿製窓張數十種（佛國内地、亞弗利加及び印度諸國向）及び刺繍機械を以て製造したる刺繍品數十種を織物業及び賢易商の參考品として實易陳列館に陳列したるを以て農商務省へ東京及び横濱を始め各地の商業會議所へ隨時閲覧すべき旨通知したり

●綱●製本邦漆器輸出品　曩に静岡縣知事の稟請に依り本邦製漆器輸出不景氣の原因取調べ方を在里昂山田領事に託したるに右へ綱乙製の本邦漆器模造品流行するが爲めにして其模機等の粗惡なる本邦製の品に及ばざる遠しと雖も堅固なる事へ遙かに本邦製の品に勝れり又其模樣書に日清戦争の餘聞を採るが如きへ以て綱乙餘爭者の機敏なる類に足るべく又彫に注目すべき識品用途の目的其形狀大小等能く厭測の實用に適せる事なり又右模造品の標本へ既に本邦に向ひ同領事より遞送の旨去る四月五日付を以て其筋に報告ありたり

●度量衡檢定所　來る三十二年より度量衡器の定期檢定を行ふへ一般使用者の度量衡器を檢査するに就てハ其方法に關し過日農商務省に於ける檢定委員會に於ても種々審議したるが東京府に於てハ先づ市内に九ケ所の臨時檢定所を設ち郡部に於てハ郡役所内に臨時設置する樣定の由にて各府縣郡役所若しくハ町村役場に臨時檢定所を設置すべき計畫にて定期檢定へ毎年期日を定め各使用者をして檢定所へ持來らしむる筈なりと云ふ

●文部省と農商務省　文部省管轄の農科大學を始め商、工業學校の類にて農商務省に關係あるものは文部省の手を離して農商務省の管轄に歸せしめ十分の改良を加へなば實業社會の實地に適切なる教育を施す事の至て必要なるべく隨て其卒業生を得て之を用ひて近頃農商務省當局者の主張せる所にして此程既に同省より文部省へ照會したる趣きなるが之に對して文部省へ如何なる意見を看し居るかと云ふに同省は全く不同意なりと云ふ其理由は最高等の工科大學、農科大學より高等商業學校、高等學校、工業學校、商業學校、農學校、實業補習學校の類に至るまで教育の統一上弱れも貫職したるものなるに今其一部分を裂ちて農商務省に屬せしめんとするは却て教育の不具なる其發遠を阻害するものなる或へ海軍省の機關學校へ遞信省の郵便電信學校等の例を云ふべきと雖此等へ省其に使用すべき人を養成する所にて一般の需用に應ずる爲めならざれば言ふまでもなし且つ農商務省の官人が如くに其法科大學は司法省に屬すべきと雖も其大學は內務省に屬すべきとの議論も起るべし斯て文部の統一期可からず文部省の存廢は先づ別問題として既に必要と認めて設置せる農商工の各學科に於て世間の需用に不足せるのみにあらず各學科共に不足を告ぐれども唯經費の不足に依り十分に擴張することを能はず左れば文部省へ早く大第に經費を增し其不足を補ふて需用に應せんと務め居れるは今更のことに非ず今後に於ても唯々すべく務めて其不足なるを期するに在るのみ統一を欠き實驛を絕ちて政府各學科を各省に分轄するの必要なしと云へり在るものゝ如し

●文明社會の通弊　米國の經濟學者スチムソン博士は近頃細、青の政治學會に於て文明社會の通弊を指摘し英國が其に次ぐの極點に達し永く其恩澤に浴するの全く人民の德義に發達し自互に相めて其存の大理に服するを爲にして米國に於てもリンコルン、クランドの二大統領の此點に注意し社會の德義を進めて文明と共に植えんと國りたるに今日に於ては社會の紀綱頗る頽廢し富は社會の德義の何物たるをも知らず我儘勝手振舞をなして貧者を屈し惡徒の風を煽ち然り其に金錢を與へて法律を破り或へ金錢の力を以て立法の神聖を侵すに至れるを慨嘆し富者の跋扈を制し其不正の行狀を改悛せしめざれば到底米國の文明を維持する能はざる旨を述べ非常に世人の注意を惹きたりと云ふ

第四回内國勸業博覽會
有功賞牌受領
最良香油
ハ千代
直上け廣告
謹告八千代のゴマ油の原料迄々勝貴仕困却致居候處湯利は繁昌の基と信し彌勉强仕候然に昨年來非常の勝貴と相成候得共猶御愛顧の厚に對し是迄相耐へ候處今や如何ん共難仕場合と相成萬不得止直上け仕候何卒深く御推察被下不相替御用奉願候

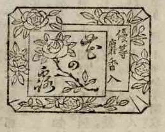
麝香精　大中小各種
麝香水　右二品のよ
にはひなり
日本國中に比
類なし
麝香散　白粉なり
携帶便利
特約店　東京小間物問屋各店ニアリ

◎麝香の獸は雲南産の産を上等とす
此三品は雲南麝香を用ひて製したゆゑ品芳香長く保つこと確實也
布片にしめ一筒竹に入れ又衣類に振りかけはなしなるべし
●取次仲買の方は各地問物問屋又は左の特約店へ御注文被下候へば本舗同樣相應の申候
●本は望一層吟味精製仕候間不相變御愛顧を請ふ
衣類に好匂ひうつる
麝香水之元祖
白粉問屋
山本逸造鑑製
東京市神田區佐柄木町
麝香水
井筒屋香油店
東京市本町十番地

雲南麝香入
式部石鹸
壹個美艶箱入　代金三十錢

麝香入
歌姫石鹸
壹個美艶箱入　代金廿五錢

麝香入
梅ケ枝
壹個代　金拾五錢



麝香入
花の露
壹個箱入　代金拾八錢

理化應用衛生化粧
大日本
壹個代　金拾貳錢

今回弊社發賣ノ右五種石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ヒ製造法ノ如キハ數年間內國未曾有ノ石鹸ヲ精製セント欲シ大ヒニ奮發シ艱難辛苦ヲ嘗メ漸ク今回精製シタル者ナレハ當今高官博醫等ノ證明賞辭ヲ得ルハ時勢ノ然ラシムル所トハ云ヘ恰モ一ニ流行品ナリ弊社ハ證明賞辭ヨリモ優等タル從來ノ信用ト云フ確實ナル證明ヲ有スルヲ以テ一々御効ヲ論セス原料及製造法ノ異ナルヲ知リ賜ハゞ御高評アランヿヲ

東京堀江町貳丁目
諸石鹸發賣元　平谷合資會社

●普通麝香より廿倍匂ひ高さ　無雙新發明

定價　一錫金十錢

御直段

一箱一打入	
一打以上	七十二錢
十打以上	六十六錢
卅打以上	六十三錢

當分ノ中煉麝香一打ニ付引札二百枚宛ノ割合ヲ以無代進呈仕候

●猶多數の注文に對しては特別の御相談可仕候

○煉麝香ハ未だ天下に類なき新發明の佳品よして多量の麝香を配合しあれバ芳香馥郁自ら高尚優美ならしむ尤も夏季衛生上欠く可からざる良品なり

○煉麝香ハ暑中汗の臭ひ而已ならず種々惡臭を防ぐ故高位貴人に接近御交際廣き諸君ハ時々少量宛御使用あれバ自身ハ勿論顧客に對し爽快を感ぜしむる佳品也

○煉麝香ハ男女共身体適宜の場所に塗擦すれバ佳香馥郁千金の匂ひ袋を所持せるに異ならず取分け悪疫流行の際などにハ尤も著しき効驗を有する必要品なり

製造元　乙女肌本舗　清水清香堂
發賣元　化粧品問屋　日本橋區横山町二丁目　田中花王堂
關西代理店　大坂佐野屋橋鰻谷角　脇田盛眞堂
●其他東京小間物問屋及ビ全國到ル所ニアリ

兎月石鹸は世界流行石鹸の王

陸軍御用品

發賣元　東京通リ油町　清水開花堂
關西代理店　大坂南久寶寺町貳丁目　萩原吉右衛門

最上米國製杢目入あづま玉新荷着謹告

今回荷着發賣致し候杢入あづま玉は米國本會社に於て多年苦心の末好結果を奏したる精功の奇品にして杢目鮮明一見眞珊瑚と識別に難からしむる程高尚優美の品に候得ば從來無地東玉同樣陸續御用向きの程偏に奉願候

發賣元謹白

江川商廛賣品廣告

●鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
●舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
●舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
●舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ曾テ米國幷ニ英國ノ確實ナル會社ト特約直輸入致シ居候間物品ハ精々勉强廉價ヲ以テ販賣仕猶一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區横山町二丁目六番地

EGAWA KINEMON

發賣　上總屋　江川金右衛門（電話浪花三百十九番）
本舗　小間物問屋　同町十四番地　同　支店

支店開業稟告

一各位樣倍々御清榮奉恭賀候隨而弊店儀從來ヨリ化粧品及石鹸類卸賣罷在候處諸彦之御愛顧御引立ヲ蒙リ日ニ月ニ盛大ニ趣キ難有奉感謝候就而者近來化粧品類追々種類增加致シ何分多忙ニテ手廻リ兼候間今般（横山町三丁目へ支店ヲ設ケ石鹸大販賣及全國有名賣藥特約大販賣兼業致候間何卒從來之御交誼上弊店同樣ノ御愛顧御引立ヲ蒙リ多少ニ不拘御註文ノ下命被下度偏ニ奉願上候敬具

東京市日本橋區通鹽町十三番地
化粧品問屋　大和屋事　佐野小兵衛謹白

仝市仝區横山町三丁目十二番地
賣藥石鹸問屋　大和堂事　佐野芳三郎百拜

○遂山霞（第十六回）

一瓢子稿

呼掛けられて景時は面倒な奴に邂逅ひたりと口の内には呟やきしが今更発るゝ由なければ振返つて微笑を作り 景「是へ〳〵誰方かと存じたら和田殿畠山殿仁田殿打揃つての御入來何ぞ火急な用事でも御坐るかなとジラ〳〵しく挨拶す重忠ハ傍へ進み寄り 重「火急とも火急ともズンど火急而も御貴殿が係り合此處で逢ふたを幸はひに少とヤ談じ度き仔細御坐れば暫時那れへお戻り下されといふれ正しく前宵の事と早くも推せし梶原ハ迷惑さうに眉を顰め 景「何かハ知らねど拙者も邸に殘せし用事あり手間取つても居られねバ失禮ながらお暇ナす追て御用の仔細は使ひになと邸までお通し下されと別れを告て去らんとするにぞ忠常堪らず立塞がり 忠「イヤお手間取らさうとハナさぬ今が今降つて湧いた鎌倉中の大事貴殿も譜代に連なるからハ我等の相談聞くが當然先づ〳〵那へと手を採つて玄關より上へ引上ぐるに遉かの梶原も爭うに道なく高が那しきの内証事に大事呼はりする程の小膽者の寄合ひなれバ何程の事やあるべきと多寡をくゝつてちつとも動せず 景「然らバ是非がない何事か承たまはりやさうと三人の者に連られてドヤドヤと書院へ立戻る折柄奥の一室には主個廣元、朝光、仲業を傍へに置きて三平太の調べに掛りしが玄關の方騒がしく數多の人の入來る樣子に何事ならんと訝かしみ朝光と共に坐を起ちて那の書院まで出たるに思ひもかけぬ和田畠山仁田の三人が梶原を仲に取巻き居るより 廣「是へ〳〵打揃つて能うこそ御入來梶原殿唯今ハ失禮致して御坐ると朝光と共に坐に就バ和田左衛門尉膝おし向け 義「御不在かと存じたら幸ひの御在宿殊に結城殿も居合せたは萬事よい都合何は扨置き結城殿思ひ寄らざる災難で御心勞嘸かしと存じヤを 重「夫に就て拙者ども今朝未明より和田殿方へ打寄つて種々評議を致したる末唯今是へまゐつた計り貴殿には定めし昨宵の御訴訟で御坐らうなと云はれて朝光は叮嚀に禮を述べ 朝「仰せの通り訴訟の爲最前より是へまゐつて御坐る 義「何と兵庫殿是に梶原殿も御坐るゆゑ結城殿と突合はせてお調べあつては如何で御坐ると聞くより梶原は氣色を變じ 景「和田殿何と仰せらるゝ然らバ貴殿方は拙者をもつて結城殿お邸を騒がした野伏り夜盗と思してのお言葉かとにじり出れバ義盛は如何よそのみ他を云はず髯おし撫でゝ泰然たり梶原ハ膝つき付けて 景「是りや聞捨ならぬ和田殿のお言葉痩せても枯れても梶原景時盗人呼はり無禮至極と云はせも果てず重忠は梶原が前に大喝一聲 重「お默り召され梶原殿楊震が四知とナす事御存じないか正ない事働ら奴ハ誰知るまいと思へども天知る地知る己れが知る自然と人に知れ渡つて鎌倉中で專ばらの評判 景「左れバ其事今も大江殿へ申した通り开は何者か此梶原の威權をそねむ佞人が云觸したる根無し言體かな證據があらバ知らず證據もない噂を種として人を落さうとハ淺墓〳〵と嘲けり笑へバ仁田の忠常「梶原殿イヤサ景時盗人猛々しいとハ貴殿の事だ證據を云はぬを幸ひと付入る積りの大たは言淺墓とハ貴殿の事だ證據のない事を何しに云はうか而も昨宵の丑滿頃草木も眠るといふなるに夜中人聲ざわ〳〵と篝を焼きし貴殿の邸其時拙者は讀書に耽り未だ臥床に入らざれバ其聲聞きて不審に思ひ貴殿の邸とハ相近なれバ密と忍んで庭に降立ち高塀越えて崖の上より樣子を見濟し居るとも知らず篝火ばかり打消して搦手の門より密々と操出せし人數ハ凡そ七八十人何處へ行くかと思ひし故拙者は跡より崖を降り四邊の暗さを幸ひに素知らぬ振にて跡を尾くれば鶯谷貴殿の小悴景季が掛れといへる下知の下に塀乘越て亂入りし樣子ハ鶯と見認てあるのみならず右京之進仲業殿が馳來りし時數多の武士が押隔て頗ぶる難儀に見えたる故拙者密かに加勢して易々と門内へ入らしめたるを梶原殿は御存知ないかと星を指れて遉かの梶原殿は忠常に見られたかと驚く色を怒りに紛らし 景「ハテサテ云へバ云はるゝものかな何の草紙見ての作り言町中へ觸れたも仁田殿であらうと互に肱を怒らしてあはや血の雨も降らんとせしを廣元漸やくに押留め 廣「仁田殿が見たとあらバ尚の事此方に三平太といふ証人もあれバ追て手續を願ひし上と半分聞かず梶原は「其樣な無禮な調べ此身に受くる覺えなし勝手にせよとけたゝましふ疊を蹴つて坐を起ちぬ

○米人増税案に反對す

米國が今回日本の絹物類に重税を課せんとするに就ては同國に於ても之に反對するもの頗る多き由なるが此種の人は紐育、ニユジヤシー、マサチユセット等の諸州に於て日本の絹織物の生地の儘なるを染揚げ之を仕上るを以て業とせるものなり左に記する所は増税率法案中日本の絹物に重税を課するに反對して上院委員に呈せし意見書の一節なり

日本より我國に輸出する絹物は重に甲斐絹及び羽二重の二種に過ぎず是等は古製の機械を以て劣等なる生絲若くは絹屑を織りたるものにして決して他の織物に適せずまた性質堅強ならざるを以て新機械を應用する能はざるものなり殊に是等は日本に於て一地方の外は各所の製造所に於て製造せらるゝものにあらず閑暇の時節に農家若くは小なる商店に於て餘業として製造するもの多き事情既に此の如くなるを以て其性質上擴大に至る能はず唯農家間の一部に行はれ其製造は一に人民の堪忍と勤勉に待つものなり故に我國に於て之と同一なるものを製造せんと欲するは到底能はざる所なり且つや是等は米國の絹織物と競爭せざるものなるを以て若し之に禁止税を課せんか瑞西及び他の歐洲の絹類は千八百九十年に於て定めたる税率に依りて續々と米國に輸入するに至らん斯の如くなるときは啻に日本の絹類及び之が製造に從事せる我國の工業に大害を及ぼすのみならず亦米國の産業に非常の損失を生ずるに至らんと云々

◎日歐間直接貿易所見（承前）

重要ノ主産若クハ人氣好キ特別品ノ市價相場ハ倫敦、漢堡及其他商業ノ中心ヨリ每週電報シ其他急激ナル變動等アルトキハ迅速ニ電報スルヲ必要トス而シテ一已ノ商人又ハ製造家ニ取テハ斯ル定期ノ電報通信費ハ高價ニ過ルト雖モ若シ此組合ニ加入スル各商店其組合員トシテ該會社ノ手ヲ經テ取引ヲ爲シタル商業ノ多寡ニ應シ夫々電信費用ヲ負擔スル時ハ少額ニシテ足ラン

商業上最モ緊要ナル各地駐在頭事ニ委任スルニ有力ニシテ且ツ地位アル商人ノ信用スヘキ者ノ撰拔ヲ以テ之ニ電信費ヲ除クノ外一切ノ費用ヲ包含スル一定ノ手數料ヲ給シ以テ專ラ該會社ト取引セシムヘシ而シテ右ノ如キ在外ノ總務代理店ハ望人アルトキハ成ルヘク日本商人ノ青年ヲ使用スルコトトセハ右青年等ハ相當ノ經驗ヲ積ミ將來直接貿易ニ關係アル日本商館ノ適當ナル手代トモ爲ルヘク又獨立ノ商人トモ爲リ日本ニ歸リテ輸出商ト爲ルカ若クハ外國ニ在リテ自立經營スルコトモ成シ得ヘシ

該會社ト取引ヲ爲シ該會社ノタメニ働ク總務代理人ニシテ鞏固ナル會社ト取引スルニ於テハ購買者ノ請求ニ應シ其注文及辨償ノ確實履行ノ保證ハ猶豫ナク自ラ進テ之ヲ爲スヲ得ヘシ蓋シ此一事ノミニテモ大ニ直接貿易ノ獎勵ト爲ルヘシ

該會社ヲシテ商店ノ注文ヲ受クルニ至ラシムルハ其初總務代理人ノ困難トスル所ナルヘシ況ヤ外國商人ハ市價相場ノ電報ニ接シ之ニ依リテ自己ノ責任ヲ以テ日本ヨリ貨物ヲ買入レ之ヲ輸送スルニ於テオヤ然レトモ總務代理人ハ一方ニ於テ其競爭者ト同樣ノ方法ニ據リ會社ハ又他ノ一方ニ於テ在日本外國人ト同樣ニ働クニ於テハ自然其結果等シク利益アルヘシ

總務代理人ハ復タ日本ニ於ケル相場ノ移動ニ附キ定時報道ヲ得テ常ニ購買者ト聯絡ヲ有シ而シテ海上運搬中ノ貨物若クハ既ニ購買セラレテ輸送通知ヲ受ケタル貨物ヲ其手ニテ賣却スルコトハ夫ノ會社又ハ其取引ヲ引受ケタル同社社員ニ寸毫ノ危險ヲ與ヘスシテ其依賴人ノタメニ商店ノ注文ヲ受クルニ至ルヘシ

主要品ト認メラレサル物品ニモ往々輕スヘカラサルモノアリ假令ハ絹織物ノ如キ適任者ノ撰擇ニ係ル品質、意匠及色取物ハ適宜ノ數量ヲ見計ヒ相當ノ販路アリト認ムヘキ各市場ニ送付スヘシ左スレハ先ツ暫クノ間歐洲ノ貯藏中ヨリ賣捌キ居レハ各所ノ市場ニ斯ク紹介セラレタル諸種ノ物品中ニハ速ニ購買者ノ注意ヲ惹クモノアルヘク且ツ若シ再三ノ賣買取引ニ依リテ其缺點ナキヲ證スルニ於テハ商店ノ注文モ隨テ來ルヘク而シテ漸次重要物品ヲ豫備貯藏スルノ必要ナキニ至ルヘシ

手巾其他各種絹織物等ヲ貯藏スル者倫敦ニ二大商館アリ巴里ニモ亦二箇所アリテ共ニ殆ト該營業ヲ專有ス而シテ是レ獨リ歐洲諸國ニ對スルノミナラス尚ホ太西洋對岸諸國就中南部亞米利加諸邦ニ對シテモ亦然リトス漢堡ハ世界各國ト密接ノ關係ヲ有スルヲ以テ該取引ノ大部分ヲ占有スルコト容易ナルヘシ而シテ日本製造家商業家ノ熱心ニ之ヲ營マンコトヲ切ニ希望スル所ナリ

各種日本ノ製產品ヲ展覽スル商品陳列所ヲ設ケ之ヲ總務代理店ニ附屬セシムヘシ是レ獨リ歐洲ニ於ケル關係ヲ增加スルタメノミナラス猶又常時ノ需要ヲ充タサンカタメ購買者ノ斷エス渡來スル太西洋對岸諸國トノ關係ヲモ增加スルニ至ルヘケレハナリ

今茲ニ述フル所ノモノハ直接貿易ニ關スル余ノ報告書中既ニ記載セル者ト同一ノ事項ニ涉ルト雖モ是レ高等工商會議ノ大會ニ提出セラレタル問題ノ答案ニ適台スヘキ體裁ト爲セリ若シ幸ニ農商務省及該會委員ノ贊成ヲ得ハ余ノ大ニ滿足スル所ナリ

余ハ該委員諸君ノ面前ニ於テ余ノ意見ヲ述ヘ及右ニ關スル諸件ヲ說明センコトヲ希望ス蓋シ直話ハ大ニ其目的ヲ達スルノ便アルヘク且ツ結局新通商條約ノ實施ニ先チ迅速且ツ有力ノ方法ヲ得ルニ至ルヘキヲ確信スレハナリ

余ノ直話ハ獨リ右ノ要件ヲ說明スルニ緊要ナルノミナラス猶ホ之ト同時ニ管理方望マシキ銀行トノ關係及營業監督ニ關スル詳細ノ整理上ニ利便ナルヘク且ツ又本計畫贊成ノ商業家及製造家ト自ラ本件ニ就キ相談シ得ルノ便利アルヘシ

今日マテ余ノ遭遇シタル困難ヲ說明センカタメ左ニ其例證ヲ擧ケン

當市ノ或商館ニシテ莚ノ輸入ニ關シ日本ト直接關係ヲ得ント欲スル者アリタルニ依リ余ハ直ニ之ヲ周旋セシニ日本ノ商店ハ其後營業ヲ停止シタルカタメ余ハ更ニ他ノ日本商店ト取引スルコト、シ屢〻日本ニ注文ヲ申送リ實際取引ヲ繼續セシニ將來貿易增加ノ望ヲ屬スルニ足レリ信用手形ヲ添ヘテ申送リタル最後ノ注文ハ殆ト十五箇月以前ニ在リト雖モ未タ何等ノ承諾モ申來ラス復タ日本商店ハ今ニ至ルモ猶ホ一片ノ回答ヲモ爲サス

現今當市ノ該商會ハ在日本外國商館ヨリ定時物品ヲ購入シ居レリ

所謂直接貿易ニ從事スル日本商店ヨリ若干ノ貨物見本及相場ヲ得ンタメ余ハ屢々請求ニ及ヒタリシモ何等ノ回答ナク或ハ數週乃至數箇月間延引シ爲ニ該貿易ニ從事セントスル吾人ノ計營ハ當初ニ於テ既ニ失敗ニ歸シタリ

直接貿易ノ增進ニ對シ正當ニ執ラルヘキ敏活ナル方法ニ就キテ余ハ尚ホ未タ十分說明スルコト能ハス余ハ此目的ヲ達センカタメ五月下旬ヨリ八月中旬マテ日本渡航ノ企ニ就キテハ帝國農商務ノ指揮ヲ俟チテ決セン筈ナリ（以上十二月八日附）（完）

六七月中注文の利益

幾萬種石鹼の親玉

獨逸石鹼（どいつしやぼん）

は大木商店化粧品部の發賣にして今日より以降各地小間物商各位の深厚なる御愛顧を希ふべき化粧用衛生用の石鹼なり其品質の精良なるは勿論總て善良無比なるは玆に本舖の自賛を要せず自然各位の實見により判明する處なり

本舖は本品發賣披露の爲め且は將來の御引立を仰がんが爲め玆に六七月中申込の御注文に限り特に**卸直段**を**廉**にし**左記の特約を附す**向は各便利店に就て御申込あらば販賣御望みの向は此際本舖或は各便利店に就て御申込あらば利益常に千倍す

規則直段

一打以上（函三個入四函）七拾八錢　五打以上七拾七錢　十打以上七拾六錢　卅打以上七拾參錢

一　左の特約は明治卅六年六七月中に獨逸石鹼を一打以上一時に本舖及び左記の各販賣店より御買取相成たる向に限り實行候事

二　右期限中の御注文に限り右規則に不拘卸價を引下げ御注文に相應じ止むなき場合の外直上せず永く同價にて御取引可仕事　但し期月以降の御注文は本舖に於ては堅く規則に回復す

三　本舖は擴張の爲め本品廣告を當市下及び其他の新聞雜誌へ掲載し又は路傍看板等掲示の節には便利店名に限り都合上文字の大小に不拘拜借可致事

四　一時に卅打入（壹箱）を貳箱以上御注文の方を以て獨逸石鹼の便利店に相願特別割引の外年內賣額の若干分を割戾しすべし

五　便利店に限り御望みに從ひ相當なる看板其他調製進呈す

六　普通小取次と雖ども時々尊名拜借挿入す

七　今回限り左の割合にて看板引札フラフ等無代價進呈す　但し此行何れも御注文數に應じ進呈可致に付御注文の際豫め御撰び何々入用の旨御書添有之度候事

小形フラフ看板……………………一打ニ付……壹枚
引札……………貴名挿入……………二打ニ付……百枚
ボール看板………十數遍石版刷……二打ニ付……壹枚
杜掛美麗ペンキ塗木看板……………四打ニ付……壹面
大形フラフ看板……………………五打ニ付……壹枚
硝子入黒緣付額掛美麗看板………前記石版摺挿入……五打ニ付……壹面
同金緣付……………………………七打ニ付……壹枚
杜掛ケヤキ看板……………黒文字貴名入……貳十打ニ付……壹面
屋根路傍掲示鐵板ペンキ塗看板……大小各種……參十打以上……（即壹箱）
袖掛兩面石版畫入黒文字ケヤキ大石板貴名入……五十打以上

◎右に不拘最も効力ありと認むる場所へは無代價を以て看板等進呈する事あり

東京兩國廣小路（電話浪花七二三番）
本舖　五㊞圓本舖　大木口哲　卸部
東京神田大通かじ町（電話本局千百十八番）　大木口哲御賣分店
大木口哲合名會社

便利店
東京めがね橋際　國堂　同通油町村田藤七　同橫山尾上町強丸　周防三田尻（？）祐木幸助
同馬喰町平尾贊平　同銀座一丁目佐々木　富山寺田久䥂　馬關入江町秋豐堂
同橫山町角本石町　大坂心齋橋　熊本河原町
田中花王堂　博愛玉林堂　森本伊平
同鍛冶町　同橋町　名古屋　関部
田部重兵衛　丸見屋　寶樂會社　團團平七

請賣申込は此際非常の得策なり

便利店へ申込むも本舖同樣の特約あり

◉米國關稅問題の結果　米國關稅增率の原案が下院を通過してより我國の輿論は朝野共に該案を以て兩國通商善隣の好誼に悖るものとし各實業者は其意見を我當路者に呈し一面には米國に打電して其反省を促すあり然るに米國に於ては既に上院財務委員の手を放れ旬日を出でずして上院の本會議に上らんとす實に我國の爲め危機間髮を入れずとも稱すべき時期なり而して米大統領マッキンレー氏は上院議員有力者中任官の意あるを幸ひに巧に之を揄揶して是非共通過せしめんとするものゝ如く今日迄の形勢より推すも米國は終に其非を遂ぐるに至るべし果して然らんには豫想の如く一時我國よりの輸出品は大に阻害せらるべきは勿論なり然れども之を沈思するに米國は新興の國柄と云ひ世界有數の資澤國民なるを以て苛稅を負擔し居る絹織物を始め下等社會向の花莚の如き類に至る迄無限に需用心を制壓し得る事は底到望べからずして假令日米の貿易に長足の發達を見ざる迄も元形の貿易額位迄には漸次回復し來るべからんも目前大に憂慮すべき一事ありそは關稅問題の影響より我國は言を待たず歐洲各國より增稅前に輸入し置かんと米人及其他の手を以て續々輸入せられたる所の諸貨物是なり此等の貨物は今や米國市場に堆積せんとす米國人民は前後の考慮なく日頃の贅澤心より遠慮なく之を需用するなるべし其結果は大なる輸出入不平均を來すの恐れあるも現今正貨準備の乏しき米國政府は何を以て其不平均の差を補はんとするや是杞憂に屬するが如きも萬一米國にして斯る悲境に沈落せば勢ひ經濟社會の大恐慌を來し隨て我生産品は玆に不捌けと爲るのみならず米國にして恐慌起らんか經濟社會の神系過敏なる其餘波を歐洲諸市場に及ぼし遂に世界一般不景氣の一要素を造るに至るやも知るべからず向後の成行は何れにしても貿易業者は素より我實業家は豫め充分の觀察を怠るべからずと說く者あり

◉登記法改正要點　今度の司法官會議に提出せらるべき登記法改正案は既に脫稿せるのみならず其改正の要點をば各控訴院に配布して判檢事の意見を求めたることなれば司法官會議開會の上直に提出せらるべしと云ふ而して其改正要點とする所は動産に關する權利の登記にして其種類は一個條を擧げ之を列記せり中に就て重なるは賃貸借の權利小作權の如きなり從來の慣例に依れば賃貸借の如きは控訴院に於ては相互の契約に成立せるを以て相互の約束に止むとの判決例に從ひ大審院に於ては然らず賃貸借は一の權利にして當初の約束人即ち當初契約せし當時の家主と借家人との間に契約成立せし以上は借家人に賃借の權利あるを以て家主が變更したればとて濫りに家賃を上げ又は契約に反して立退を命ずるが如き事を爲し得ざるの判決例となり居れるも今回の改正は大審院の判例に從ひ又大工が家屋建築に際し其建築料を全部受取らず其殘金ある場合之を登記すれば其家屋公賣の時は大工に先取權を有する等にて之が改正の爲め動産上の權利明確となり當事者の便利は勿論判決上にも大に便宜を得べしと云へり

◉横濱に於ける紙幣流通の實況　神奈川縣知事は其筋の命に依り横濱市長に對し同市内に於ける政府紙幣及び銀行紙幣流通の景況調査方を囑託せしが右調査の結果左の如し

一　政府紙幣の多く流通するは何れの地方なるや
答　現今同市に於ける紙幣流通の割合は兌換銀行券其九分五厘を占め殘り五厘の內四厘を銀行紙幣とし政府紙幣は僅かに一厘弱たるに過ざるもの丶如し

二　政府紙幣の內流通上一圓紙幣多きは何れの地方なるや
答　前項處述の如く全体に於て流通高極めて僅少なれば一圓紙幣も亦隨て少數なるべきは甚だ明瞭なりと雖も其概算に至ては容易く判知する所にあらず之を聞く正金銀行等に於て現に撥取ふ所一日僅かに數葉に過ぎずさ以て其些々たるを知るべきなり

三　政府紙幣は目下損傷せしもの多きにあらん又今後幾年間位通用に堪ふるや
答　損傷は一般の通狀なるも就中半圓以下の小紙幣最も多きを占む而して今後使用に堪へ得べき年限に至ては區々さして一定の推測を下すに由なし

四　各金庫に就き交換をなし得べきや
答　本項は是れを實行すると極めて容易なるもの丶如し

五　政府紙幣の通用を禁ずるも市場に大なる不便は感ぜざるや
答　第一項に述べたる如く紙幣の流通高洵に僅々たれば一時之を禁止するも市場に何等の不便を與へざるものと信ず

銀行紙幣は政府紙幣に比し幾分か通用高多きに居るも是亦鮮少たるを免れず其他渾て政府紙幣と略ば同一の見解なれば別に詳記せず

懷中別嬪印
百日香水

定價十五錢の物全形六分の一圖形

此一瓶を携帶する時は一百日の間馥郁として身体に奇香を放つ

濃厚製大瓶　麝香製・すみれ製　定價　五拾錢
普通製小瓶　麝香製・すみれ製　定價　拾五錢
遠國は送料共小瓶にて郵券代用二十錢を要す

意匠登錄　此香水の容器は瓶に非ず管に非ず一種新案の硝子器にして一個の鈕を添ゆれば是を襟裏懷中袂等適宜の場所へ掛置時は其上方針程の微細口より能く百日之間美妙の奇香を發し風和に從ひ身体馥郁として恰も仙境に遊ぶ思ひあらしむ如斯未曾有の新意匠品にして高尚優美衛生經濟共に完備の珍品なれば江湖の諸嬪士一ト度御實驗あらん事を乞ふ

發賣元　東京横山町二丁目化粧品問屋　田中花王堂

●御賣成規一打以上一圓二十錢●十打以上一圓十五錢●三十打以上一圓十錢
一當分の內五打に付紫色布着板二枚（廣告用引札千枚）宛の割を以て無代價呈上仕候

大賣店（御姓名いろは順）

●井筒堂●石田●博愛堂●富岡●大野●大木●尾德●脇田●龜忠●柏善●岳
善●大小●武井●玉置●莊園堂●都築●長瀨●村藤●丸善●萬金●政木●江
川●秋田屋●佐々木●ゑ善●近源●汐見●平尾●森本●宗定●杉谷

◢平尾氏近縣旅行日記

本組合員平尾贊平氏が業務擴張を兼ね得意先訪問の爲め去月十五日、埼玉、群馬、茨城其他の近縣を巡回する目的を以て出發せられし事は前號の紙上に記載の如くなるが同氏旅行先より左の日記を送られたり蓋し此等の地は東京人としては毎日若くは隔日に巡回する人さへある程なれば敢て報道の必要なきに似たりと雖も全國他の同業者諸氏に在ては或は幾分かの參考となる所もあらんかと思考し遂に二三回の紙面を割讓する事とはなしぬ

五月十五日　午前七時旅装を整へて怱々上野を發し浦和を經て上尾に至り中飯を喫し夫より桶川、鴻の巣を經て熊谷町に着、旅店清水方に一泊せり

浦和町は人口六千有餘あり流石は埼玉縣廳のある處だけありて何となく他より高尚の風あり同業者重なるもの三四軒あり毎週一回若くは二回位東京に往復する由此日縣會の開會中なりとて黒羽織又は洋服の縣連を見受たり

上尾町は川越に至る通路にして原市へ半里岩附へ二里なり町は餘り盛ならず同業者も亦僅かに一戸の盛を占むるあるのみ人口二千六百餘

桶川町は人口三千有餘、人口の比較的より見れば先づ盛なる方にて同業者の重なる者も五六名あり

鴻之巣町は人口五千有餘にして同業者も五六名ありと雖も桶川に比すれば稍々淋し

熊谷町は人口一萬二千有餘あり町數も隨分多く隨て商業も盛なり同業者重なるもの亦十數軒あり折柄養蠶の時季とて戸々蠶育に餘念なかりし想ふに此養蠶の終期即ち六月の下旬頃にも至らば町内は一層の多忙を極むると同時に又諸品の賣捌け方も盛なるべし尤も同地近邊は皆然り

同十六日　早朝熊谷町を出發、深谷、本庄、新川、藤岡等を巡回し前橋に着、旅店白井屋に一泊す

深谷町は上州堺町へ三里の地、人口六千有餘にして養蠶最も盛なり同業者七八名あれども熊谷には一歩を讓る

本庄町は人口八千有餘、秩父大宮町へ九里、馬車あり四五時間にして達すべし地の冷熱は殆ど深谷に伯仲たり

新町は同業者少なし上尾町と略ぼ相似たり

藤岡は新町より一里先づ本庄位の處たり人口七千五百餘、同業者の重なるもの七八軒あり唯鐵道線路より離るゝが故に少しく淋し

同十七日　午前前橋市中を一巡し午後より上毛鐵道馬車にて澁川に至る其間利根川の沿岸を過ぐ里程四里餘（此馬車一時間毎に發し凡そ二時間許にして達す）途中欄干なき橋上を通過するは隨分危險なり澁川に着後旅店青木某方に一泊す

前橋市は人口三萬餘上州第一の都會にして縣廳、市役所、尋常師範學校等あり同業者の重なるもの十餘名及び小間物商組合等ありて商勢最も盛なり同地に有名なる細ヶ澤の藤花滿開の折柄とて都人士の來遊も亦多かりし

澁川町は人口四千有餘にして伊香保、沼田、高崎の三方に至の要路のみならず伊香保、沼田に至るには是非とも此地を通過せざるを得ざる處なれば想ふに夏期は盛なるべく又後來有望の地と爲す同業者五六名あり

同十八日　早朝人車を傭て沼田に至る行程凡そ五里許、地勢利根川に沿ひ概ね登り路なるを以て行車速かならず午前十時過にして漸く着す（途中前橋大火の報に接す）同地一巡再び澁川に歸て後直に伊香保に至り木暮金太夫方に投宿す

沼田は人口五千八百餘にして町も亦左程長からずと雖も近在多き地なるを以て一度信用を博すれば物品の販路は隨分多き處なり同業者重なるもの五六名ありて孰れも手廣く商ひを爲しつゝあり彼の有名なる鹽原多助は此近在より出し人なりと云ふ

伊香保は人口一千に滿たざれども夏期に至れば浴客非常に多く澁川よりは行程僅かに二里許なれども登り路なるの故か車賃頗る高く且つ二人挽なれば徒歩の方却てよろし而して同地の人種は他の浴場に比し稍々質樸にして滯在の浴客を鄭重にし茶代を受ず又他の如く宿料として定むるなく只食料、夜着料等の區別を以て代金を取るなり尤も盛は盛と雖も浴室及家屋の建築は日光、箱根等に劣ること數等併し榛名、赤城の諸山を望むの景色は頗る佳なり（榛名湖は此地を距る二里の處に在り）同業者は皆小賣專務の商店のみ（未完）

義士外傳 忠僕直助傳　第二席

錦城齋貞玉 講演
今村次郎 速記

扨殿樣江戸詰の時は。城代家老又は元老等を上席に据えまして。一家中を集め夜の更るまで酒宴を致すといふのが例のやうでございました。當年は殿樣江戸詰に付いて。城代大石内藏之助が上席に坐し。元老大野九郎兵衛。續いて原將監。玉虫七郎右衛門。其他大勢居列び。月の宴といひながら當日は正午過より集まりました。扨酒宴も闌はになりまする時に。九郎兵衛は最前より岡島に目を附て居りましたが。前申上ます通り八十右衛門は至つて身貧でございますゆゑ。人中へ出るのにも是といふ美服もなくいたしまするから。何となく跡へ下りますのは人情でございます。九郎兵衛は態と　九「岡嶋一献進ぜやう　八「有難う存じます　九「當日は快晴で至極結構にございます　九「例年月の宴を開くといへど。どうも快晴は誠に少なく。宜く人の申す十三夜に曇りなしなどゝいふが。どうも十五夜は例も雲が邪魔をして往ぬが。當年は晴々として此樣子では今宵は嘸見事であらうと存ずる。アー外ではないが岡嶋。貴公は大分刀劍の鑑定がえらいといふ事だが左樣かへ　八「恐れ入りました。中々刀劍鑑定を致すといふ事は出來得るものではございませんが。嗜でございますゆゑ宜く人々が種々見せて呉れられます　九「イヤ夫がえらい。人が見て貰はうといふには餘程目が屆かんければ然うはならぬはづだ。幸ひ是に蓄はへた腰の物。酒の肴に一ッ鑑定をして貰ひたいと傍にあつた腰の物を岡嶋の前へ出しました。八十右衛門も無理に斷つて終へば宜つたが夫が嗜な事あり。殊に元老のお腰の物兼々御自慢をなさるといふ事ゆゑ。どういふ御拵らへかと思つて居る品ゆゑ。左樣ならばお言葉に從ひ拜見を致しますと。手に取りましたのが間違ひの原因でございます。見ると拵らへは縁頭切羽はいさ何れも赤銅を用ひ。柄は茶絲の片手龍鞘は蠟色の光澤消し。丸こじりで極上品に出來て居ります。老人の差すのには申分はございません。人々に挨拶をし鞘を拂ひまして差裏差表を帽子切先の樣子まで打返して見ましたが實に嚴寒の氷を打割ました如く。夏猶寒き氷の刄とは斯ふいふ品をいふのでございませう。稍あつて鞘に納め押戴いて大野の前へ差置き　八「實に結構な御寶でございます。拜見を仕一ッの德を得ました。拙者の愚眼では三條小鍛治二代目宗近と鑑定仕ましたが。若し間違ましたらお笑ひ下し置かれまするやう　九「ウーム是は恐れ入つた。只一目したばかりで是まで小鍛治と申すものもあつたが初代二代を見分るといふは實に本阿彌も遠く及ばない位である。八十右衛門間違はぬ。二代目宗近じや。併し一目して斯樣に鑑定を下す其方なら。嘸腰の物も立派であらう。九郎兵衛心得の爲め拜見を致したい」と思ひ掛ない望みに八十右衛門胸中ゞ驚いた。何故かといふと常から刀脇差に心掛のない人ではございませんが。何分勝手元が宜しくないから能い物が差せない。就中今日は番差同樣のものを差して居りますゆゑ。此の大勢の中へ現はして赤面をするのも辛いと思ふも尤も　八「是は恐れ入りました。元老の仰せ中々貧公へ御覽に供へまするやうなものを。小身の八十右衛門貯へて居らう筈はございません。此儀はかりは眞平御免下されますやう　九「イヤ／＼侍が腰の物を見るといふのも見せるといふも別に笑ふべき處はない。又小身と其方申すが百石以上は小身とは申されまい。夫れ戰場へ出る時は五騎の騎馬武者を連れ一方に五十人を支配するが百石以上の侍分と申す者だ況して人の腰の物を鑑定せる位な其方が鈍刀を差して居る筈はない。どうぞ是非見せて呉れと大野の詞を聞くが否。兼て何かあつたらばと待構へて居た若侍。茲で錢儲けの邪魔をされた意趣返しをする時と思ひ　甲「岡嶋氏／＼元老の仰を背ひては御爲に相成まい。御覽に御入なされ　乙「サア／＼早く御見せ申たら宜しからうと勸める者もある中に。一人早くも岡嶋の腰の物を大野の前へ持て出で　甲「是が彼の八十右衛門の腰の物でござる　九「ハヽア左樣か拜見いたすぞと微笑しながら取上げて見ると。鞘は禿て居る柄絲はどれて居る。其上を觀世捻でからげてあります。何處といつて見處もない極疎末な品でございます　九郎兵衛は打返し／＼見て居たが　九「各々方必らず此の拵らへの疎末をお笑ひなさるな。侍は中身を以て御奉公を致せば宜い物で鞘は禿ても身は光る。誠の侍は中身へ心を込めて居れば相濟む者だ。と云ひながら拔うとしたが中々拔けません。漸々の事で力任せに拔きました。見ると中身は眞赤に鏽て居りましたから一同はアッと驚く。八十右衛門も眞赤に成つて俯向ひて居りました

今般藥店ニ於テ㊀印かもし勉強致スル廣告仕候所已ニ有之候故直チニ御遞送申上居ヨリ陸續御注文ヨリ勉強ノ物ト御注文ニ不應ニ付右ノ次第ニ候ヘ此先キ多分ノ御注文ニ不應ニ候ハヽ引請ル見込無之候故種々心配致シ今回製造場ヲ數軒設ケ其職工ニ大ヒニ増加致候ニ付何程ノ大文ニテモ差支無之候間何卒多少ニ不限御注文ノ程偏ニ奉願上候也

當世流行
丸三形
石丸三形山人之義今般愛美ノ流行ニ其原料ヘ上等ノ豆ヲ以テ是迄類ヤ紺土佐紙ニ製セル物故何卒多少ニ不限御注文被仰度此段本願上候

東京日本橋區通油町
小間物問屋村田藤七
かもし元毛賣買仕候
松澤八右衛門

保驗附
新製薄荷
雪南
麝香
水香
吸
パイプ

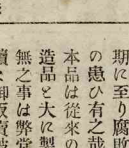
革煙草入類
煙管筒類
卷葉入銀貨入類
袋物類
手提鞄肩掛類
問屋
東京通油町
大和屋
小林藤兵衛
（電話浪花二百〇七番）

●櫻の花と流行の香。
烟燈と映滿たる櫻の花にても句ひなきを惜む人多かるべし茲に其香料の王たる云べきを大坂市東區中野町二丁目田中兵衛方にて製造する浪花麝香と稱するものなり該品は近來衞生家及び紳士貴婦人達には專ら流行品として御需用下さるべし香料にして價一〇一五錢と五十錢と特別品は一圓なりまた個家の君の香と申す句ひ袋へ淡か帶に着するものなれさと用ひるべし

去ル二日亡夫忠兵衛葬送ノ節ハ遠路之處態々御會葬被成下難有奉感謝候混雜之際自然御尊名伺洩モ可有之依テ乍略儀紙上ヲ以テ御厚禮申上候

明治三十年六月五日
前川トキ
親戚一同

新輸入化粧香料廣告



人造麝香薔薇（一名モスローズ）
佛國巴里府ヌーピーフレザー會社
定價
高等金拾錢
高等金廿錢
高等彩色付燒壺入
高等彩色付燒壺入
高等金三拾錢
高等金五拾錢
高等彩色燒付壺入
高等金壹圓
東京市日本橋區本石町四丁目
大發賣元
芳香藥種問屋
松澤常吉
化粧品部

日本特約一手賣元
東京小間物問屋各店
特約販賣
關西代理店
大坂市久宝寺町三
小栗小三郎
大坂市中町
飯田皆治堂
取次所全國到る所藥店及小間物店に有

新發明化粧品元祖西洋花入人造麝香入り
乙女肌ニ付注意
此乙女肌は冬期の販賣品とのみ御承知の御人有之哉に候得共本品は白粉下に用ひて最も有効なる製劑なれば夏冬共御使用あれは皮膚の軟密に光澤を顯し且つ多量の人造麝香を配合すれば使用後香氣馥郁として白袋を携帶するが如くなれば夏期に至り候共續々賣行あるは發賣以來御販賣諸君の既に御承知候得共新規御販賣者に在ては夏期に至り腐敗變色或は香氣消滅等の患ひ有之哉に御擬念有之候得共本品は從來の花從又は同種類の模造品と大に製方異なれば右等の患無之事は弊堂の確証する所なれは續く御販賣被下度奉希上候
東京日本橋區横山町一丁目
内外有名化粧品御問屋
田中花王堂

定價
罐入五錢
袋入壹
東京
大野金城堂
製造元

○大阪の家屋建築規則　曾て建野郷三氏が大阪府知事たりし頃長屋建築規則なるものを設け專ら下等社會の住居に充る長屋の建築を取締り名高き長町の不潔地も此規則勵行の爲め大いに其面目を一新するに至りたるが昨今に至り長屋の外一般家屋の建築に就て一の規則を制定せざるを得ざるに至りたり即ち同地心齋橋筋の如き各種の商店軒を幷べて互ひに營業上の競爭を爲す中にも時計商ハ非常に廣大なる家屋を建築し多くは煉瓦三四層の構造なれども近時建築材料幷びに手間賃高直の爲め建築方ハ頗る粗末にして若し一朝非常の暴風雨又ハ強震等のあらんには忽ち崩壞の恐れありて近隣の危險言ふべからず又松島遊廓の料理店源長の如き客足を引く爲め今度地中に一室を設け其天井にガラスにて造り此上に金魚其他の魚類を飼養せんとの計畫あり又同地貸坐敷なる敷島樓ハ三層造りにて其上に土砂をあげ此處に樹木を植込みて一庭園を設け既に遊客の逍遥するあり平野町神明前の勸工場にても之に見倣ひ同樣の建築を出願せるなど續々斯る設計を爲し又地所の騰貴と共に三層以上の家屋增加し危險の豫防上幷びに衛生上打捨て置くべきにあらざれバ保安課にてハ今度新たに家屋建築規則を制定し長屋建築も此内に含有せしめ今後家屋の建築ハ總て其筋に屆出で警官檢査の上之を認許せん筈にて目下法文の起草中なりと云ふ

○清國新開市場重慶現況　馬關條約の結果に依り新に開かれたる清國四川省重慶府の現況に付此ほど歸朝せる重慶領事加藤義三氏の談話要領左の如し

△地味豐饒　重慶府ハ揚子江の上流に位し戸數三萬人口十三萬あり土地豐饒にして金山あり石油あり利に聰き英、米、佛各國人ハ昨年來商業視察として同地に至り事業を起さんとするの計畫ある由兎に角同地ハ將來有望の土地にして一朝交通の便開くる時ハ一大市場となるハ必然の形勢なるも今日の處宜陽、重慶間の交通不便なるが爲め工業起らず商業も至つて萎靡不振の景況なり

△交通の便を計るにあり　今日の處宜陽、重慶間ハ交通至て不便にして滊船の便なく物を運送し或ハ人民の往來するにも日本の帆前船の如きものなれバ其不便甚だしく重慶より宜陽に下るに（約四百五十哩）十四五日間の日數を費し上る時ハ殆んど一ケ月位の日數を費す程なれバ其不便云はん方なし之が爲め重慶の商業も發達せざるに依り目下宜陽と重慶間に汽船を設くるの議起り其調査中なれバ遠からず滊船の便を見るに至るべし然る上ハ本邦商人も大いに同地に向て我產物を輸出し同地產出の品物と交換し彼我の利益を計らざるべからず

△本邦輸出重要品　重慶府に向て本邦輸出品の最も重なるものハ第一海產物第二棉布類第三紡績絲其他雜貨類なり特に棉布類ハ需要者多く同地に向て昨年輸入せし金額ハ實に五十六萬零二百六十二兩なりと云ふ

△重慶府輸出品　重慶府輸出品の重なるものハ豚毛、大麻、生革、藥材、麝香、五倍子、紅花、生絲、野蠶絲、繭、山羊皮、赤砂糖、羊毛、白臘等にして產出物ハ中々饒多なりと云ふ

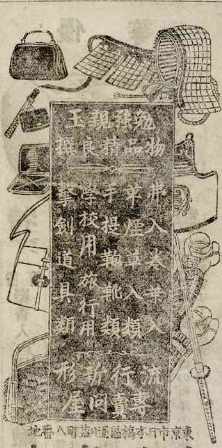
△外國商店　目下重慶府に外國商店とも云ふべきものハ英、輸出入運輸業を營む者三軒（內二軒ハ支那人代理）獨、輸出入業一軒、佛、同一軒米運輸業一軒（支那人代理）等にして他の外國商店ハ之なしと云ふ

△本邦居留地　英國人ハ重慶府城中に雜居し支那人同樣に商業を營み土地所有の權利を有するにより今日の處本邦も居留地なるものを確定せず英國條約に均霑し城中に雜居し英國人同樣の權利を有する方本邦人の利益なりとの事にて其筋にても未だ同地にハ居留地を確定せざる由

△摺附木と硝子製造　本邦人が同地に來りて事業を起さんとするにハ先づ一に摺附木の製造業か又ハ硝子製造業抔最も宜かるべく或ハ一大利益を得るに至らんか兎に角重慶府ハ天富の土地にして將來有望の場所なりといへり

弊店販賣之諸品は何れも實用的堅固を旨とし就中鞄靴類及び撃劍道具類其他諸品精良なる原料を撰み加ふるに精巧手練の職工を以て確實ある物品を調製し專ら薄利を極め價額の廉價を主とし他舗に一歩も不讓を確證す

社會の進歩と共に新形流行品を整製專賣す



東京市日本橋區通油町八番地
木津常吉

●支店開業廣告●

今般業務一層擴張開店致し候就ては爾後多少に拘らず廉直販賣仕候間舊に倍し御引立の程奉願上候

皇國舶來　珊瑚珠樹問屋　大阪市南區大寶寺町　小栗勘兵衛　本店

珊瑚珠樹（根掛ケ玉　紅白枝置物　簪玉　緒締玉　珠數）

珊瑚彫刻（美術置物　根付ケ　ボタン　半掛ケ　印材　束髮簪　指環　軸フーチン　帶止メ　時計飾品）

此他珊瑚一切御好みに應ず

明治三十年四月　東京市馬喰町三丁目　小栗支店

諸官省御用　●全國五二一會品評會に於て進歩銅牌受領

人印石蠟は光力非常に強く炎上油煙なし且保つ時間長く故に經濟上に利益あること在來の蠟燭に比し殆ど二倍強に當る且原料は我國の礦質なれバ臭氣なく極めて清淨なるを以て神佛燈火及養蠶家には光適し殊に美麗なるを以御進物等に宜し

西洋形六時間大形五時間中形四時間小形三時間　持受合

製造發賣元東京馬喰町二丁目

花王石鹼本舗（電話九二二）長瀨富郎

市内は十挺以上配達し市外十錢送れ見本郵送可仕候
近來類似あり人印商標長瀨富郎名義に御注意乞

●農工銀行の設立期　勸業銀行設立せし以上は相關聯せる農工銀行の設立を見ざれば營業の目的を達する能はず去れば同行に一段落を告るを待て第十議會にて政府委員の答辯せし如く七月一日頃設立委員を任命し規約定款等を確定せしめ株主を募集し來年一月頃より營業せしめんとするの順序なるが各地其事情を異にする者ありと雖も大体の方針に於て同一あらざるべからざるより今度開會の地方官會議に於て右農工銀行に關する諸般の打合を爲す都合なりと云ふ而して設立委員は各地方官が指名して大藏大臣の許可を待つものなれば委員推撰の方法若くは標準資格等に付て協議を遂げ尚大藏省の意見をも訓示する運なりと云へり

●日本銀行利子引上に就て　近時經濟界の一問題たる日本銀行貸附利子引上げの事は金融市場の前途益々繁忙なるべきことを察し愈々近日より當所貸附一厘方引上ぐる事に確定せし由の說あり當事者に就て其實否を糺すも素より發表前に之を明言すべき筈なけれど聞く所に據れば金融市場例年に反し先々月末より逼迫せしは諸會社株金拂込等の湊合せし事幾分の原因を爲せるも其最大原因は勸業銀行株式應募の證據金に巨額の資金を要したる變況に外ならずして其過剩金も昨今割戻さるゝ事となりたれば右割戻し濟となり常態に復したる後に至り通常の商工業に要する資金益す多くして前途繁忙の傾きあらんには早晩日本銀行は昨年來差扣へ居たる利子引上げを決行する事あるべしと雖も今日直に引上るが如きことは萬萬なかるべしと云ふ者あり

●最近登錄商標摘要

●品名、擬珊瑚　雙鉤平假名「ひさひたま」の五字　大阪府　西川伊兵衛

●品名、藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、藤黄「アニリン」染料及顏料　中間に一太線を挾みたる子母三線を以て圓形の欄を劃し欄内には背部を向けて兩翅を擴げたる一匹の蝶を描きたるもの　横濱及神戶居留地獨逸國「グロッセル」商會業務擔當社員　フリッツ、グロッセル

●品名同上　數箇の花を有する唐草形を挾み内外數條の線より成る縱長方形の輪廓内に車輪を有する臺上に一匹の鯛が左方に向ひ又臺の周邊には波紋を有し前面の中央には一箇の鐶ありて之に總附を附したる玩具と右下方に三ツ巴の周邊に數箇の小圓點を附したる圖及鳴子を有せる玩弄物の太鼓を置き又鯛の左右には各々數多の葉花を有する一枝の菊を畫き欄内上部には七寶繋の圖を顯し其面上に掛けて數重に屈折して斜に二面を表せる巾形を置き又欄内の下部に一線を畫して横長方形欄を設け欄内上部左方に少しく輪廓に掛けて並列したる三角形及凹凸形を挾みて三線より成る縱長方形の額を置き上方左隅は恰も重掛けたる種々の模樣ある縱長きもの、一隅を少し折返して裏面を表し此額面の中央に菱形の内に圓形のものを劃し圓形と斜方形との間は鈎針形の模樣ありて而して圓形の中には羅馬字AGFの三字を重ねて記したるもの　同人

●品名同上　中間に數多の弧三角狀のものを連列塡充せる縱長方形欄を設け欄内には雜草及樹木の生じたる地上に一頭は首部を出し一頭は全部を顯せる二頭の象が右向せる圖を畫き其左下方には屈曲せる帶形の欄ありて右下方には鱗形を組合せて塡充したる縱長方形狀の區劃を設け内に上下に扇狀のものを有する圓形を設け該圓形の内に羅馬字AGFの三字を組合せたるものを書し上方扇狀のものゝ上部に接して直立せる樹木を畫き又周欄上部には横長き一條の區劃を設けたるもの　同人

●品名同上　一太線を挾み内外數條の線より成りたる縱長方形の輪廓を作り其太線の面には楓葉の如きものを排列し輪廓内の左方中部より一本の幹を右方の横に出し其上に一番の孔雀の止まれる有樣を畫けり雄は左方に面し頭を高く舉け尾は下方に垂下して輪廓下邊の上を掩へり雌は姿勢を正面に維持し頭を舉けて左方を眺め居れり其後面には大なる熱帶地方植物の葉數葉を畫き下方にも熱帶地方の草叢生せり輪廓内上邊に横長方形を設け又其右方中部には數段に屈折して斜に二面を顯せる巾形を置き又其左下隅に

◎一滴の香水は他の舶來香水數十滴を壓し尚且十數日を保つ

TRADE MARK

米國最上わし印

香水

●リーリーヲフゼバレー　●一カルロン入
●ホワイトローズ　●一ポンド入
●スパニスリラック　●大瓶及小瓶
●パイヲーレット　●並ニ懷中持

右四品ハ有名ナル米國香水製造會社ウードウオルス氏製品ニシテ歐米各國ニ於テ上流ノ會ニ賞用セラル、處ノ佳品ナリ渉試用之上渉愛顧アラン事ヲ乞フ

ウードウオルス氏製品

日本一手販賣所　大阪市西區薩摩堀北之町　吉野商會

代理店　大阪市東區道修町三丁目　森政七

關東代理店　東京日本橋區馬喰町一丁目　平尾贊平

●全國到る處の小間物店及賣藥店にあり

●佛國「ペレーツ」會社製造

金猫印

定價大三十錢小二十錢新小十錢

●此新輸入人造麝香（モスクノール）ハ歐米紳士淑女ノ間ニ最モ珍重サル、所ノ品ニシテ品質純良芳香卓絶ナルコトハ從來坊間ニ販賣スル所ノ品トハ大ニ異レリ

●本品ハ製造元特約ニシテ直輸入ナレバ隨テ原價モ廉ク且ツ薄利ヲ以販賣スレバ香料ノ可否量目ノ輕重御比較アランコトヲ

●前陳ノ如ク現品月鼈ノ差アレバ（モスクノール）金猫印並ニ（宮野入）ノ三點ニ能ク御注目アランコトヲ

●日本直輸入元　宮野入藥舖

●全國一手販賣元　東京横山町二丁目化粧品問屋　田中花王堂

●大販賣　東京神田花房町　山崎帝國堂

●御賣藥卸商組合御中
小間物卸商組合御中

發明特許願
商標登錄願
意匠登錄願

東京市京橋　特許事務所　手數料安　鑑定料無

優等麝香入

特別練製

優等麝香入高評石鹼　定價　壹號一個廿五錢　貳號一個十五錢

抑此石鹼は世間在來の物と大に其質を異にし純好なる原料に純性麝香を混和せるを以て芳香佳烈一たび用ゆれば皮膚滑かに色澤を加へ一種得ならぬ匂を含み其爽快なる云ふ斗りなし夙に江湖貴紳の高評を博し日一日需用の増加するは實に社名に背かざるを以てなり乞ふ益々渉愛顧渉試用之程伏而奉希望候

發賣元　東京市神田區柳原川岸十八番地　小林富治郎

市內は勿論全國到る處の和洋小間物店及藥舖に販賣致し居候間最寄にて御購求を乞ふ

一個の縱長方形を置きたるもの

同　　人

●品名同上　內外數線間に菱形及二ッ巴の楕圓狀のものを以て裝飾とせる縱長方形の輪廓中に熱帶國の河岸に棕櫚の如き植物及水草の茂れる景を畫き其上方に左向せる一頭の犀を畫き其上部左方に屈折して斜に二段に其面を表せる布形を置き下部には輪廓に接し全長に橫長方形の欄を設け又輪廓內の右側の中央より下部に並列せる三角形及凹凸形を挾み三線より成る縱長方形の額を置き其上方左隅ハ垂掛けたる種々の摸樣ある縱長きもの丶一隅を少し折返して裏面を表したる狀と爲し此額面の中央に菱形の內に圓形のものを劃し圓形と斜方形との間は鈎針形の摸樣あり而して圓形の中にハ羅馬字*AGF*の三字を重て記したるもの

同　　人

●品名同上　單線を以て四隅の外角を削り四隅の內方にハ各々一箇の小球を設けて成りたる欄內に桃太郎を畫き其前面には曲線狀の脚を有し周圍を圓く繰りたる臺の上に寶槌、鍵、珊瑚、寶球、箕、笠等の寶物を滿載せり桃太郎ハ其右後方に位置を占め鉢卷を爲し左方斜に寶物を眺め右手に桃實を畫ける扇を胸部に於て開ひて持ち左手ハ膝の上に置き襷を掛け長刀を橫へ井桁狀の摸樣ある衣を着し背にハ竿頭に桃實の附着したる「日本一」と記せる幟を挿み床几に腰を打掛け右足の部は寶物臺の陰に隱れたり圖の左上方に單線より成る橫長方形欄を設けたるもの

同　　人

●品名同上　數條の線より成りたる長方形欄を作り其欄內に櫻花に錦鷄鳥を畫きたるものにして雄の一匹ハ左より右上部へ斜出せる櫻の古木の上に止まり體を左方に向け頭を右下方に轉じ樹下より半現れたる雌ハ右足を擧け頭を左上方に轉じ以て雄と相面せり其周圍には數多の櫻の滿開せる花蕾及葉を以て塡塞せり又欄內の左上方に左上隅を折返したる長方形を設け又左下方にハ一本の長き帶形を數重に屈折して三箇の橫長方形を作りたるもの

同　　人

●品名、護謨玉　一線縱長方形欄內上部に各々一匹の獅子か唐草の上に立ち尾を揚け前両足にて一の球を擁したるの圖を畫き其左下方に蔓唐草を顯し欄內中央部分に斜欄を設け其右隅にハ各種の摸樣を施したる四分圓を顯したるもの

大阪府　小　野　由　松

●品名、麝香、薔薇香水、香油、煉油、灶香、煉香　上部に人造と列記し其下方に麝香薔薇と各々行書にて書下し其右方に平假名にて「ばらじやかう」と振假名を附したるもの

東京府　松　澤　常　吉

●品名、藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、緑靑、燒靑、洋靛、白粉、胡粉、藤黃「アニリン」染料及顏料　五條の線より成る縱長方形欄內上部に風船の下半部を顯し該風船ハ右方に光線を發射せる太陽形を描きたる旗と左方に「パラシユート」とを有し風船より垂下せる皮紐の如きものを腰部及腿に括附け左手に兩眼鏡右手に鉛筆を持ち圖板を胸下に橫たへ體を正面に向けて立ちたる一人の軍人を畫き其右方に砲煙と二羽の飛翔せる鳥とを顯し左方にハ砲煙中より光線の一部現れたる樣と二羽の飛翔せる鳥とを顯し下部一面に砲煙の靉ける樣を畫きたるもの

橫濱及神戶居留地獨逸國「シモン、エバース」商會業務擔當社員　マックス、カウフマン

●品名同上　子毋線より成る縱長方形欄內左下方より稍〻右方に向けて具足櫃の上に具足を飾りたる圖を描き該櫃の面に前の字を記し其左側に旗竿薙刀及十字形の槍各々一本を交叉して立て右側にハ弦を張りたる一本の弓を具足に立掛け下部にハ刀劍、矢、鋒各々二本、毛鞘の太刀鐵砲各々一箇を橫置し右方には靉ける雲の上方に折曲れる城廓を書き之に二層或ハ三層の樓閣及數株の樹木を顯し其上方に山嶽を畫き尙は其上方にハ二重線より成る曲尺形を以て縱長方形の區畫を爲し該區畫內には數多の花及葉を有する一本の櫻樹を左上方に向けて斜に畫き欄內左上方には光線を發射せる太陽形の面に一帶の浮雲の橫はりたる樣を顯したるもの

同　　人

●品名、白粉下、香油、香水　子毋線橫長方形欄內右方に一本の松樹を畫き該松樹には中央部分に一の羽衣を懸け其左方に富士山を現し富士山の面上なる中央に平假名交り行書にて「富士の水」と斜記し左下方には霞、右上方には中央に一の新月形を有する圓点を現したるもの

東京府　馬　嶋　　直

●品名、紅、白粉、染歯料、白毛染、毛生際染　一輪の單瓣櫻花形を畫き其面內正中に平假名「の」の字を記したるもの

同　守　田　重　兵　衛

●品名、香油、香袋、香水　二重線より成る圓形欄內に霞を帶たる富士山を畫き其上部に雲形を配置したるもの

同　守　田　治　兵　衛

●品名、歯磨、洗粉　獅子印の文字

同　守　田　重　兵　衛

同　小　林　富　次　郎

醫學士稻生悌先生新方

登錄商標

さくら石鹼

蜂蜜石鹼

定價　櫻石鹼　一個十錢郵稅二錢
蜂蜜石鹼　一個十五錢郵稅同

○肌を濃にし色を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しにきび、はたけ、しもやけ、あせも、水むし、できもの其他皮膚病一切に大功あり尙注意近來類似の贋品を販賣する者有之に付商標下名篤と尙改の上尙求被下度候

麝香入里設林石鹼　殺虫防疫洗濯石鹼

東京市芝區金杉川口町廿二番地　製造本舖　鈴木保五郎

鬼外堂發賣　高等白粉の口上

中村福助丈撰定原料　小町紅付　うふ梅　ときわおしろい
○一瓶箱入價金十錢二瓶桐箱入廿五錢懷中持十錢

御用品　登錄商標　梅が香　ときわおしろい
○一瓶桐箱入十二錢二瓶入三十錢特製二瓶入十五錢

尾上菊五郎新意匠　菊の露　小町紅付　おしろい
○一瓶入十錢大瓶廿錢二個入廿五錢懷中持十錢

弊堂發賣おしろい類原料は總て斯道の學士藥劑師等が製法を擔任致候故無責任出放題廣告ハ不仕是弊堂の特色なり○○○○又意匠裝飾に至りてハ尾上菊五郎市川團十郎其他美術會員諸君に謀り調製致候故に他品より高尙優美なる事弊店の大特色也○○○○尙又諸品賣價の低廉なる事實以て弊堂の大々特色也

御紅付おしろい開祖　東京新橋宗十郎町　藥劑師野田先生白粉　伊東鬼外堂謹白

製造場擔任者

特約大販賣店　東京銀坐　佐々木
仝橫山町二　江川支店
仝通塩町　大和屋
仝橘町四　丸見屋
仝橫山町二　花王堂
仝馬喰町　平尾
麴町三　田部
橫山町　柏屋

第四回內國勸業博覽會受賞　新發明專賣特許　雲井織　一名政良齋の子

御婦人用（花元結手柄　半衿えり地　帶かは帶揚）▲金入り　▲金なし

織元　京都　坂根兄弟商會

製造元　江州川並　外村新五郎

販賣元　京都烏丸六角下ル　加納作之助

この雲井織と稱するは弊店が多年の經驗と幾多の苦辛とを積み漸やく玆に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其体裁と效用の大略を述べんに該品は從來に於ける三浦絞の類なれ共器械を以て縮めたる一種の新發明に依て頗る町に非ず又絞りたるにも非ず即ち一嚀に之を織成したるものなれば假令油染え或は汚れたり共清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戾るのみならず絲染料共に充分其精を撰びつゝあるが故に幾度洗ふとも夫が爲め地質を損し又ハ伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の道にも適ひ猶且其色合ハ季節向何れも御好み次第に之有り何卒一度御試用の上陸續御注文の程伏而奉願候

東京發賣元　日本橋區橘町四丁目電話浪花四四八番　丸見屋善兵衛

特約大販賣　日本橋區橫山町一丁目　天野源七

特約大販賣　日本橋區橫山町二丁目　森本支店

特約東京小間物問屋各店

其他全國到る處の小間物店呉服店に販賣仕候

又古志ゝべ

◉近世奇跡考（抄錄）

○榎本其角傳

寛文元年正月十七日生る、獨本は母方の姓と云ふ、本姓は竹内下（一に竹内ともいふ）云ふ其爪庵も說なり）父を東順と云ふ、江州堅田の人、始て醫を以て某侯に仕へて後隱居となる、曾て和歌連歌俳諧をたしひ（中良八郎左衛門正春を師とす）元祿六年八月廿八日歿す、享年七十二（芭蕉庵其傳を作る）母ハ貞享四年四月八日歿す、其角幼年の時、神田お玉が池にすみ、幼名を源助（一に源藏と云ふ）といひしと云（冠雲翁の說なり）延寶のはじめ、桃青門人となり、俳諧を學びしより「五元集」に見ゆ（「十四五歲の時に わたれり」「硯賓二十歌仙」「田舍の句合」等に螺舍あるひハ螺子とあり、初名なるべし（一に螺たゝ ひしかの「つゝき原」に鰍角もこけり「江戸鹿子」に鰍鶴とあるハ誤りなるべ、晉其角と稱せしハ「蕉經」に晉其角、とあるにもとづけり、實晉癡、米元章が硯に銘たる文字なり、其視を轉て、實晉の二字、實光潛子と云ふ如くかなへりとて、佐左郎に圖頌をかゝしめて庵にかけ、則ち實晉翁と號せしより「五元集」に見ゆ、幼年より儒を寛會先生に學び、後、醫を玄朔に學び、書は玄龍に學びて後一家の風を大嶽和尚に學ぶ、書は玄龍に學びて後、自てれ丸町（實名堀江町）木魚を商ふ家のうらにすみて狂歌堂を號す、眞摯の碩學雪（此號眼部倉兵衛）破笠（この時小川半助）等、其角と同居せしより「破笠日記」および古柏庭日記「老のたのしみ」等に見ゆ「江戸鹿子」「江戸圖鑑」等に其角が住所堀江町とあるは、則ちてれ丸町の事なり、幼年より此に住しなほ住し、元祿三年板「いつを昔」に居を うつしてとかきて

屋にもやがてなじまん冬籠

とあれば、元祿三年の冬、てれ丸町よりいづくへか、轉宅せしなり「五元集」に神明町に居をうつしてとかきて

行合の松もかたをぎかざり竹

とあるを考ふるに、てれ丸町より神明町へ轉宅して、あくる春の句なられ「皮籠摺」に六月廿日居を轉じて、竹三竿を ゑゐつけたるに、頃にはゝとろびたる磬わりてとかきて、句あるは、元祿十一年の事なり、しかれ ば元祿十一年六月廿日、神明町を轉宅せしならん「同書」年叔が句のはゝ、きに、晉子南港にうつり、竹を植て有り居と號すとあり、南港とあれば、神明町を轉宅せしも、芝邊のやうにおもはる、元祿十一年十二月十日、泡魚の炙ひにあひて、家をうしなひたるよし「焦尾琴」の序にあるは、かの南港に居住の時なるべし（焦尾琴の跋と見るに其頃に寄すあり）「五元集」に類燒の頃、邊鄙の居を問ひて、一樽に鶴卵をおくる人にとかきて、句あれば、彼の芝邊に類燒の後、しばらく邊鄙に住しとおぼし、邊鄙といふは何れの所とも詳らかならず「和漢文操」に其角が號「類柑子」等を見れば、雷柱子とあり「うら若集」に類柑子等を見れば、涉川ともいへり、又狂雷堂、六鼇庵、善庇庵、令庵、元祿十年歲旦帳（とある）等の語號あり、書名を蟹子といひしは、折にふれての戲號なるべし、元祿のすゑ茅場町藥師堂の邊に住ね（類柑子に草庵の記あり）そのちかきあたり、植木店といふ所に徂來先生の家あり、其角が口すさみに

梅が香や隣は狩生魏ヶ衛門

此句いづれの集にも見へ ざれども、もつはら人口に膾れり、實否はしらず、寶永四年丁亥二月廿日歿す、享年四十七、二本榎上、行寺に葬る、法名寛覺居士、又深川霊下町長慶寺に墓碑あり、其角病床に書きし、無眼の達摩一紙をうづむと「類柑子」に見る

（以下嗣出）

○貴嬢紳士必需の香料廣告

人造麝香

商標

○新小瓶價二拾錢　○小瓶價三拾五錢
○其他香具原料に用ゆる七友五分及び雪友入あり

本品は比類なき純良品にして高貴優美の芳香を放ち方今普く天下に高評を博して常に此人造麝香を携帶し身體に塗ればたゞ嗅ぐ人は到る所婦人の賞讃を受けて一層の光澤を增すなり此美人水を以て粉を御とどめ為に御化粧近ハされ候ても宜しく又御湯上りの御即ひ成され候は殊に香氣能く不淨を除き邪氣を拂ふなり

定價　小壜語金五錢中壜七錢五厘大壜拾五錢

製造本舗　東京　橫山町一丁目　通旅町　橋町四丁目　大傳馬町二丁目　東京府國橫町

販賣　大和屋　善藏　丸見屋　善兵衛　汐見屋　盛榮堂　伊勢屋　吉右衛

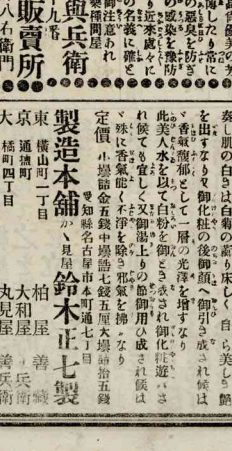
美人水白菊の露ハ其昔幇舗の祖先が京都に於て發明いたし爾後累代家傳の精製品なり此御化粧水を常に御用ひあれハ御肌へ特効を奏し肌の白きは白菊の露り床しく自ら美しを出すなり又御化粧の後顏へ御引き成され候は、香氣馥郁として一層の光澤を增すなり此美人水を以て粉を御とどめ為に御化粧近ハされ候ても宜しく又御湯上りの御即ひ成され候は殊に香氣能く不淨を除き邪氣を拂ふなり

定價　小壜語金五錢中壜七錢五厘大壜拾五錢

製造本舗　東京市内特別大販賣所

京橋區銀座三丁目　松澤八右衛門
牛込區築土八幡前　尾澤良助
神田區淺草町大通　大本合名會社
日本橋區本町三丁目　同區元大阪町　圓城半右衛門
同區元大阪町　高木與兵衛
下谷區池の端仲町　守田治兵衛
日本橋區馬喰町　平尾賛平
京橋區銀座一丁目　佐々木玄兵衛
日本橋區通一丁目　中田支店
同區本町二丁目　杉村鎌次郎
市内一ヶ所全國各地の藥店は小間物店にて取扱ひ申候
有効期限　夏冬共期限なし　方法　申込の上代金引換

○此愛さやう香は匂ひ天瓜粉のたゞくにあらず



各府縣下不問物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候
賣價元　壹等四錢　貳等二錢
富士見町　佐々木玄兵衛

キリン香水販路大擴張の稟告

世に修飾化粧の品類多なれど、誰も、凡そ男女を論せず、老幼を問はず、衛生上必として又交際上必需として、四季共に必要なる、即ち絶類なる香水、先づ其第一位を占むるもの、如し、左れば、やう、目下本邦に於て製造する所の香水は、未だ全く其製法に熟せず、或は目前の私利に迷ひ、唯外面のみ飾るものあり、或は粗製濫造して其品位低劣なるに似て、香氣を保たざる等、所謂隔靴掻痒の歎を免れざるもの多し、是を以て舶來品の拔屈に、猶来た其路を絶す、而して其跡を絶つる所以のものは、只香氣の長時間を保つ能はざるに、因て、然れども、斯の如き上製品は、其價格非常に高く、否な、是とも當今は除し其直段をいなむが故に、純粹の上等品は、絶て輸入し來らず、其輸入に係るものは、是亦、体裁社師のみにして、實際の品質は決して保証し難し、若し夫れ舶來の塩名を妄信して粗惡品を仕入なるものあり、弊舗之を慨歎すること久し、爲めに奮進練磨香水の製造に熱心を注ぎ、多年の辛酸幾多の經驗の遂に今日の好結果を得るに至りしなり、見よや諸君、弊舗製造のキリン香水は品質純精にして長時間の香氣を保つこと、毫も舶來の上等品に異ならず、若し之を舶來品と稱されば稱すべくも、弊舗は、是を以て自ら手段を講ずるに、敢て、唯に若干費を惜まず、見よや諸君、弊舗キリン印香水の他に、姑く忌憚せざるべしとせず、唯に若干費を惜まず、見よや諸君、弊舗キリン印香水の他に、水風と爲し、篠崎製キリン印の商標を附して販賣しつゝあり、是亦、高標其に悪く日超絶せる確証なり、曾て第四回勸業博覽會の時、屢〻宮内省の御賞を蒙りしのみならず、有功賞を受領し、即ち是れ証據にかゝやすや、諸君聞ふ彼の無責任なる舶來品を買ひつて、自ら其眞實を疑はざるべからず、彼の有名粗製濫造品に瞞着せられて、自ら重大の信用を失ふよりも、弊舗の如き真の平確然の責任を負へる、而も舶來品に幾等か優れるのキリン香水を販賣して、以て顧客の信用と、自己の幸福とを博取せられよ。

但し良否を試みるに大瓶の外別に簡便なる豆香水の備へあり常入用の方へ勧むべし

製造所本舗　東京日本橋區馬喰町二丁目　篠崎又兵衛

金巾はたかんば及木看板ヲ進呈

懐中用小瓶一個　金拾二錢　金壱円

御郵送申上候

御照會次第見本

キリン香水

豆形全

東海、山陰、山陽、四國、九州、各地得意樣へ謹告

各地得意樣益々盛榮ニ被爲渉奉欣賀候扨得意樣厚情ヲ忝シ陰ヲ以ヲ追々繁榮ニ趣キ候段難有奉鳴謝候右御禮旁製造品販路擴張ヲ兼テ店員板橋春三郎ヲ相爲伺候間何卒配慮被成下度候尚此上一層隆盛ニ相成候樣御引立之程乍略儀當紙上ヲ以ヲ奉懇願候

尚當社製造品ハ地方御販賣ヲ不楽内ニ付併テ本願上候

○東京日本橋區横山町二丁目　内外有名化粧品卸問屋　田中花王堂

牡丹精白粉本店

愚息芳之助儀葬送之節ハ遠路ノ處御會葬被下候段謹テ御禮申上候

明治三十年六月四日

父　汐見儀兵衛

親戚一同

美人は會高評博しなる化粧品大王

西洋各地に大流行の實に奇妙なる「無毒せる御拂化粧」別鑑如き珍しい名稱明水白粉

原品直輸入元　獨乙イヤング會社

理髮水　化粧水　寶白粉　驗髮料

妻毒やつぱり　劉顧ゐ

定價　大瓶二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢　別製上二十錢

◎此別鑑如き珍しい名稱は一目見れば只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如し行水湯あがりかゝみを用ひずして其塗ですぐに用ふるとも決してむらにならず○わせ白○ふくべ○ぬり物は立所にさるがゆゑにこれを用ひ玉はゞ人工倍の光彩を放つ

化粧品小間物齒磨問屋　東京日本橋區横山町三番地　白光散本店　㊫三橋兎喜次郎製

東京日本橋區横山町一番地　天野源七　同喰丸町四丁目　平尾賛平　同橋町四丁目　丸見屋善兵衛　同通鑑町　山田鶴三　同馬喰町三丁目　井龍三　同神田區淡路町　大木川藤合名會社

全國至る所の小間物店及び藥店に販賣所あり

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く艶を出し眞のやまとなだにもむかるる無細の垢落しなり

定價　小袋六十包入ぬれ袋付金十五錢　同詰合入紙入袋付金廿五錢　販賣廿入袋ノ方ハ詰包次第引法

地方御注文ハ通包次第引法

製造元尾崎氣氣藥堂

同第二工場　高木新助

發賣代理店　江川支店

關西特約店　海津與兵衛

大坂府久寶寺町三丁目

同　小山由藏

日本橋區馬喰町二丁目　平尾賛平

同區十軒店角　大橋博愛堂

名古屋鍛冶町三丁目　森本善七

登録商標

日本橋區橋山町二丁目　田中花王堂

同區櫛田町丁目　丸見屋善兵衛

京橋區銀坐一丁目　佐々木玄兵衛

其他販賣店ハ東京小間物卸商組合各店又ハ賣藥店ニ賣捌仕候

特約店

埼玉・群馬・栃木・茨城・四縣下同業諸君ニ謹告ス

過日貴地へ參上之節は意外の御優待に預り弊舗の面目不過之候就ては一ヽ謝狀を差出し可申の處何分にも多數の御得意樣に付き御尋名伺ひ漏れも可有御座と奉存候間乍略儀冨紙上を以て御厚禮申上候猶舊倍の御愛顧の程伏而奉願上候

明治三十年六月一日

東京市日本橋區馬喰町一丁目
小町水本店　平尾贊平
ダイヤモンド

■東京市内同業者諸君ニ謹告ス

拜啓各位愛除益奉賀候就テハ拙店儀從來ヨリ市内同業者諸君ノ御便利ヲ計リ愛注文何セトシテ時々店員ヲ差出候處本月ヨリ愛注文ノ多少ヲ論セズ層濃利益賣ヲ專一トシ愛取次ヲ上候間不相變愛願之程偏ニ願上候也頓首

再伸　萬一參上セン店員中各位ニ對シ不都合ナル事有之候節ハ遠慮ナク電話又ハ書面ニテ愛一報度尤モ時々電話參上仕ル候間其節愛申渡シ被下候テモ宜シク候也

■品川方面（次ノ麻布ヲ品川、京橋ハ八丁目ヲ本橋附近）
■麹町方面（四ツ谷、赤坂附近）
■千住方面（淺草、下谷、千住附近）
■牛込方面（外神田、本郷、小石川ハ四丁目ヲ込附近）
■本所方面（本所、深川、八町堀、靈岸町、人形町通）

賣藥化粧品類問屋
小町水本店　平尾贊平
ダイヤモンド
（電話浪花六五二番）
市中都割取締　松田勘助
市中掛割取締　岩野榮次郎
同　前田　喜三郎
同　片野　喜三郎
同　山口　保
同　羽谷　信一郎
同　瀬谷　助

貴切白粉
ダイヤモンド
共二十六錢
共二十八錢
共二十八錢
共二十八

●婦人の夏着

都下に到る所の呉服屋が今日此頃夏ものゝ買出しを見るに驚れも模様挑めの花形に新奇を喫かせて流行の風紀に餘念なきは不風流の男の眼にも感る程疑し性の内儀と除けば今年も夏の初めの扮製は先以て紬の好みとぶん狀況なり

紬の重ね　今織向きは色合ひ淺紫、薄色、赤花、襟家色、淡青、淡萌黄などに好みの縞ひ模様三ッ紋（紋の大さ六分五厘）の染上りにて價十七八圓より二十二三圓まで又無地三ッ紋附地色二藍、深藍方、葡萄、鶯鳥の子是等に取極りにて價十二圓以上

十五六圓位迄

紬地　御納戸、苦茶、紺、淡鼠等の地に、紋、夏菜中の區別あるべし、鏡目、唐花、鼠甲繋き、鎧、小紋染の博多帯、麻、木賊

如き盛況を呈するの見込なきか如し尤も静岡品の製造方に就ては別に苦情あるを聞かず塗板として少しも不足なしと云ふ唯其賣行少きは前に陳べたる如く其重に使用せらるゝ物品の需要の減じたるに原するなり

●檢出向後貨の弊　茲に本邦に於て斯の如き諸品の製造を爲すもの、最も注意すべき点は用の必需品にも非ず又美術品にも非ざる一種廣告の為師用品なり蓋し人の之を使用するに從て益〻便益を感ずる必需品は、可き一定の需要を豫期し得べく又眞の美術品は人の之を知ると深き主旨に從て益〻顧客を增を以て是亦永久の需要あるものなれども本邦にて所謂出向雇貨と稱するもの、中に於ては此両者、何れにも屬せず唯一時新奇の品として一季々に限り流行するもの多し此等は次季に至らば人々去て顧みざるに至るべき性質のものなれば種の物品には決して永久の需要を期すべからず故に此製造又は販賣に從事するのは其需要盛なる際直ちに他の新案を考ざる可からざるなり尤も斯の如き品物ども鄙も當業者が鋭意其需要の變遷に注意して非ず鄙も之を一の産業として固守し永久其業に非ず鄙も之を欲ず能く日常の使用に堪ひ日々の實際の便益多き日用品を製するか又は其本邦の美術を發揮する日用品に足るべき製節品に作るを以て利益多しとす

●貨改良の方法　如何なる製造家が容易に知り得べきに非ず且つ本邦品の賣價第一の鍵然本邦品を取扱かふ外國商人に本邦美術品の嗜好乏しく斯製造家に外國人の嗜好及び用途を知るもの少きと之れなり故に若し本邦製造者の國體に於て其事情を通じ且つ美術心に富を造べく於て外國の報酬を給して之を一定の報酬を給して之を一定の報酬を給して之を一定

遞信省認可（第八百廿四號 明治廿四年六月廿日）

明治三十年六月十五日　第六十一號（一）

東京商業會議所報

豫告の如く本月は當商報の二週年に相當せるを以て卿か祝意を表せる爲め特に廿八頁寸法の附錄を添たり

八王子町火災義捐金品納付濟報告

豫て當商報の募集に係る府下南多摩郡八王子町の大火罹災者の救恤費として各地慈善家諸君より御寄贈下されし金品は悉皆取纏の上去る十一日東京府廳を經て何れも被災地へ送付したり其手續顛書及領收証は左の如し　府下南多摩郡八王子町

火災救恤金寄贈顛

一金百武拾圓

右は去四月廿二日府下南多摩郡八王子町大火の際死傷者等も不尠候由傳承致候より私儀省唱者と相成兼て發行罷在候東京小間物商報紙上を以て有志者より義捐金品募集致候結果即ち商記の通りに御坐候依て悉皆相納候間夫々配當方之儀可然御取計被成下度此段奉願候也

但し義捐者姓名之儀は住所其他不明の向も有之候間追而明細取調の上更に上申可仕候

明治三十年六月十一日

浅草區須賀町十九番地

東京小間物商報發行人　西森武城㊞

東京府知事侯爵久我通久殿

（頭收証の寫）

第六五號

証

一金百貳拾圓也

但本年四月廿二日八王子町出火罹災者救助義捐募集金

右領收候也

明治三十年六月十一日

東京府內務部第四課長　丸山良香㊞

東京小間物商報發行人　西森武城㊞

但し物品の分は府廳の指揮に依り直接に廻車便を以て南多摩郡長原巻樓氏へ宛送付せしに付該領收証は到着次第次號の紙上に於て報告すべし

同義捐金追加

一金壹圓參十錢　東京小間物卸商組合

右追加寄贈金を合せ即ち前記の通纏計金百貳拾圓と成りしなり

右及御報告候也

東京小間物商報

發行所

雜報

農商務省官制の改正

（勅令第百八十三號六月十三日發布）

農商務省官制中農商務大臣の農、商、工、水產、林野、鑛山、發明、意匠、商標及地質に關する事務を管理す

第一條　大臣官房に於ては通則に掲くるもの、外內外地寬會及褒賞に關する事務を掌る

第二條　農商務省專任參事官の五人專任書記官は四人を以て定員とす

第三條　農商務省に左の諸局を置く

農務局　商務局　工務局　山林局

鑛山局　特許局　水產局

第四條　農務局に於ては農事、養蠶、製茶、畜產

第五條　農務局長、商務局長、工務局長、山林局長、鑛山局長、特許局長、水產局長の勅任とす

第六條　農務局に於ては農事、養蠶、製茶、畜產、家畜、衛生及狩獵に關する事務を掌る

第七條　商務局に於ては商工商事及會社に關する事務を掌る

第八條　商務局に商品陳列館を置き內外の商品見本を蒐集陳列し衆庶の觀覽參考に供せしむ

第九條　工務局に於ては工業及度量衡に關する事務を掌る

第九條　山林局に於ては森林原野に關する事務を掌る

第十條　鑛山局に於ては鑛業及地質に關する事務を掌る

第十一條　特許局に於ては發明、意匠及商標に關する事務を掌る

特許局に圖書館を置き審査及審査に關する圖書見本及雛形を保管せしむ

第十二條　水產局に於ては水產に關する事務を掌る

第十三條　農商務省に鑛山技監一人を置く鑛山に屬し鑛山技術官を指揮監督し鑛山に關する技術上の事項を掌理す

第十四條　山林局に森林監督官五人を置く奏任とす森林業務の監督事務を分掌す

第十五條　特許局に專任審判官二人專任審査官十人專任任事務官一人審査官補二十人を置く

審判官は奏任とす審判を掌る

審査官は奏任とす審査を掌る

事務官は奏任とす特許に關する庶務を掌る

審査官補は判任とす審査を助く

第十六條　商品陳列館に專任書記七人を置く

書記は判任とす上官の指揮を受け庶務に從事す

第十七條　農商務省に專任技師二十八專任技手五十五人を置く

第十八條　農商務省屬は百六十五人を以て定員とす

貿易品陳列館官制廢止

（勅令第百八十二號六月十二日發布）

貿易品陳列館官制は本年西曆六月十三日廢止

官制施行の日より廢止す

●貿易品陳列館長官等及俸給に關する勅令廢止（勅令第百八十五號六月十二日發布）

明治二十九年勅令第百八號は本年勅令第百八十三農商務省官制施行の日より廢止す

●農商工高等會議規則

（勅令第百八十六號六月十二日發布）

第一條　農商工高等會議へ農商務大臣の監督に屬し農商工業に關する重要の事項に付農商務大臣の諮問に應じ意見を開申す

第二條　農商工高等會議は農商工業に關する重要の事項に關係ある大臣に建議することを得

第三條　農商工高等會議は會務整理の爲め規則を議定し農商務大臣の認可を受くべし

第四條　農務工高等會議は議長副議長各一人及議員三十人以內を以て之を組織す

第五條　特別の事件を審議する爲に臨時必要の場合に於て前條定員の外臨時議員を命ずることを得

第六條　議長副議長議員及臨時議員へ官吏又へ農商務大臣の奏請若は經驗ある者の中に就き農商務大臣の決議を以て內閣に於て之を命ず

第七條　議長は議事規則に依り議事を整理し會議の決議を以て議事規則に依り議事を整理し會議を主宰す

第八條　議長は議事故あるときは副議長をして事務を代理せしむ

第九條　農商工高等會議に幹事二人を置き農商務省高等官を以て之に充つ

幹事は議長の指揮を承け庶務を整理す

第十條　議長副議長議員及幹事は一箇年三百圓以內臨時議員には事件の輕重に應じ其都度相當の手當を給することを得

第十一條　農商工高等會議に書記を置く議長及幹事の指揮を承け庶務に從事す

書記は農商務省判任官又は其他の者に就き之を命ず

第十二條　書記には事務の繁閑に應じ相當の手當を給することを得

農商務大臣に於て必要と認むるときは議員又は其他の者をして農商工業に關する諸般の調査を爲さしむることを得

附則

第十四條　從前の議長副議長議員臨時議員幹事は別に辭令を受け無ひず本令施行の日より其の任を解かれたるものとす

廣告料（五號活字廿一字詰一行三回迄一回金拾貳錢四回以上六回迄拾壹錢同七回以上拾錢）

發行所　東京日本橋區蠣殼町七番地　東京小間物卸商組合事務所

本組合錄事

●組合員の移轉　本組合員久我兼吉、田中辰次郎の両氏八今殷營業之都合に依り左の月書の地へ移轉の旨届出あり候

日本橋區濱町三丁目壹番地　久我兼吉
本所區横網町壹丁目十九番地　田中辰次郎

●貴功幽廣ダイヤモンドの六週年　彼の有名なる平尾賛平氏製造のダイヤモンド歯磨は実より品質の純良なるが為め又其價格の低廉なるが為めに遂に今日の盛況を極むるに至りしゆえんなりと云ひなが又各得意先の厚意に因らずんばあらずと本月は其製賣六週年に相當するを幸ひ去る四日五日の二日間同業重立の人々及び同店員幷びに同品製造販賣に就て特に功勞ある人々無慮三百有餘名を神田三崎町なる川上座に招待して親睦の大祝宴會を催ふしたるが斯る大勢の来集なるに拘らず些の混雜もなく頗る愈愈の盛況を呈し殊に意外に感じしには何れも満面喜色を帶びて、記者甚に諸氏を代表して、平尾氏ダイヤモンド高盛

●星野氏人造麝香の五週年　人造麝香製賣の元祖として有名なる日本橋區伊勢町の星野與兵衛氏は該品の益々好評を得益々販路の増加するは素より他に比類なき良好の品質幷に化粧品中最も有益なる此頃の盛況を見て、社員一同大に喜ひ合へり

●新意匠舶來形四品　今度馬喰町一丁目山田鎖三氏の新案新製にて平尾賛平氏の一手販賣せる書水、麝香水、薄荷油、レモン油、の四種ハいづれも鸚鵡形の小瓶に入れありて携帯には最も簡便且愛玩の香水製造に熱心にして近來益々良好の成跡を顯はしつゝあるは今更云ふまでもなく同業者の夙に熟知する處なるが同氏の製造に係るキリン香水と云へるハ彼の粗製濫造忽ち匂ひ忽ち消ゆるの嘲着品とは違ひ品質精純にして長時間を保つことは既に知れ来の上好なる品にして、今日の評判なり諸君一瓶を購ふて其為を試み給へかし

此程逝去されたる故川忠兵衛氏は不幸にして實子無かりしより今後營業上の方針は如何なるべきやとの疑念を抱きつゝある人もあるも由なれと同家には既に敏腕なる養嗣子のあるあれば有等の件に關しては毫も差支へなきのみならず今同其名跡を繼て益々業務を擴張すると同時に先代以来の愛顧厚きを謝せる爲め店員両三名を以て王堂の名称の得意先へ派遣せしむる由なり

●田中花王堂の業務擴張　牡丹精チキメン水の本舗横山町二丁目田中花王堂に於ては專ら斯新の化粧品を以て鋭意世に博しつゝあるが又地方の狀況を視察するは今日の急務なりとて今度店員荻原、横尾、三郎氏をして東海、山陰、山陽、四國九州等の各地を巡回せしめ益々業務の擴張を計るとぞ云ふ

●有猫石鹸　今度馬喰町一丁目大野金城堂にて製造發賣せし有猫石鹸と云へるは發賣以来日ならずして既に其名聲を高くし其効能に於ては遂に以来日ならずして既に其名聲を高くし其効能に於ては遂にこれに拘らず其品質の善良なるに因り且つ割合合に其價格の低廉なる大いに需用者の嗜好に適し名地よりの注文非常に夥多しきのみならず海陸軍の人々にも頗る愛用せらるゝと云ふ亦同店の爲めに慶賀すべし

●東ぬか　同品の評判よく賣行のよきは今更云ふまでもなく既に世人の知るが如くなるが本年も最早同品の季節となりし故に其注文の非常に多くして從來の處にては迚も製造に間に合はざるより今度第二番目の工場を設け次で本所横網町へ移轉して該工場に於ては第二番目の賣出を擴張し得る計畫なりと云ふ

●萬源氏益々繁昌　神田橋本町三丁目萬屋號高橋源藏氏は大野金城堂の出店となりて學校用具及び各種石鹸入其他綿帽子絲瓜細工の類を販賣しつゝあるが何れも品質を吟味して價格を成るべく低廉に勉强し殊に着實にして百事親切なるより近來は益々繁昌を信用を得ると同時に日を追て益々盛大に赴くと云ふ正直の頭に神宿るとは實に千古の金言なり

●水戸市の藥業組合　茨城縣水戸市にては今度傷感會の下に水戸藥業組合と設置し次で役員の撰擧を爲したるに組長は大高織右衛門、副組長に金子八郎衛門、幹事は長に小泉茂兵衛、幹事に石澤莊五郎、小笹長吉、大高治兵衛、事務長に和田織二郎、事務員に石澤敬二郎、成戸良介、宮崎源藏、會計主任に加藤右衛門、會計員に增田利衛門、櫻井定七、書記に鹿嶋常次郎、會計員に增田利衛

○佛國大博覽會出品者心得

佛國大博覽會參同ノ出品ノ件ニ關シ臨時博覽會事務局副總裁九鬼隆一氏ガ京阪地方ノ實業家其他ノ賢明ニ答ヘられたる談話中ヨリ出品者ノ參考ニ供ヲすべき數條ヲ左ニ抄錄ス

出品整理ノ方法

萬國博覽會ノ參同ハ內國勸業博覽會ニ稍々其趣ヲ異ニシ概言ヤ見本廣告ニあリと雖モ其出品ノ編成ニ對外的規畫ヲ肝要ト今出品ノ編成ニ關する方針ノ要領ヲ列記すれバ

一　本邦特有ノ長技たる美術品ハ嚴重ニ精選し鑑定を遂げて出品を許し以て此年和的競爭軍ノ中堅とすること

二　歐米ノ文明を採取し之を活動する所ノ有形的重なる物品即ち科學的機械其ノ從來ノ經驗ニ依リ其出品頗ル多たり依リて今回ハ大いに之ガ整備を謀り此事業ノ本旨ニ適したるものを精選し成るべく多數を出品もすること

三　普通商賣品ハ歐米ニ對する重要輸出品を以て主眼とし既ニ之ガ出品人資格出品物類出品數量等を規定して之を告示せり但し重要輸出品と雖モ現ニ輸出を爲すことを得ざる地方ノ出品ハ適せざる地方ノ依リて既ニ選ばれ之ガ出品に適せざる地方ノ依リて既ニ選ばれ之ガ出品に適せざる地方ノ依リて既ニ選ばれ之ガ出品に

●フォンデヌ氏の美術演説　英國人フォンデヌ氏ハ當慕時代より本邦に來て江戸に滯留し多くハ知名の士と交際する所あり日本美術の研究に志し之を跋渉して審さに觀察を遂げ後新後ハ南東京して工藝品に注意し後ち歐國の途に上り諸外國にて美術の觀察をなし其他に於て美術演説をなすと頗る勉む所ありしが先般再び來朝して神戸に滯留し偶々其巡會の同地に開かるゝ氏ハ時々大場して出品の好惡を觀察したる由にて更に此美術の思ひに當り居るとの事なるより日本美術協會大坂支會にて去月氏を東北倶楽部に招待し一場の演説をこゝにたるが當日氏の語りし所の大要左の如くなり

法なれども而も外國に輸出する美術品ハこれを外國人の目より評するを却て利益あらんを思ふが故に諸君者の求めに應じて茲に一場の談話をなすことはなせも借貸國（日本）ハ近來諸物價の騰貴するに連れ製造費用大いに富み自然の勢に昂騰を告ぐるに至りしかも其價格の昂騰する割合に於ては之に反して寧ろ昔時の如く製造工重ならず從て品質下れるの感ありを免れず者し同一價格の品ハ其製品に於て貴國と諸外國品を比較するに日本品い到底他國品に勝つと雖も其原因素より種々あるべきも今の製造家たるものは昔時の如く其門弟に業を教ふるの初切なる教授に門弟の智識充分開發せられずして技量熟達せず爲に商業い益々盛んなる有様なれば其製品は次第に進歩の色あるに至りしかども是亦技術の微妙を缺く一因たるに違なくはあらざるべし而して此の研究微妙を缺く一因たるに相違なくはあらざるべし而して此の研究微妙を缺く一因たるに相違なくはあらざるべし而して此の研究微妙を缺く一因たるに相

登録商標

萬國無比香料
登録無毒白粉
水晶おしろい
薫香馥郁
登録

東京市
東京三橋區丁目
堀拾間
地拾四番
有明堂安井孝輔謹製

正誤　前號掲載の千代田水廣告中小瓶三錢とあるは三錢五厘の誤り

御花の園
純精君
製

○濃。薄。化粧粉製
大箱　入一包十個　一金六十錢
小箱　入一包十個　一金三十錢
改長箱　入一包十個　一金五十錢
同桐箱　入一包十個　一金五十錢
同正紙包　入一包十個　一金五十錢
別紙包　入一包十個　一金五十錢
別瓶　入一個　一金三十錢
中瓶　入一個　一金四十錢
大瓶　入一個　一金六十錢
○ねりおしろい　○丸國一個入
○水おしろい　○正味五合入。三合入。一合入。各種
別器　入一箱十二個入　一金五十錢
同　入一箱十五個入　一金五十錢
小瓶　入一箱十本入　一金四十錢

善　小間物問屋
丸見屋善兵衛
日本區橋町四丁目
電話浪花四四八番

賞品
○婦人小間物類。高等毒物。彫刻。
○櫛。弄。笄。根掛物類。新形流行品各種
○進歩賞拝讃読（ルビ）板生地及び製品各種
○筒管生地細品類
○有名化粧特約保證販賣

発明特許願
商標登録願
意匠登録願
東京市日本橋區
東京市日本橋區
手數料安
鑑定料無
東京市日本橋區水道町廿七番地
特許事務代理人

巻髪用パイプ
薄荷パイプ材
ライスペーパ
各種製造元
舶來パイプ問屋
東京市日本橋區通鹽町四番地
菅谷爲吉

美祖　元祖
商標
登録
美好堂製
かみあらひ粉
東京小川町十二番地
美好堂製

弊店に於て從來製造するかみあらひ粉の儀原質を悉く撰み製造を專とするを以て大に需用の高を增加し廣く江湖に販賣する所なり然るに本品の原來素人の精粗を識別するに最も難しとせるものなれど隨て奸商の輩弊店製造のかみあらひ粉の袋面を縫ひ組惑の偽造品販賣すると近年に至り其數多しとす故に需用者又は該品を取扱ふ諸君の迷惑を生ずる又少なしとせず之に因て是等の弊害を矯正せんが爲め去る十九年農商務省の認可を以て前記の如き商標專用の權を得たり依て右商標を篤と御調査の上御購求あらんことを希望す此段廣告候也

美好形
●此美好形ハ弊店の專賣にして燈心入製高尚優美なる形なり

新橋形
●此新橋形は燈心製にして最も意氣なる高尚の形なり

製造元　東京市神田區小川町十二番地
細井富五郎
製造　資賞
本舗
小石川區櫻木町
細井工場
工場

東京發賣元丸見屋善兵衛
特約大販賣　日本橋區横山町一丁目　天野源七
特約大販賣　日本橋區横山町二丁目　森本支店
特約東京小間物問屋各店
其他全國獨る爲の小間物店呉服店に販賣仕候
日本橋區橋町四丁目電話浪花四四八番

第四回内國勧業博覽會受賞
雲井織
一名改良孫子
織元　東京都　坂根兄弟商會

御婦人用
花元紬手拭
伊勢太り地
帶地
金入り
金なし

製造一手　江州川並
販賣　東京都丸
元　六角下ル
外村新五郎
加納作之助

この雲井織と稱するは弊店が多年の研究と費多の苦辛とを積み經て茲に發明製造せし前代未聞有の織物にして今其体裁と効能とは從來に於ける用ひし大部を述べんに該品は三浦絞の類なれ共器機を以て確めたる一種の新發明に依て頗る叮嚀に之を織成したるものなれば油塗も或は汚れたり其清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみならず原絲染料共に充分其精を撰びつかふ故に幾度洗ふとも爲めに地質を損し又の伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の點に適ふ其色合も流行季節向に何れも御好み次第に之なく何卒一度御試用の上陵續御注文の程伏而希願候

○遠山霞

（第十六回）

一瓢子稿

躁見送て忠常い廣元が前へ膝おし向け　曰、何と大江殿の使原が無禮殿の何ゆゑ恥ぶ書きめされたは是が朋輩同志の諍ひならば其儘に致すも苦しん御坐ねば省いても故佐殿御時より輔弼の大任を承けさせたさん貴殿へ對し無禮な調べと思しらにする彼奴が曲事何とか御成敗なされすば相成るまい　廣イヤ左樣で御坐らぬ成程今の那奴が過言聞捨ならぬ次第なれど未だ罪人とも事さらぬ之迚多忙な冒葉は下し難し又調ふるに致した所が各々方の御承知の通り小名は小名大名は大名の格式あつて先づ羽林殿の上御沙汰を待つが我等の役目夫を猶りに我等に於て處置致しい御同然に優倉のそしり免れ難く夫れより時宜に依らば上を無みする差出の振舞と御容めも鋼られず故にこそ拙者に於ても我慢の胸を撫下し彼が賞す他に任して御坐るといふに重忠併はらより　重　成程コハ大江殿のお言葉御尤もに存じて左りながら梶原が惡事最早歴然たるものなれば此度の事譯を言上に及び殿御直々の御裁判御願ひすし何とか手早く御處置然るべくかと存じ申す左る場合には結城殿を始め我々一同對手方に相立ち飽て吟味をうけるで御坐らう和田殿貴殿の如き罷おし撫て　義なしにもゝ　拙者に於てズン殿も御異は御坐るまいな。聞くより義盛は銀の相鳴高が町人や百姓でない者にも諸代の大々名を罪人扱ひかに致すは何とも以て心苦し夫のみならず玉殿大内山に在します御一人の御耳に達しては恐多き儀に御坐れば此由羽林殿へ言上ずし梶原を說いて何がなしに所領へ隱居さするのが穩便の沙汰かと存じます　曰、田殿御前所が調べよといふも至極尤も大江殿遠慮すと仰せらるゝも尤も其中を取つての拙者が思案各々方如何で御坐るかなと此語に重忠膝打ち　重　成程道がを開訳せし上次第に依ては侍思案通り言上に及ばず相成るまいと聞より三人は勇み立ち「左らば直に雜人か心利たる者を梶原が邸へ使はして篤と忠常と共に說き勸む。廣元どうぞ聞け　曰、成程和田殿の御思案が然るべき事と存じ申す左りながら最前の梶原那程の雜言吐いたれば其儘には成し居るまい何ういふ手段をなし居るか彼が樣子を探り申さう　曰、成程道がの振舞此度の事譯を言上に及ばず相成るまいと聞より三人は勇み立ち「左らば直に雜人か心利たる者を梶原が邸へ使はして篤と樣子を探らせ申さう　廣、雜彼申すよりは幸ひ右京之進殿與の間に罷り在れば彼を組むがよからうと急ぎ仲業を招き寄せ事の次第を組みしに仲業大に喜び勇み　曰、委細其事も申て坐る迚て吉左右お知らせ申すと急がは以ひ坐を起つて玄關外へと駈出したり暫らくありて仲業は息せ切つて立歸り　曰、先刻仰の趣に從がひ梶原が樣子探り

逆櫓の事より判官殿を陷しめれども那の梶原、滿殿に何の罪もなきに伊豆の修禪寺へ幽閉にしたるは無容めも鋼られず故にこそ拙者に於ても我慢の胸を撫下し彼が賞す他に任して御坐るといふに重忠併はらより　重成程コハ大江殿のお言葉御尤もに存じて左りながら梶原が惡事最早歴然たるものなれば此度の事譯を言上に及び殿御直々の御裁判御願ひすし何とか手早く御處置然るべくかと存じ申す左る場合には結城殿を始め我々一同對手方に相立ち飽て吟味をうけるで御坐らう和田殿貴殿の如き罷おし撫て　義なしにもゝ　拙者に於てズン殿も御異は御坐るまいな。聞くより義盛は銀の相鳴高が町人や百姓でない者にも諸代の大々名を罪人扱ひかに致すは何とも以て心苦し夫のみならず玉殿大内山に在します御一人の御耳に達しては恐多き儀に御坐れば此由羽林殿へ言上ずし梶原を說いて何がなしに所領へ隱居さするのが穩便の沙汰かと存じます　曰、田殿御前所が調べよといふも至極尤も大江殿遠慮すと仰せらるゝも尤も其中を取つての拙者が思案各々方如何で御坐るかなと此語に重忠膝打ち　重　成程道がを開訳せし上次第に依ては侍思案通り言上に及ばず相成るまいと聞より三人は勇み立ち「左らば直に雜人か心利たる者を梶原が邸へ使はして篤と

便の沙汰かと存じます　曰、田殿御前所が調べよといふも至極尤も大江殿遠慮すと仰せらるゝも尤も其中を取つての拙者が思案各々方如何で御坐るかなと此語に重忠膝打ち　重　成程道がを開訳せし上次第に依ては侍思案通り言上に及ばず相成るまいと聞より三人は勇み立ち「左らば直に雜人か心利たる者を梶原が邸へ使はして篤と

忠常と共に說き勸む。廣元どうぞ聞け　曰、成程和田殿の御思案が然るべき事と存じ申す左りながら最前の梶原那程の雜言吐いたれば其儘には成し居るまい何ういふ手段をなし居るか彼が樣子を探り申さう　廣、雜彼申すよりは幸ひ右京之進殿與の間に罷り在れば彼を組むがよからうと急ぎ仲業を招き寄せ事の次第を組みしに仲業大に喜び勇み　曰、委細其事も申て坐る迚て吉左右お知らせ申すと急がは以ひ坐を起つて玄關外へと駈出したり暫らくありて仲業は息せ切つて立歸り　曰、先刻仰の趣に從がひ梶原が樣子探り

●營業稅の收入算算　營業稅法實施の上は凡そ七百萬圓の收入あるべしとは同法の曾て衆議院の特別委員に附せられた當時政府委員の說明せし所にして政府の本年度豫算にも五百八十七萬四千百六十八圓四十八錢七厘の收入あるべきものとせり然るに本法は本年一月一日より實施し來る七月其年度の收入あるべき筈なれども同法は新稅法中最も若情多き法律にして各地とも未だ全く課稅標準屆の濟まざる所もあり當局者の見込とは大に違ひ其結果到底七百萬圓は愚か本年收入すべき營業算五百八十七萬四百六十八圓餘の收入も覺束なく先四百五十萬圓內外の收入あれば關の山なりと其向きの人は謂へり

●進ん黨の營業稅調査員　曰、今や到る處に喧傳する營業稅調査員は何れも進ん黨の人物にて其目的とする所は專ら政黨の勢力を擴張するにあり故に伊藤內閣と自由黨との提携しあるものに對して進ん黨は極力之に反對したる者なりと謂へり

●營業稅に對する苦情　曰、營業稅調査員が既に各地に出張するや元來本法の實施に當りては各地の人心は大に動搖し殊に外の信じ易き人民は之を新稅の出現と誤解し或は之を新稅の出現と誤解し或は之を新稅の出現と誤解し或

●米國新關稅の比較

米國に於る新關稅法案に據り本邦輸出重要品中最も重稅を課せらるべき絹織物絹製手巾、花莚、緞通及茶に對する新賦稅率及元老院財務委員の修正せる稅率の比較に付て先に調査する所ありしが今其他の重要品なる麥藁眞田、陶器、紙器類、硫黃、煙脳米、扇子、石炭等に付比較に關する報告左の如し

▲麥藁眞田　本品は現行稅法に於て一無稅なりしを新稅法案にては之を二割の從價稅に改めたれども元老院財務委員の修正案に據れば從價稅に代るに五分となし若し染付又色取あるものハ從價稅二割となしたり

▲陶器　本器は現行稅法にて一襲飾付の品ハ二割五分無地のものハ三割なりしが新法案にて一襲飾付の品ハ二割五分無地のものハ三割五分に改めしを修正案に據れば一封度に付一仙半と從價稅二割五分より二仙半と從價稅三割五分迄とし手に盡きたる給又は金にて摸様を施したるものに對して從價稅五割五分を課するこゝなれり

▲硫黃　本品は現行法にて一米製品に對していまだ未製品は無稅なれども精製品に對しては一噸に付八弗の稅を課せる修正案の之を其儘採用せり

▲煙脳　本品ハ現行稅法にて未製品に對して一割の從價稅なりしが新法案に據れば未製品は無稅なれども精製品に對しては一封度に付四仙と改めしを修正案にては之を六仙に增加せり

▲米　本品ハ現行稅法にては精米一封度に付六仙半にして玄米一封度に付四仙半なりしが新法案にて精米ハ二仙玄米ハ一仙四分の一即ち一仙二厘五毛に改めしが修正案にて現行稅率に減せり

▲扇子　本品は現行稅法にては從價稅四割なりしが新法案にては五割に改めしを修正案にては其儘採用せり

▲石炭　本品ハ現行稅法にて一噸に付四十仙なりしが新法案にて一噸に付七十五仙に改めしを修正案にて之を其儘採用せり但八十封度を以て一ブルッセルとし二十八ブルッセルを一噸とす

▲運賃　先般米國上院に於て運賃の停滯海上に於て船數の不足より運賃の騰貴したるに付ては原因なる夫の者土職爭の餘響として東洋に航する船舶數の少なきに加へるに例年の如く解氷期後北航船の多かりし等に重なる原因なるべしと雖とも春來邦船會社が從來の運賃に比べ一割乃至二割の增加を斷行せんとし漸次各荷主に交渉するも容易に承諾せざるより商略上手を廻ら[illegible]限りは他船の備入れに着手し[illegible]の少からんとを希望する[illegible]に付外船數の少なかりしに[illegible]の聲を高からしめ其反響を以て唱に荷主を勵ましんとを從せし等人爲的の壓勵に大に勝負を助長せしめたるものありと當業者が頃日發見したる新事實なりと云へり

●夏着男物の新拵

▲袴、帷子、瑠璃色、千歳茶、薄柿、流染等の好みにて單衣に縞絲織（十間より十五間迄）帷子は薄摩上布（十間より十五間迄）越後上布（七間より十五間迄）同錦織（四間より六間迄）拵は相變らず微塵、子持筋、千鳥、大名などの類なり

▲帶地　博多の袋織流行にて色合ひも裏花色、裏黑の無地もの好み多し

▲羽織　黑紗の三分紋稱紋の大きさ八分にて價十間より十二間迄のもの注文多し幅で五德紋に進化するならんと云へ、五德紋とは前二ツ背に一ツの紋上りにて前より見れば五ツ紋後ろに廻れば一ツ紋に見る趣向にて五十年の昔し流行したる考案なり

▲袴地　三井呉服店にて趣向したる茶亭の袴（價二十間より二十間迄）は好評を得たるが今年白木屋にて工夫したる西陣織の袴地（價二十間より二十三二間迄）は表織、裏色絹の比製にて共に水袴と云へ意匠なるべし

▲紬の單衣　白木屋の賣出し博多紗の中に江戸子向き男ハ男の拵多し是等は魚河岸邊にて壁織紬を着なるべし

▲帛の類を着なくとも男は裸體百貫の直打ち併し裸體で商賣の出來ぬ世の中何か十間內外で暑中打通しの袴を云へ

▲新拵の帷子　是は三井呉服店が繊元へ注文したる帷子にて絹織御納戸松川菱小紋染め鶴川鶴軍が[illegible]

▲夏季川節御成の着服なりし換り袴なるものゝよし本月中旬頃に[illegible]陳列場に現はるべし（價は十間內外）

品質ノ良撰ト價ノ廉ナルハ幸福ナリ

登録商標

定價（フリ出シロ付）金三十五錢　金五十錢　金四十錢　金壹圓　——供口角瓶入并ニ九瓶入種々　金六十錢　外他共賣

元祖鹿印　香水本舗　東京市芝區新櫻田町六番地　香水油製造元　尾崎榮之助

內外化粧品石鹸問屋　東京市麻布三丁目十九番地

發賣元　石　田部重兵衛　電話本局一八〇

約特大販賣店

東京銀座喰違町　同日本橋銀座二丁目　同日本橋馬喰町　同日本橋本町　同芝新橋　同神田橋本町　同芝浦二丁目　同芝新橋　同神田橋本町　同芝浦二丁目　同芝新橋　同神田橋本町　同芝浦二丁目

今般前川忠兵衛名義繼續廣告

前川忠兵衛死去致候處弊店儀は既に相續人も有之候故同人死去致候共更に方針其他とも變更は不仕矢張從前之通り前川忠兵衛の名義を繼續營業し且向後は猶一層の奮勵を加へ專ら薄利着實に御取引可仕候間何卒倍舊之御愛顧伏而奉希上候

龍二世

日本橋區横山町壹丁目
前川忠兵衛
前川親戚

爲御禮店員出張廣告

各位愈御清榮奉賀候陳者故前川忠兵衛在世之砌より一方ならず御引立を蒙り候御禮を兼ねは且は向後一層業務を擴張し猶不相變御愛顧を仰度候旁店員◉田中辰次郎◉正木糸吉◉を以て各地御得意樣方へ相伺もせ候間何卒此上なから御引立被成下度此段豫め謹告仕候

日本橋區横山町壹丁目
前川忠兵衛

製造擴張ニ付轉宅

東ぬか製造本舗
府下江東両國徳川公邸内第一工場
神田龍閑町第二工場
淺草向柳原町第三工場

東ぬか製造元

普通磨香より甘倍匂ひ高ク無雙新發明

定價
一錫金十錢

御直段

一箱一打入	七十一錢
一打以上十打以上	六十六錢
拝打以上	六十三錢

當分ノ中煉麝香一打ニ付引札二百枚宛ノ割合ヲ以無代進呈仕候

○煉麝香い　未充天下に類なき新發明の佳品なして多量の麝香と配合し香氣上欠く可からざる良品なり

○煉麝香い　あれハ芳香頗都目ら高尚優美ならしむ尤も夏季過半汗臭を防ぐ又臭ひ而已ならず種々の臭ひ悪臭を消し時々少量宛使用されハ自身の臭ひ御使用の時ハ人に接近する人も自身の臭ひを感せしむる住品也

○煉麝香い　男女共身体適宜の場所に塗擦すれハ佳香頗都千金の匂ひ袋を所持するに異ならず取分け悪度流行の際あるにハ尤も著しき効驗を有する必要品なり

御交際國ニ誘君ハ時ハ人皇宛使用ハ自身の臭ひ御使用されハ自身の臭ひ

御注文の諸君ハ必ず煉麝香と御指定の上ご注文の程願ハ上候

定價
一打以上　百枚宛ノ割合ヲ以無代進呈仕候

煉麝香

普通磨香より甘倍匂ひ高ク無雙新發明

製造元　日本橋區横山町二丁目　清水清香堂

發賣元　化粧品問屋　田中花王堂

關西代理店　大阪佐野屋　脇田盛眞堂

●其他東京小間物問屋にて全國到ル所ニアリ

懷別嬪印中百日香水

完璧十五錢の物全形六分の一圖形

此一瓶を携帯する時は一百日の間腹部として身体に奇香を放つ

此香水の容器は瓶に非ず管に非ず一種新発の硝子器にして一個の鈍を添へれば是を襟裏懐中袂等適宜の場所へ掛置時は其上方鈍の部より細き管を出し其管の先端に微細なる孔を穿ち如何なる身体の新意匠品にして高尚優美なる風和に從ひ身体の臭ひ都てよりも登し又は仙境に遊ぶ思ひをらしむ如斯未だ有ざる新意匠品にして高尚優美なる風和に從ひ身体の臭ひ都てよりも登し又は仙境に遊ぶ思ひをらしむ

完備の珍品なれば江湖の諸嬢士一度御實驗あらん事を乞

發賣元　東京小間物問屋横山町二丁目　田中花王堂

目化粧品問屋

濃厚製大瓶定價壹圓
磨香製小瓶定價五拾錢
普通製小瓶五拾錢

遠國ハ郵便ニ代用ニ付郵便ニ代用ニ付郵便ニ代用ニ付

▲平尾氏近縣旅行日記（亦前）

五月十九日　早朝伊香保を出發し碓氷を經て再び前橋市に立戻る並し十七日朝に大火ありし由を傳聞したれバなる到れ共則ち實に地方に稱なる大火にして焼失百餘無慮三百ばべる幸ひ同業者には罹災者なかりし依て午後發の滊車にて高崎に至り一泊す

高崎町は前橋に强く劣して人口凡そ三万と稱す旅館あり商業亦前橋に遜歩せず又小間物商組合あり木暮彌平氏之が頭取たり組合員に百餘名亦盛なり聞へし而して商業の点に至ハ大に前橋と競爭の領向あり

同二十日　早朝高崎を出發し汽車にて輕井澤まで至り又戻りて横川へ出て碓氷山を越て横川より上野の最極地にして町とても村落に異なるの感あり

横川は上野の最極地にして町とても村落に異なるの感あり

安中町は人口凡そ七千六百餘松井田は人口凡そ三千二百と稱す三井製絲場あり町の中央に煙突の高聳に優る（四月中火災あり）

富岡町は人口凡そ八千三百と稱す三井製絲場あり商業の盛なる其隣に優る

高崎より福崎まで上州鐵道（便利鐵道）の設けあり而して此地へ開設の由にて既に線路は布設濟となり目下鐵橋の架設中なりし

同廿一日　富岡町を發し福島より高崎まで上州鐵道に乗り日本鐵道線にて両毛線の駒形、大間々を經て桐生へ着一泊す

駒形町は武藏の上尾より稻々盛なる重なる同業者三四名に逸字の村落たり

大間々町へ停車場へ距る一里にあるが爲め少しく不便なる如く人口凡そ四千九百、町は長く稍々盛なり足尾へ至る通路にして同業者も亦數名あり

桐生町は人口凡そ二萬、前橋、高崎に亞ぐの一都會にして市内電柱に電燈を點じ夜れ恰も東京に比して遜色あり町の長さ十數町隨て商業も亦盛なりと雖も製絲を以て最ど比絲數多あり

同廿二日　桐生を發し伊勢崎に至り中飯を喫し失より舟、太田町等を經て館林に至り一泊す

伊勢崎より上口六千勢崎織の産出多く同業者の重なるもの亦七八名あり

太田町は人口三千八百餘有名なる呑龍上人の安置し奉る處にして參詣者常に多く爲めに其盛なる館林町は人口九千七百餘あり群馬縣中第四の繁盛にして未だ鐵道の便なきも不日東京線の線路の布設あるに至らバ益々盛なるべし同業者重なるもの十數名あり

此桐生、舟、太田、館林地方ハ彼の足尾の鑛毒に付何れも其害を蒙り人民皆其事件に汲々たるものゝ如く而して館林、佐野地方に在る渡良瀬川は該鑛毒の爲め魚を生ぜず沿岸の木竹類も亦悉く枯死するの損纏あり尤も群馬縣下ハ昨年の水害に付て到る處桑樹植の破壊せるもの多く就中館林、佐野の間は僅ゝ二里許に過ぎざるも拾數町の間道路の破壊あるを以て人車を通せず爲めに遠路を迂回して行けり

佐野近邊迄ては何れも養蠶に多忙なる季節なりとて平生に比し大に寂寞を覺へたり然れども該蠶養の終りなく又一層の賑を加ムべし

（以下闕出）

講談速記　東京小間物商報　第三回
講演者　真玉
今村次郎

義士外傳　忠侯直助傳

（第三回）

是を見て大野九郎兵衛（あ）ア、ハ、ハ、是ハ何たる猫が居れば飛附さうだ、併し此ら鈴たるの是らしい。間の時い拔て見ようが無いから結び役に立つかも知れん。どういふ切味か試して見やうと、乱暴にも席を立つて様刺へ来ち、御影の手洗鉢に其錆刀を打附ました。折るなら性が宜いのですが、折ないで鑢蓋のやうに曲つて終ひました。ア、ホイ是ハ悪い事をしたな。杏殿の石の上でトン〳〵と叩いて直し無理に鞘へ納めて之の通り。鞘ハ二ツに割て終ひました。其儘下精でル〳〵と窘ろ。無疵慮に吳ハ八十右衛門の前へ投り出し、九郎兵衛一寸是へ出なさい、ハ、ッ、ア、貴公ハ百石餘の頂戴金奉行といふ大役を勤る身分で居ながら、是ハ何たる爲に差して歩行なさる。徒士足輕共でも斯樣な錆刀をさして居る者ハ一人もないワ。夫れ武士と千日暮よ只一時の役に立んが爲め。今太平なればて宜れ。萬一陣鐵に目をさまし兵糧に鐵たるを凌ゝといふ場合に至らば如何たいす。殿御馬前に敵陣より强の武者にても乗り込み來り日歸りの早いの稱々付細かつての早。殊に心持が宜い。今之をさいえれば相成るまい。其の時斯樣な錆刀を以て敵に感對が出來ない。体裁を頂戴して居りながら御用に立て武士ハ位にナ持て盛人藤盜人犬侍と言生武士とやハ其方の事だ。除りと申さば不慮に出て萬一人中へ立出る者が斯樣なるのを手挟んで何の役に相立つ」と大野が云へバ其足につき。惡口をするものれバ中にハ大口開いて笑ふもあり。犬侍と言生武士と重ね〳〵の惡口に手を突こ居た八十右衛門。面色青醒め心の中に除りなく云へば大野の暴言。假令刀は錆たりとて腰に覺えの真影流。雖に依つたら其の手並を見せて呉れんと一度は錆刀を傍に引附けたが。イヤ〳〵厳より御譴を頂き乍ら。私しの事に元老へ及傷を致したるあらず。倉々不忠の侍とアおされん。堪忍のなる堪忍は師もする成ら堪忍するが堪忍。彼の東照神祖御歌にも。堪忍の袋ハ常に胸に掛け破れたら鏡に破れたら鏡へ。と仰せられしも誠ならんアヽ世の中に貪欲と辛いものハない。人の為にならうとも。八十右衛門御意へ手を突き血の涙を流す様子を。心ある侍ハ氣の毒に思ひ何れも顔を背けて居る中に。城代大石内蔵之助ハ早くも夫と見て取るしか　西アイヤ最早例刻にも相成しゆえ。解散致して宜しからうと。未だ察ぬ中より解散の御沙汰を致されましたのハ。長く坐らして酒けハ此上さいうハ赤事の出為ますやも知れず。依て大石の早速で例刻にハ成るまい。依て一同は其儘にして席をしたものと見受ます。

泰イヤ直さんか今直に注ぐよ直煙草を一服貧乏ゆすり頭は警油を注ぎながら。直直さん今ま時をして那だなア　直ア、ホラ直さん旦那だの。御前の意は旦那様はどうもえらい旦居たんだが。御前の意は旦那様はどうもえらい旦那だなア　直ア、ホラ直さん旦那だの。御前の意は旦那様はどうもえらい旦へか。然んな事をいハは少し早く樽油を注で呉んねへか。

直ア、今近藤の旦那と美濃村様ハ寄らなすつて阿嶋様の事を賞めて往たせ

泰ア、直近藤様や美濃村様が賞めたつて仕方がねへ。直ア、仕様がねへいふが近藤様の仰しやるには。宮に同嶋といふ人は見上たものだ。朝夕が遠へ。ア今頃血の雨が降て居る時分だと仰しやつたせ。直エー血の雨へのかの通ればこそ。直ア、ふんそりゃ。酒屋の番頭の話ですを聞て。抜に直助忠勤を願はすの一席。

路をいふ組屋敷我家の門へ歸りました。老門の前を掃除して居りましたの直助とアすます僕でございます。主人八十右衛門の顔色の悪いのを見て直ア、旦那様大層早くハ歸りにならました。未だであらうと存じましてお迎に参りませて。八ア、直助が掃除がよく居いて誠に心持が宜い。今日歸りの早いの稱々付細かつての早。殊に心持が宜しくないゆゑ戻つて参つた。直ア、道理でお顔色が悪うございまたお風邪でございますか。風邪なら葛根湯の二三服もたてつけて跡で温飯の熱いのでも召食つて祥をお取なさるのが一番でございます。と云つても別に八十右衛門返事もす其儘奥へ行く樣子を見送つて居た直助が。ハテ何か是やア事が出來たに相違ない考へて居る處へ。御新造が御呼なさるゆゑ御臺所へ廻る中。泰直ア、

醫學士稻生悌先生新方

登錄商標

さくらら石鹸

定價櫻石鹸一個十錢郵稅二錢

蜂蜜石鹸

○肌を濃にし色を白くし皮膚の荒を防ぎ艶を出しにきびはたけ、しもやけ、あせも、水むし、できもの其他皮膚病一切に大功あり㊟注意近來類似の廉品を販賣する者有之し間商標下名篤と㊟改の上㊟求被下度候

麝香入黒澤林右衛製造本館

東京市芝區金杉川口町廿二番地

鈴木保五郎

陶子製造販賣

M

沼倉商會

東京日本橋區大傳馬塩町二番地

イリス粉石鹸發賣廣告

粉名ハ弊舎多年ノ經驗ニ依テ製造シ化粧洗料ニ適シ已ニ歐米諸文明國ニテ專ラ稱用セラル至リ品質ノ善良香氣ノ佳快ナル他製品ノ及ビ所ニアラズ加フルニ藥品配合ノ宜キヲ以テ當用トシ殊ニ皮膚ノ艶麗保全ス又容器ハ經便ナルガ故ニ旅行携帯ニ尤モ適ス

意匠登錄出願中

登錄商標

イリス石鹸

製造元

發明藥劑

配合所

東京日本橋區横山町二丁目

松澤化粧品部

安永舍

抑々婦人の齒を染るは我國古代よりの風俗にして只其容器を粧ふのみならず第一口熟を去り齒の根を固め平常を用ひ給ふ幾萬代も口中の患を覺へず故に拙家發賣のかめ〻しは多年品質に心を凝し發明せしものにして染つきの速なる容易尤る事なく其効驗の著一きは實に天下無二の良品にして是れ迄世間に有りふれたる「ふり類」ゝ及ふ可き世間に之れなし希はくハ世の婦君方神代の教を守り永く皇國の美風を忘れざらん事を願ふ

賣捌所に全國到處の小間物店に販次有之候間㊟最寄にて㊟求の程奉願候

◎莫大小製造卸賣告◎

小間物屋さん仲間へは特別に働て賣升

東京市日本橋區横山町三丁目八番地

莫大小製造卸問屋　鈴木卯兵衛

廣告

一木櫛類一切製造卸

一元結水引類製造卸

一かもじ類製造卸

擬製造之上大勉强販賣仕候間多少ニ不拘御引立御注文之程伏テ希願上候

東京日本橋區横山町二丁目四番地

㊟蔦武支店

天下無比衛生的顏料優等化粧品

芳香馥郁白美艶麗顏有効靈妙奇劑

燦白粉價

金六十錢　金十二錢　金三十錢　金五十錢

水白粉價

金十錢

製造發賣

東京市日本橋區馬喰町四丁目一番地

東京莊園堂　齋藤泰助

◎貴嬢紳士必の香料廣告

○貴嬢紳士必の香料

登錄

商標

人造麝香

○大阪價六拾五錢

○新小瓶價六拾五錢

○小瓶價三拾五錢

○新小瓶價二拾五錢

○小瓶價二拾五錢

用ゆる化粧品の香料は及ぶ迄人造麝香の人造麝香は佛國製造元より持約輸入し他の北國なき純良品にて高貴美の芳香を放ち方今世に高評を得て高貴の人士に愛賞の香料を用ゆる者は天下

○本年の團扇

團扇の概況の儀、既に本紙にも記載せしが今時事新報に記する所、最も詳密なれば茲に轉載して斯業者の參考に供す

團扇の賣行の年々に增加し、特に近年は諸商店にて夏季賣出しの景品となし目家の名前を記して廣告代りに用ふること流行し其他料理店、待合、藝妓、旅籠屋、酒屋、米屋、魚屋等にて暑中万一至益の徴物となすより其賣高一層多くなる之が注文を引受けて製造する團扇は府下に至る所に散在すれども就中大問屋と稱する日本橋區堀江町（俗に國屋河岸）の伊勢熊、小山屋、伊延仙、遠市、大和屋の五軒なりこの五問屋が毎年注文に應じて製造する高は掛なる店にて百萬本を下らずとなり扨本年も團扇の季節に向ひぬ各問屋とも昨今繁昌の目を廻る程なるが總ての賣行割合は注文物六分店賣物四分なりと夕

團扇の種類

團扇の種類は數多あれども其重なるものは切出し、差柄、二本組、別上、上玉、並の五種にて形は玉子形、小玉子形、瓢形の三種なり切出しとは骨を編みたる絹糸のあらわに見ゆるを云ひ差柄とは其柄を綱又は竹の節などにて作り黑塗若しくは錦織たる物を差たるを云ふ二本組の内上物は柄の先のみ塗り一寸體裁の好きものなり其他は概して磨き竹の柄と知るべし

製法

製機器は昨年と大差なけれと萬事に傾きて從前の如き彫刻の印刷書は年々海に廢れ行き歴史書、古代版畫、俗畫、文人畫、花鳥、山水の類尤多く捌け好く問屋にて意匠家、畫工、彫刻師なる成るべく勝れたるを我手に付けんと競爭有樣なり

○產出所

團扇に用ふる竹の東京附近にありては房州地方の產を第一とし次を伊豆箱根等とす就中上等物は重く房州に產するよし

本年の相場

原料の紙竹絲類の高價と云ひ畫工、彫刻師其他諸職工の賃金も價の騰貴に連れて夫々引上げたれ本年團扇の相場は昨年に比して概して二割方の勝なりと云へり

○差し掛

同　二本組　同五圓より七圓
同　上の部　二圓四十錢より三圓二十錢
同　中の部　二圓八錢より二圓七十錢
同　下の部　二圓五十錢より二圓三十錢
同　別上　二圓八十錢より一圓五十錢
同　上玉　一圓四十錢より一圓五十錢

右の目下の相場なる過ぎ分節に入りて後は十日乃至十五日目毎に引上ける例なりと

特別製の上等物

前に記したるものゝ外華族方奥向その他上流社會の需用せらるゝものは特に上等の製にして是れ日本橋區通一丁目の榛原商店にて製造するより外種類は別段前記と異なることなく矢張り切出し差柄等なれども呼に原料を吟味したるものなれば價の如きも百本に付き最下等四圓、次は六圓、七圓、十圓、十二圓、十六圓、二十圓、三十圓の等級あり（尤も好みに依つて二十五圓、三十圓の物もあり）二十圓以上の物は一々書繪にて注文に應じ金紙を用ふるよし

臺湯

臺湯は入らざるもの多し

●繪付と孔外出

我國製造の團扇は是迄一本が新節地となりたる以來過ぎ臺湯に入らざるもの多し

●

反古ゑとべ

◉近世奇跡考（抄錄）

○獺本其角傳（承前）

「類柑子」白樫が其角をいたむ句のはしがきに、此處に年ひさしく住なれねれば、鐘の渡守も、袖をひたすとあれば、茅場町に住みしとき、身まかりたる事わきらけし、實永四年二月廿三日、春曉閑境に坐するの吟として

鶯の曉さむひしきりくゝす

として、病にふし、わづかに七日を過て、身まかりけるよし「類柑子」青流が文に見も、是れ其角一生の口すさびのかぎりとなん「本朝文鑑」に辭世と云ふハ非なり

其角著書目錄

田舍句合　二（延寶八）
蠶　集　一（貞享元）
續みなし栗　二（同　四）
花つみ　二（元祿三）
いつを昔　一（同　年）
萩の露　一（同　年）
裏若葉　一（同　十）
三上吟　一（同十三）
たれか家　一（時代不詳）
類柑子　三（同十四）
新三百員　一
みなし栗　二（天和三）
新山家　一（同　二）
花つみ　二（同　四）
雜談集　二（同　四）
枯尾花　一（同　九）
若葉合　一（同　年）
錦繡段　一（同　年）
焦尾琴　三（同十四）
新二百員　一
五元集四同上延享四）
以上二十一部

（其角所謂あれども略す）

「五元集」點印歩画美人の字を彫て琴形の中に備へたるをはじめて冠里公の高句の御卷に押弘め侍るとて

春の月琴にも物書はじめ哉

挽すゝ琴に秋色追善の集「一面三聲」を見るに、元祿十五年の春、李画美人の印を鐫刻して、賀會の一集成る、かの琴に物書の句を發句として、二十五吟の百韻をつらね、集冊の名を、月の錦とよびけるよし、其後廿四年を過て、秋色尼より、有代湖十に讓りけりとゝ

◉女中庸（承前）　作者不詳

冬の來て山もわらはに木の葉ふり
のこるる松さへ峯にさびしき

此歌は新百々冬の部にあり城の心つ春夏の千草高木紅白色を変へ、已がさまに爛熟るれども秋冬のはげしき風にいたみ木の葉も散乱になりもてゆき千種の花もうらがれ滿山一木もなきのふし此歌は新百々冬の部にあり城の心つ春夏の千草高木紅白色を変へ、已がさまに爛熟るれども秋冬のはげしき風にいたみ木の葉も散乱になりもてゆき千種の花もうらがれ滿山一木もなきのふし松の青葉の常緑すして殘れるを讀り婦人の節操も此歌の如くあるべき事なり不義の眼よりは夫の因究にくるしみ、水すゝ麻布勝絶しに朝寺婦の道を盛し能く事るを云甲斐無なる事と思ふべきなれ少斯く其實に婦徳をつくし夫に事へ、む人の天地神明の尊覽にハ嶽にさびしき松とハ見たまはん千草万木に秀たる君子の操さびしみべし支をなりて葉へんよりは實となりて實へるにはしかじ

一婦人に婦徳、婦言、婦容、婦功の四ツ躰あり第一婦德と氣質を能くし偽はらず辨ずす我慢なるを知べし第二婦言とて言葉を慎みて物事はしたくいふんつたなく言ふまたは物事はしたからぬ夕よりつゞめて等常に云はんとするの言たるやうにて惡し如論口伝しく我知りたる顔に言もいやしく都て言遣びに限らずなべて女の云ふまとき事の如何にこゝろやすき人に過ても口より外へ出すべからず第三婦容とて粧容の事なり朝毎に身を清め櫛ゆ化粧し衣裳を起居に整動しとやかにする應になすべし然るに當時世にもてはやなる云ひ異容なる衣裳などの撰樣又は浮華なる時粧などいかさまゝづらしき樣に好むべからずたゝ有るべき限りにて見たる所のきよきがよし第四に婦功とて紡績、裁縫、洗濯の事なりしはじめ萬女のすべき業を其實に勤めて怠るべからず（未完）

ライオン齒磨の特効

本品は化學作用により多年實驗して好成績を得たるに依り一層原料の良質を撰擇して精製したるものなれば從來世に行はゝ普通齒磨と其實を異にして香氣顏都をして口中の汚物と臭氣を去り齒質を尊白健全なる世界無比にして且該品を常らしめ用するべきは腐れ齒齲齒を治し總て口中一切の病を患ふる無きと疑なく是れ本品の特効なり江湖の諸君續々御試用の上御高評あらんことを乞ふ

東京市神田區御原川岸廿二號地
東京特約店　小林富次郎

○實捌所ハ全國到ル所ノ小間物店ニアリ

定價　大瓶二十錢　中瓶十四錢　小瓶七錢
別製　五十錢　三十錢

美人社會に高評博したる化粧品大王

西洋各國にて大流行の實に奇妙なる「無毒せる御獲化粧」別嬢おまろい一名透明水白粉

原品直輸入
獨乙イスマン會社

横濱市常盤町二丁目
横濱特約販賣　天野支店

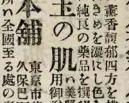
特約店東京小間物卸商組合各店

○此別嬢おまろいの一目れ八只の清水の如くなれども不思議にいろを白くする事雪の如く玉の如し行水湯ゐがかゝみを用ひずして其場ですぐに用ふるとも決してびらにならず○あせ不○ふきでも物は立所にさるがゆゑにとれを用ひ玉はず八一倍の光彩を放つ

東京市日本橋區横山町一丁目一番地
東京市日本橋區横山町一丁目
天野源七
同馬喰町二丁目
平尾贊平
同橋町四丁目
同通鹽町三丁目
同馬喰町三丁目
同神田區須治町
武井麗三
大木口哲合名會社
丸見屋善兵衛
全國至る所の小間物店及藥店販賣所あり

世界無比

またのはなの



化粧品小間物商磨問屋

東京日本橋區横山町一番地
白光散本店
㊥三橋兎喜次郎製

特代約理店

全

發賣商標

匂袋兼用玉の肌石鹼（郵券代用貳錢）

切手に限る

玉の肌ハ薫香調都四方を拂ひ匂ひ袋の代用を爲す日常に必携の寄等有る玉の肌ハ美容の病に色を白くし皮膚一切の病に宜しく衛生上に於て大に有益なる玉の肌ハ綺麗の藥品を撰び精製したる者故海水に宜しく能く入浴の効能あり

玉の肌用御送付

次第御扉可申上候

本舗

東京市芝區西の久保巴町十番地
西洋小間物商稲生商店

○取次所ハ全國至る處の寶藥店和洋小間物及び荒物店等にて販賣せり

餘興

▲東京名物狂歌合（七）　秋の星判

左　宇治の里茶漬　磯部雅友
直の安き茶漬にもまた喜撰てみ
木の芽を添へて出す宇治の里

右　勝　利休庵蕎麥　何の星梅逸
そへてある海苔も服紗の紫や
利久庵に出す溝茶蕎麥

左、宇治に感れし喜撰法師が、好みの茶漬さらさらとよし、とはかいなでの風詠く歟
右、かゝる名歌は世の中に、ふたつと有りは千の宗易、こいちやわ秀逸ゝ相違なし、可爲勝。

左　勝　與兵衛餅　不二の星
干瓢の腹帶しめて出しけり
與兵衛の餅の子持白魚

右　鳥井戸蒸餅　露交
天神の名物とてやとび梅の
飛ひ〳〵見ゆる蒸餅のみせ

左、こちや屋々生じて永らへて、居られるかいなこれ申し、そりや甘いのとやなく、酢いのとやとの口説文句。
右、梅はとび櫻はかゝ、世の中に、何とて松はつれなかゝらむ、女房よろこべ、おみやに蒸餅買うたぞやいの所、出來よろしけれど、淨瑠璃は兎角鮑物にかきまる、書生連の評判〳〵。

名古屋　東北　散人

鳥籠がましくも「就東京小間物商報」の八字を上下の冠字となしてよめる
●區言の聲も高砂謠ひをさめ　東風に帆上けて出る浦舟
●京土產是非美人をと頼りのは　小町紅との謎にてゞゐる
●間抜け野郎一人前のからださへ　物價勝貴九圓判任
●商ひに勉ひ主を挨ひたと　報ゆ神もたすけ掛なり

同　桑國　あるヒ

謎で東京小間物商報の二週年を祝す
二週ゝもれど見ゆかす池の蓮

おとし話し

●取越苦勞　神田　瓢錦

戒鏡物屋へ來た人の客は餘ほど取越苦勞をする人と見へて四方山の話しから追々取越苦勞の綱わろしを始め一時に御主人此節では大層鏡を使用する事が流行て來たが元來西洋諸國では日本のやうに木材や竹類がないものだから止むを得ず石や鏡物を以て種々の物を造るのだのに夫を日本人は何で彼でも西洋の真似さへれば宜いものと心得、第一死ぬ程の柱は鏡、外搬へも鏡棚、門扉は鏡の錦物、夫から橋々も鏡に成れば水道も鏡管になる、其外諸機械諸道具ともソレ鏡だ是も鏡だと何でも鏡さへ使用すれば宜いと思ッて居る此分で押て行うものなら今に家屋も鏡で造れば器物も鏡で製し紙類も無駄になるからと云ッて鏡板で鼻をかみ鏡筥で灰を拭き或ひは勝梱皿鉢德利手桶に至るまで悉く鏡を用ふるやうに成る に違ひないが扨てさうなるとイクラ日本にいゝ鏡が深山ゐると云ッても仕鉢には肝心な庖丁、小刀、刀劍、鋸、鉋、鑿などを拵へる鏡が無くなるだらうと云へば如何にも夫やアきゝ目もの。

●銘　証　曉鴉堂　阿峯

安閑寺の住職が餘り熟いので無常の風ぢやア涼しくないからチト裝束の風に達ふて凌ぐがイヤ堪らない唐扇を手にして納涼裝買物にと木魚の音と諸共にポク〳〵と山門を出掛て、懐の紙帶を何枚だ〳〵と數へながら道で來ると日頃懇意の骨董屋が見附て「イヤ方丈樣御機嫌よろしう貴は貴僧に是非御覧に入れ度ものがありますから一寸御立寄を願ひます「さうかへ何か知らんが拜見しやう」少から古びたる一個の鉢を出して「エ、是は昔し空海上人が入唐歸國の折に持歸られた物だと云ひます上人が入唐歸國の折に持歸られた物だと云ひますが如何でせう「なるほど隨分時代物で怪らしいが全く支那出來の刻ちと揺木と挑て叩いて見れば「チャン〳〵

今樣東京流行とう玄ん入まげ形製造廣告

燈眞入別製
自慢形　壹個入美麗なる箱入
とうしん入
じまん形
燈眞入めんしゆちん製
新東京形
とうしん入
やまと形
とうしん入
三橋形
縮緬裏色各種
福助形
燈眞製卵包入
驚香形
燈眞入り
さくら形
紋縮子特別製
花王形
新橋柳橋流行
眞燈入
いさみ形
並物縮眞入
いろは形

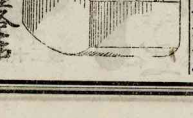
右之外御注文に應じ何形にても製造仕候に付何卒御注支を乞ふ尤も當工場ハ年中各地方より御注文立込居候間御品切の前に可成御ヤ越被下度候

東京日本橋區横山町二丁目壹番地
三橋商店まげ形製造部
小間物問屋
別嬪白粉
本舗　三橋兎喜次郎

東京　安斎永舎製造香之石鹸

廣告

●此愛きやう香は包入天瓜粉のたぐゐにあらず



各府縣下小間物店又は藥舗にて賣捌仕候御最寄に取次無之節は郵便にて御注文願上候
但郵送費一個金二錢增爲替又は郵券代用にてもよろし

電話四百參拾番
佐々木玄蘭

保新薄荷パイプ
吸驗製雲南
附麝香
麝香水

第四回内國勸業博覽會褒賞拜受
宮中御用海外輸出之鼻祖
天下唯一
芳香卓絶
白粉之王

無害性白粉
水製
煉製
甲號大瓶十五錢　小瓶七錢五厘
乙號大瓶十錢　小瓶五錢
丙號大瓶六錢　小瓶三錢
丁號大瓶二十五錢
東京日本橋區小伝馬町二丁目
田中花王堂

齒磨之大元帥
TRADE MARK
全世界衛生商標
用御廳御指定
キヤドラ
名品
製造本舗　田中花王堂

奏効峻烈新輸入化粧劑
ホンメキチ
Tehimenui
K-TANAKA TOKIO
東京中田中花王堂製
登録商標
賞匠登録
定價大二十錢小錢七錢
國選選出新料
切手用

製造發賣元
東京横山町二丁目
大坂佐野屋
星橋谷
田中花王堂
脇田盛眞堂

新形各種
簡可金物
鎖類道具
問屋
善一
日本橋區橋町呼出番地
丸見屋号
長倉爲次郎

各石鹼製造元
東京市神田區江川町拾貳番地
東京市日本橋横山町壹丁目
天野源七
澤井栖蝦
特約大販賣
登録
商標
歌舞伎石鹼
保險品
價値なくして
判價値なし
生命永久に
減ずる
壯健
廉なし
色香もよし
賞玩もよし
東京日本橋區蠣殼町二丁目拾五番地
吾妻留元祖
渡邊茂事
大阪市東區博勞町四丁目
渡邊支店
西筋橋入
東京
商標
吾妻留元
薄利
絶強
各種石鹼
化粧品
問屋
山田篤三
東京日本橋區通五番地
東京通
靴のそで
靴のそで
山田篤三
靴のそで
本舗

登録商標登録意匠
日本特約
丹
松澤化粧品部
常吉
東京小間物問屋各中
發賣元
芳香藥種問屋
日本橋區本石町四丁目
定價
高等彩色燒付壜入　金壹
高等彩色燒付壜入　金五拾
高等彩色燒付壜入　金三拾
高等彩色燒付壜入　金拾
高等彩色燒付壜入　金貳拾
高等彩色燒付壜入　金拾貳
高等彩色燒付壜入　金拾
高等彩色燒付壜入　金貳
高等彩色燒付壜入　金壹

登録商標登録意匠
純良香料
麝香薔薇
一名（モスローズ）

改訂增補
藥製例備考
賣藥
藥劑師
高木與八郎
小泉榮次郎
共編
洋裝美本
全壹册
第一版
明治三十年七月二十日
明治三十年七月三十日
印刷
完成
正價金壹圓九拾錢　郵稅拾貳錢
豫約減價金壹圓五拾錢　郵稅拾貳錢
◎賣藥家は文人墨客の如く當世流行の新語を使用し文章を博士に學ぶ可き筆法を以て紙上に發表し發賣元に對する廣告文は一種の藥劑師たるの資格を有し藥劑師たるの資格を有する者は文章を以て廣告文を作成するの能力を有するの人物なり
◎本書は當世流行の新語を使用し文章を博士に學ぶ可き筆法を以て紙上に發表し發賣元に對する廣告文は一種の藥劑師たるの資格を有し藥劑師たるの資格を有する者は文章を以て廣告文を作成するの能力を有するの人物なり
◎本書ノ體裁見本并ニ目次御入用ノ方ハ郵券二錢ヲ送セラルレバ直送ス
發兌
豫約申込所
東京市日本橋區馬喰町壹丁目五番地
英蘭堂
島村利助

豫約募集廣告
（豫約金申受ズ）（豫約期限後ハ正價通リ申受ク）
四六版○紙數大約六百頁○挿圖數十個
◎見本品御入用の節は郵券（錢）御封入れ送に御送り可致候

東京馬喰町
大郵便局
丹
定價一個二十錢

日月之良品
百猫石鹼

京都紀念博覽會ニ於テひんつけすきあぶらニ進歩銅賞ヲ得タルハ獨リ弊店ノミ

特許賣香蠟（びんつけ）（すきあぶら）告條

從來世に行はるゝ香蠟（びんつけすきあぶら）は木蠟と植物性油にて合製せしもの故寒さの時分に凝る事甚しく暑さの時分は腐敗を來し甚しきの一種の惡臭をさへ發生し貴女紳士の鼻面を汚すことあり本邦舊時の種類多しと雖も唯舊來の製法を墨守して敢て進歩せず故に未だ一も以上の缺點を免るゝものなし勝客の眞誠即ち鼓に有り今や弊店發賣の香蠟（びんつけすきあぶら）は右の缺點を補ひ衛生上の實益を示す其に驚得創世以來の一大發明なるとを確信を之れ**特許**保證の榮を辱ふしたる所以也

本品の特色

○熱に遭ふも酸化の憂なし隨て惡臭を發することなき故に衛生上殊に有益なり
○寒冷に遇へて凝固せざるを以て使用上甚便なり　○粘狀適度滑に毛髮の粘着を生せず　○原油の特性により垢の生ずるを防止するの効あり　○髮附の形狀に於ても特に意匠を凝らし實習を一洗して使用上の便利と其体裁を優美にせり　○定價は一個に付金壹錢より段々金廿五錢迄種々あり　○見本御入用の方へ相當代價及小包郵便料共相當郵便切手加封御申越し次第勉速御送達可致候　○拙方請賣の方へ本支店便宜の方へ至急ヲ込るべし

香蠟（びんつけすきあぶら）ノ二の原料

○パテント油特性

●透明ニシテ淡黃色無臭
●發火点華氏三百七十五度
●比重〃八五十五度
●裝寒冷ニ遭フモ凝固セス
●熱ニ遭フモ酸化セス

右パテン油ハ文明進歩の証見として此びんつけすきあぶら油の如き價高き加之不完全なるものに全然必用なる斯業計會に**種油**・**白絞油**・の如きものとなり製造家會業諸君へ御了越一次第定則代價表等御送達ヲ可し

一切ノ香料

○びんつけすきあぶらに要する香料部を設置し充分原品の撰擇に注意し低廉なる香料を街ゝんが爲に品質を顧みざるが如き世流に呼ばれず亦從來正當なるの少く慮なして常に製造家に於ても其に者を以て同業者と競爭し只只管に純正なる原料を紹介し斯業上の御便宜に資せんとするの素志に外ならず候間宜敷位はず亦敢て同業者と競爭し只只管に純正なる原料を紹介し斯業上の御便宜に資せんとするの素志に外ならず候間宜敷

亦從來正當なるの少く慮なして常に製造家諸君の意に低廉なる香料を街ゝんが

敬ダブルコー、セー、プッシュコー、ポンドの代價表等御送達ヲ可し

近藤商店
近藤支店

販賣元

びんつけすきあぶらニ專賣特許權ヲ有スルハ獨リ弊店アルノミ

直輸入

大阪市西區靱中通り一丁目九十七番地
東京市京橋區南佐柳木町四番地

種類

男子用
女子用
釜形大中小
富士形
小判形大中小

同

勾入

女子用
釜形大中小
富士形

無

女子用
小判形大中小

百枚以上引札千枚以上引札千枚相添中廣告へ御厚居名義加入仕候間送金ノ上早速御廻送ノ上直ニ本舗へ御注文ノ節ハ特約店ニ御照會被下度候

東京特約店

各地販賣

大阪　三久堂
名古屋　村上
同　中村
同　近藤
同　伊藤
●其他各小間物店ニアリ

本舗

東京馬喰町二丁目十二番地

●村藤　同　長崎
●平尾　同　黑立
●佐々木　同　廣本
●花王堂　同　高知山

都築辨吉

花王石鹸

花王石鹸ハ品質最も優良にして特に皮膚の美艶を益し且衛生上大に特効あるハ現くも

宮内省陸海軍帝國醫科大學○

其他各病院の**御用**を命せられ或は博士大家の實驗證明を與へられ沿く內外需用諸君の高評を博したるを以て推知せられんとを希ふ

●賣捌所ハ全國至る處にあり

近來粗製品に類似の体裁を附し販賣する者有之に付本品の正國則登錄商標及長軸富士名義に御注意の上御求被下度候

東京馬喰町貳丁目
製造發賣本舗　長瀨富郎
電話番花二九二

尾上菊五郎發明意匠
全世界無類懷中持水白粉

尾上菊五郎新意匠
懷中持
薫の雪

定價
壹瓶
十三錢

右懷中持水白粉之義は撰て渉風鬱致首候處今般製造相成依て右鑑形渉尊覽に供し候就而は陸續見外愛へ渉注文之程奉願上候敬白

表　白地墨画
裏　赤地裕紫縮緬結ヒ

意匠發明者　東京新橋製造場主任　野田藥剤師
尾上菊五郎
伊東鬼外堂

特約店
銀座一丁目　佐々木
横山町二　江川文堂店
横山町四　花王堂
九見屋
横山町三　通馬町
柏田屋　通馬町二丁目　平和屋
尾屋

●東京市内に評判のよき
ねりおしろい花の雪
中瓶共口定價
改正金十五錢

登録商標
八花の雪

東京市京橋銀座三丁目
富士見加多本舗
大坂屋
松澤八右衛門

大瓶共口定價金弐錢
中瓶共口定價金十五錢
小瓶　金六錢

一賣捌ハ各所小間物店貴樂店にあり
電話本局五百三十四番

平尾贊平夏期發賣品廣告

創設廿五年紀念博覽會
有功銅牌拜受
第四回内國勧業博覽會受賞
第二回内國農商務省評品會受賞
第五回内國勧業博覽會受賞

元祖
大日本帝國農商務省御登録商標
東京馬喰町壱丁目
小町水
岳陽堂平尾贊平製

THE DIAMOND MARK
AN EXCELLENT TOOTH POWDER
登録商標
ダイヤモンド
齒磨
貴功白粉
東京市馬喰町壱丁目
平尾贊平製

貴功白粉
登録商標
ダイヤモンド
一名春雪おしろい
製造元東京平尾贊平

水白粉
高級製
壱瓶十五錢
共二十五錢
煉白粉
共三十大錢
共二十中錢
共二十小錢

本品ハ世上販賣品と異あり我國にて合製せざる効驗藥品を以て製造し身體を害する事なく第一ひゝのそばかすはたけ●たむし●其外吹出物掛手足●われ●こしわをのぞき●夏日に焼す●あせも●かゝひ等なく眞に潔白美艶なる肌となし●ダイヤモンドの名に背かず請ふ渉試用上効能を知り賜へ

定價
貴功白粉
壱瓶入十錢　壱瓶入二錢　壱瓶入五錢　壱瓶入大錢
壱瓶入十錢付錢　壱瓶入二錢付錢　壱瓶入五錢付錢　壱瓶入大錢付錢
高等名木箱入用錢

本品ハ明治廿四年創業以來内外各地に非常なる好評を博し從て販賣高之多き事日本全國中第一とす且品質之純良と價格之低廉なるは普く諸君の認る處也

商標
芳香優美
煉香水
●當分の内
小器十打引札千枚
ラッフ三枚ノ刷合進呈

毎月五日十五日廿五日三回發行壹部金壹錢五厘　編輯兼發行人　西森武

新意匠懷中高等器物入
一名一方年保險器物入
●香水
●麝香水
●レモン油
椿油

今回弊舗に於て新製發賣せし前記四品の器ハ從來世に有無たる陳腐の器物と違ひ何卒美なる新意匠を施し●香水●麝香水●レモン油●椿油の四品に入れ置くも頗る携帯に輕便なり殊に四品共に最上極製にして滿一年の保險を附せり何卒不變愛顧を乞ふ

●一打金一圓●三打以上一打ニ付金一圓八錢●十打以上金一圓五錢●三十打以上金一圓四錢●五打以上一打ニ付金一圓五錢●三十打以上金一圓四錢●五打以上一打ニ付金一圓四錢●三十打以上一打ニ付

（一）　第六千二百號　明治三十年六月廿五日　郵便物認可　東京小間物商報

八王子町火災義捐物品納付濟報告

府下南多摩郡八王子町大火罹災者救助の爲め慈善家諸君より御寄贈下されし物品の領收証左の如し

（領收証の寫）

記

一小兒衣類　參枚
一涎掛　參枚
一手拭　參十節

右の木郡八王子町火災者救助として御寄贈相成正に領收候也

明治三十年六月二十二日

南多摩郡役所　印

東京小間物商報發行人
西森武城　殿

右及御報告候也

東京小間物商報
發行所

雜報

（禁轉載）

●紙製根掛類

▲平瀬川、上中下及び金銀、ちゝみ、紙鶴賀、木春賀、蝶引、小町小町、青原捻、千鳥、金花山、新四段、金銀角捻、霞まき、白蛇、金蛇、糸蛇、白葛引の類大いに向よし

●糸卷水物類

▲糸卷子鳥、中捻、先ばら、金銀簑老、平金銀、金銀五本ばら、巻三本捻、四段小町、有平まき、籠目捻、くさり打、中綱代、霞まき、其他新形捻物各種いづれも賣行あり

●モール花掛

▲結び物時候物各種賣行よし、結び掛物の水玉、團扇、炎、水さかな、菊、牡丹、朝顏、其外モール製流行物いづれも向よろし

●花簪類

▲銀すゝき、大中小、炎、朝顏、花籠、鉢水、水金魚、及び藥玉の類、大中小、モール物、極上等より中等物、ツマミ製の類、上中下、並物美人製メリンス袖物、いづれも新形物賣行よろし

●ゴム製花簪類

▲丸菊、上中下、房付物、炎、牡丹、菊、及びアルミ、洋白、丸花物、上中下、向差花物、ヒタ付なし

●内記及丸ぐけ類

▲組紐、繪付、無地、段染、ぼかし、太、中、細、及び房付、房なし、相變らずの賣行あり、縮緬、無地、友禪、太、中、細、右同斷

●内記打

▲縮物、段物、無地物、金銀入、房付なし、何れも長房の類流行、繩物、無地、源平、金銀入、太、中、細、相變らずの賣行なり

●元結付の類

▲根けし、金、銀、糸物にて一號より三號位の品賣口よし

●一文字類

▲ゴム、アルミ、洋銀、無地物、繪付、袋眼入、役者紋形、切彫、石入、高彫、透し、硝子入、其他新形物、賣口よし

●玉根掛類

▲ゴム玉、上中下、硝子色玉、上中下、其他切子製、新形物、螺貝玉、上中下、相變らず賣口よし

●黃楊櫛類

▲組變らず生地摘底の爲め直印追々高直、故に黃楊一節、及び南京立等も隨つて高直なり、但し情物も右同斷

●塗櫛類

▲黑色文字入、無地、紋付、かすみ繪付、東雲繪付、大内雲母蒔ゴム、肉色、裏塗、能代生地物、上中下、及び朱塗、政子、お初、月形、繪付、無地、上中下共、いづれも相變らず賣行なり

●梅が香油と同樣油は直上せず　日本橋小伝馬町二丁目田村太郎氏の樣て製造發賣する梅が香油と同樣油、其品質の純良なる製法は同氏に於ては此際益々該品の擴張を計らんと欲し此際に勝賣するに拘らず此後常なる高價を見るまでは一厘だも直上せず、器物等を改むるも矢張從前の通りにて販賣すると云ふ實に奇特の強家なり

●農作物害蟲標本寫眞　神田區元久右衛門町なる東京蚕農會尚、會員の藤鎭之助氏は多年農作物害蟲驅除法に苦心の末漸く發明する處あり、以來除虫液、害虫傳防液及び稻苗其他總ての穀作害虫に特効ある藥液を案出し全國農事會長前田正名氏を始め諸學士大家の稱賞を得て今や拍手喝采を以て八道の國民に歡迎せられつゝあり尋常なる同氏の今又農作物害虫の實物を悉く寫眞に撮て軟葉の標本を作り之に明細なる解說を付して出版せり記者素より農事に關し之に關する解說書中その記する所の如くすべ此標本たる實に農家に必要のみならず常に昆虫學を研究し及び農家の子弟を教育する所あるべし而て此標本は本組合員中尾鉄太氏方にて販賣する

●臺灣電線條通令補　臺灣廳底電線條通令に付ては一般私報の取扱ひに關し陸軍省に於ては一應私報の取扱ひに關し陸軍省に於ては一應私報の取扱ひに關し陸軍省に於ては一應

五（會錄事

●本部移轉の通知　今回五二會東京本部移轉に付左通報ありたり

拜啓陳者今般本部を日本橋區上槇町十一番地へ通四丁目大略計の横丁八重洲橋通り）へ移轉候間此段及御報也

追白本會監督副正名氏に去る十六日米國紐育へ到着の報ありたり

五二會東京本部

●紀念博覽會の受賞品名　創設廿五年紀念博覽會に係る本組合の受賞人名いで曾て記せる所ありしが今又餘報の報道に接れば其品名を左に掲ぐ

一香水各種　進歩銀牌　守田重兵衛
一化粧石鹸各種　進歩銅牌　松平小六郎
一櫛笄根掛簪　有功銅牌　守田重兵衛
一香水香油結髪歯磨　長瀬富郎
一香水香油結髪歯磨　三輪善兵衛
一香水丹精　篠崎又兵衛
一化粧石鹸各種　平尾贊平
一香水丹精　小林富次郎

賞狀

荒川卯三郎
武井龍三
田中吉兵衛
長瀬富郎
全

千葉松兵衛
香谷瀧次郎
之浦製作所
竹内善次郎

來る三十二年は慶賀祭界の一大革命にして全國に現在使用せられつゝある約四百萬個の器物は概ね廢物に歸せんとすべき然るに之が供給如何に顧りみるに其年々製造する所の紀計は全國を舉て僅々二萬個に過ぎざるものゝ如し需用供給の權衡を失ること甚だしからずや此時に當つて其眼の人士同心協力して是が大危急を救濟すると同時に又器物の改良異價を顯じ全國同業者の福祉たらんこと大に希望を以て出生したるの文部省小川町二丁目六十番地に下木年一月起工以來殺々として職工を督勵今や全く成功を告たるを以て本月廿五日始業の式典を擧行したり因て該紐工場の設計及び當日の景況を記さんに工場敷凡そ千有餘坪にして蒸氣關室より鍛工場に至るまで總て七棟十二室、其他二十坪餘の事務所及び守衛室食堂等六百餘坪の建築なり而て工事英米の發明に係る最も斬新の機械を應用し分業の法度亦全く驚嘆しつゝあるが故に一ヶ年數十萬個の巨額を製造し得るの見込なりと云へり尚は始業式の當日は此等去大なる建築室内を悉く紅白の幔幕にて蔽ひ又搏内至る處に數百の球燈を點じ或ひは處々に飾り物を爲すなる裝飾の用意全く成るの由に付て招待せ（朝野の神士紳商）午前九時より續々車馬を集て夫より汽笛の號鐘と共に何れも式場なる木工集機室に整列する先づ鍛工場の鎚音神耳を聾し蒸氣を表し終つて小池紐長を始め三輪常務取締役田沼代尾の兩氏締役幷びに來賓に職工に至るまで代る〳〵紐幷しより事務所樓上に於て立食の饗應酒肴の餘興等あり近來稀なるの盛會なりし因みに記す該紐現今の狀勢の開業以來其日猶浅きに拘らず事業の時勢に適切せし製器の正確堅牢なるに依り大いに人士の爲めに歓迎せられ其製造の如きは紐作樣定の個數を過し尚は進み歩の勢ひなれと未だ需用を充す能はずと云へり思ふに同紐は今日の盛況を見るの實に然るの結果にして非ずして亦先見家の遺策其正鵠を誤らざりしに因るならん

●旅行者に對する佛國の通牒

本邦政府にして佛國の交誼に旅行せんとするものは從來外務省に於て旅行券を下附するまでに差支なしとしかすや此度佛國公使より我外務省に左の如き事を申込のり

貴國人にして佛今我交誼に旅行せんとする者へ其旅行券に我公館若しは領事館の證明を要するに於ては本邦人にして佛今佛國交誼に旅行せんとするものは外務省の免狀より佛國公使又は領事の證明と二重の手續を要し若し此手續に反する時は斷然拒絶せらるるに至るべしと云み

●福島荒物小間物商組合規約（承前）

第八條　理約第六條の常務役員滿期に至り總會の決議に依り慰勞報賞金を以て謝狀を呈すること

第九條　常組合員は其吉隙に於て新に同業を開始する者あるとき規約第五條の組合員規定の期限内に組合に加盟すべきこと

第十條　規約第十四條の組合員規定の期限内に納付せざるとき　郵便又は小使を以て之れを請求し其責任を欠敗する例は二ヶ年以上滞納する者は規約第一十條の組合地の同業者に通知

第十一條　當組合は各地の同業者と氣脉を通し相互に關する一切の事業に關し又は營業上に於て之れを改良進歩を計る者とす

第十二條　當組合員は東京其他各地の買賣問屋製造人等の慣習其他慣習及び營業の不足等に付ては其限にあらず其他不正狡猾手段を以て他人を誘者したるものあるときは組長へ申出し組長より之れを組合員へ通告し該不正者とは我組合員は將業商鬼引を爲さざるものとす

第十三條　組合員を他方同業者を問はず賣買に總て現金たるべし謝期日賣買を爲したる場合には一ヶ月以上滞澁せざるべし若し數回督促するも尚遵滞するか或は到底仕拂に應ぜざるときは組長に報告し本條の申出を受けたるときは組合員へ通知し其事柄當組合員に商取引を爲さざるべし其他標者より示行居らたる旨申出て組長より通知の取消を爲したるときは此限にあらず當組合員の雇人にして各家則に定むる年期間忠勤勉勵なりたる者は其主人より其旨組長へ申出へし組長は組合の名義を以て右忠勤者へ對し褒賞狀を用限して其組合員に報告し其忠實を表彰せんが爲め新聊紙掲出すべし不都合の所爲を爲したる者に解雇して差支なる旨組長へ申出へし組長は其名を秘匿の上組合員へ報告す組合員は其者を雇入れざるは勿論勝手取引を爲さざるものとす

第十六條　當組合員の所爲を爲したる者に解雇して差支なる旨組長へ申出へし組長は其者を秘匿の上組合員へ報告す組合員は其者を雇入れざるは勿論勝手取引を爲さざるものとす

第十七條　當組合員の雇人にして前條の報告を受けたる者の所爲を爲したる者に解雇して差支なる旨組長へ申出へし組長は其者を秘匿の上組合員へ報告す組合員は其主人へ報告するものとす

第十八條　當組合員は第三條の法規遵行其他賣買を納附すべし但し破損したるときは各自に於て修繕するものとす（完）

謝辞

左に列記する諸氏い孰れも當時の實業界中に於て其名聲最も鋒しなたるの人なるが其熱誠謝恩を處々我商報の同業者を益する渉なからざる賞賛なられしのみならず殊に下總結城の郡君に至るまで此賞に與ふるを以て出生したるの文部省小川町二丁目六十番地に下木年一月起工以來殺々として職工を督勵今や全く成功を告たるを以て本月廿五日始業の式典を擧行したり因て該紐工場の設計及び當日の景況を記さんに工場敷凡そ千有餘坪にして蒸氣關室より鍛工場に至るまで總て七棟十二室、其他二十坪餘の事務所及び守衛室食堂等六百餘坪の建築なり而て工事英米の發明に係る最も斬新の機械を應用し分業の法度亦全く驚嘆しつゝあるが故に一ヶ年數十萬個の巨額を製造し得るの見込なりと云へり尚は始業式の當日は此等去大なる建築室内を悉く紅白の幔幕にて蔽ひ又搏内至る處に數百の球燈を點じ或ひは處々に飾り物を爲すなる裝飾の用意全く成るの由に付て招待せ（朝野の神士紳商）午前九時より續々車馬を集て夫より汽笛の號鐘と共に何れも式場なる木工集機室に整列する先づ鍛工場の鎚音神耳を聾し蒸氣を表し終つて小池紐長を始め三輪常務取締役田沼代尾の兩氏締役幷びに來賓に職工に至るまで代る〳〵紐幷しより事務所樓上に於て立食の饗應酒肴の餘興等あり近來稀なるの盛會なりし因みに記す該紐現今の狀勢の開業以來其日猶浅きに拘らず事業の時勢に適切せし製器の正確堅牢なるに依り大いに人士の爲めに歓迎せられ其製造の如きは紐作樣定の個數を過し尚は進み歩の勢ひなれと未だ需用を充す能はずと云へり思ふに同紐は今日の盛況を見るの實に然るの結果にして非ずして亦先見家の遺策其正鵠を誤らざりしに因るならん

第一十五條	組合員の他方同業者を問はず賣買に總て現金たるべし謝期日賣買を爲したる場合には一ヶ月以上滞澁せざるべし若し數回督促するも尚遵滞するか或は到底仕拂に應ぜざるときは組長に報告し本條の申出を受けたるときは組合員へ通知し其事柄當組合員に商取引を爲さざるべし其他標者より示行居らたる旨申出て組長より通知の取消を爲したるときは此限にあらず當組合員の雇人にして各家則に定むる年期間忠勤勉勵なりたる者は其主人より其旨
第十六條	當組合員の所爲を爲したる者に解雇して差支なる旨組長へ申出へし組長は其者を秘匿の上組合員へ報告す組合員は其者を雇入れざるは勿論勝手取引を爲さざるものとす
第十七條	當組合員の雇人にして前條の報告を受けたる者の所爲を爲したる者に解雇して差支なる旨組長へ申出へし組長は其者を秘匿の上組合員へ報告す組合員は其主人へ報告するものとす
第十八條	當組合員は第三條の法規遵行其他賣買を納附すべし但し破損したるときは各自に於て修繕するものとす（完）

謝辞

左に列記する諸氏い孰れも當時の實業界中に於て其名聲最も鋒しなたるの人なるが其熱誠謝恩を處々我商報の同業者を益する渉なからざる賞賛なられしのみならず殊に下總結城の郡君に至るまで此賞に與ふるを以て出生したるの文部省小川町二丁目六十番地に下木年一月起工以來殺々として職工を督勵今や全く成功を告たるを以て本月廿五日始業の式典を擧行したり因て該紐工場の設計及び當日の景況を記さんに工場敷凡そ千有餘坪にして蒸氣關室より鍛工場に至るまで總て七棟十二室、其他二十坪餘の事務所及び守衛室食堂等六百餘坪の建築なり而て工事英米の發明に係る最も斬新の機械を應用し分業の法度亦全く驚嘆しつゝあるが故に一ヶ年數十萬個の巨額を製造し得るの見込なりと云へり尚は始業式の當日は此等去大なる建築室内を悉く紅白の幔幕にて蔽ひ又搏内至る處に數百の球燈を點じ或ひは處々に飾り物を爲すなる裝飾の用意全く成るの由に付て招待せ（朝野の神士紳商）午前九時より續々車馬を集て夫より汽笛の號鐘と共に何れも式場なる木工集機室に整列する先づ鍛工場の鎚音神耳を聾し蒸氣を表し終つて小池紐長を始め三輪常務取締役田沼代尾の兩氏締役幷びに來賓に職工に至るまで代る〳〵紐幷しより事務所樓上に於て立食の饗應酒肴の餘興等あり近來稀なるの盛會なりし因みに記す該紐現今の狀勢の開業以來其日猶浅きに拘らず事業の時勢に適切せし製器の正確堅牢なるに依り大いに人士の爲めに歓迎せられ其製造の如きは紐作樣定の個數を過し尚は進み歩の勢ひなれと未だ需用を充す能はずと云へり思ふに同紐は今日の盛況を見るの實に然るの結果にして非ずして亦先見家の遺策其正鵠を誤らざりしに因るならん

常州下館　佐野屋平造君
陸中中國盛岡　小林商店君
北海道釧路國厚岸港　小林商店君
同國同港真砂町　江鍵大太郎君
羽前國米澤　辰巳屋左之助君
岩代國福島町　白川己之助君
陸前氣仙郡高田　菊池重造君
信州伊那松尾村　田中藤一君
信州飯田　中屋三次郎君
伊豫國今治本町　長野富助君
下總結城大町　長谷川陸平君
同　同　同　

●前田正名氏去月廿八日出發の同氏は去十六日モントヤナルへ無事到着せし旨米國紐育發の電報を以て通知ありたり

●營業稅徴收　苦情紛々たる營業稅い愈々來月第一回の徴收を爲すといふ

東京商業會議所の調査委員會ハ毎金曜日に開くことゝし又市内各會社各組合等に於て稅賣の取扱上不便を感する點ハ其に稅法實施後の經驗上改正を希望する點等もあらば申出でしむることに決し夫々照會せりと

●伊國美術博覽會に付本邦品に對する國の屬望は尋想外に非常にて其開場の四月廿八日に延期せられしも本邦出品の延着之が一大原因たり本邦駐在公使たりしコントフェ氏（當時元老院議官）も所有の日本品を出陳する都合なりと

●弘前小間物商組合　殖産同組合設立に奔走しつゝありしが人々此度同公園内廻年樓に於て創立會を開きしに來會者五十餘名にて規約其他協議の末役員撰擧を爲しなほ會頭に野崎九兵衛、理事に關清六、荒岡淑七、關喜吉、常議員に木村象一、東海鉞藏、手塚銀藏、竹内清吉、山形重次郎の諸氏が選ばれ、なほ同氏の代議員に木村象一、會計係に工藤忠左衛門の諸氏當撰就任し夫より目下商業界に蟠まりて頭上を脅かしつゝある營業稅法の件に就て協議する所あり結局稅務署へ屆出の訂正に就てハ成べく公平の處置を爲す事に決し終て親睦會に開きたりと云へり

●市川　群馬縣高崎市小間物商組合の永田雄吾氏ハ同組合員前川忠兵衛氏の逝去を傳聞し哀悼措能はずとして左の弔歌を送られたり

東京小間物卸商組合に力を盡されし前川忠兵衛氏の不幸にも世を去りたるひしい實に惜みても惜まれる人なり此程ての如き不忠池嘘に於る諸組合の人々の祝宴をあるに就けても君在さぬ世に嘲笑を喜びたまふらんと慨歎の情黙止がたく斯くなん

しのばずの池にひかしの忍ばれて
蓮の上に君や見るらん

●我銀貨買込　香港、上海及び新香坡等に於て去月廿八日出發の同氏は去十六日モントヤナルへ無事到着せし旨米國紐育發の電報を以て通知ありたり

●營業稅徴收　苦情紛々たる營業稅い愈々來月第一回の徴收を爲すといふ

東京商業會議所の調査委員會ハ毎金曜日に開くことゝし又市内各會社各組合等に於て稅賣の取扱上不便を感する點ハ其に稅法實施後の經驗上改正を希望する點等もあらば申出でしむることに決し夫々照會せりと

●伊國美術博覽會に付本邦品に對する國の屬望は尋想外に非常にて其開場の四月廿八日に延期せられしも本邦出品の延着之が一大原因たり本邦駐在公使たりしコントフェ氏（當時元老院議官）も所有の日本品を出陳する都合なりと

●弘前小間物商組合　殖産同組合設立に奔走しつゝありしが人々此度同公園内廻年樓に於て創立會を開きしに來會者五十餘名にて規約其他協議の末役員撰擧を爲しなほ會頭に野崎九兵衛、理事に關清六、荒岡淑七、關喜吉、常議員に木村象一、東海鉞藏、手塚銀藏、竹内清吉、山形重次郎の諸氏が選ばれ、なほ同氏の代議員に木村象一、會計係に工藤忠左衛門の諸氏當撰就任し夫より目下商業界に蟠まりて頭上を脅かしつゝある營業稅法の件に就て協議する所あり結局稅務署へ屆出の訂正に就てハ成べく公平の處置を爲す事に決し終て親睦會に開きたりと云へり

●市川　群馬縣高崎市小間物商組合の永田雄吾氏ハ同組合員前川忠兵衛氏の逝去を傳聞し哀悼措能はずとして左の弔歌を送られたり

東京小間物卸商組合に力を盡されし前川忠兵衛氏の不幸にも世を去りたるひしい實に惜みても惜まれる人なり此程ての如き不忠池嘘に於る諸組合の人々の祝宴をあるに就けても君在さぬ世に嘲笑を喜びたまふらんと慨歎の情黙止がたく斯くなん

しのばずの池にひかしの忍ばれて
蓮の上に君や見るらん

●我銀貨買込　香港、上海及び新香坡等に於て去月廿八日出發の同氏は去十六日モントヤナルへ無事到着せし旨米國紐育發の電報を以て通知ありたり

●營業稅徴收　苦情紛々たる營業稅い愈々來月第一回の徴收を爲すといふ

東京商業會議所の調査委員會ハ毎金曜日に開くことゝし又市内各會社各組合等に於て稅賣の取扱上不便を感する點ハ其に稅法實施後の經驗上改正を希望する點等もあらば申出でしむることに決し夫々照會せりと

●伊國美術博覽會に付本邦品に對する國の屬望は尋想外に非常にて其開場の四月廿八日に延期せられしも本邦出品の延着之が一大原因たり本邦駐在公使たりしコントフェ氏（當時元老院議官）も所有の日本品を出陳する都合なりと

●弘前小間物商組合　殖産同組合設立に奔走しつゝありしが人々此度同公園内廻年樓に於て創立會を開きしに來會者五十餘名にて規約其他協議の末役員撰擧を爲しなほ會頭に野崎九兵衛、理事に關清六、荒岡淑七、關喜吉、常議員に木村象一、東海鉞藏、手塚銀藏、竹内清吉、山形重次郎の諸氏が選ばれ、なほ同氏の代議員に木村象一、會計係に工藤忠左衛門の諸氏當撰就任し夫より目下商業界に蟠まりて頭上を脅かしつゝある營業稅法の件に就て協議する所あり結局稅務署へ屆出の訂正に就てハ成べく公平の處置を爲す事に決し終て親睦會に開きたりと云へり

●市川　群馬縣高崎市小間物商組合の永田雄吾氏ハ同組合員前川忠兵衛氏の逝去を傳聞し哀悼措能はずとして左の弔歌を送られたり

東京小間物卸商組合に力を盡されし前川忠兵衛氏の不幸にも世を去りたるひしい實に惜みても惜まれる人なり此程ての如き不忠池嘘に於る諸組合の人々の祝宴をあるに就けても君在さぬ世に嘲笑を喜びたまふらんと慨歎の情黙止がたく斯くなん

しのばずの池にひかしの忍ばれて
蓮の上に君や見るらん

●**夏季流行の髪飾**

四季折々の眺めを變ふるは月雪花のそれにも劣ム春過て夏來ハ蓮の花美しき都下の婦人の髪飾なるべし高雅繪畫の美しき親細工に意匠を凝せる櫛、笄の節をしなやかに丸髷の夫人奥様達ハ櫛、笄とも象牙の對にて之を山の細工淡泊なるを喜び白襟、紋附着たる儀式の席にも象牙は當世風なりとて本鼈甲最上のものを駒び鎖向きの櫛ハ敷、五圓以上三十圓迄、笄ハ同じく五圓以上三十圓迄、令嬢向きの櫛ハ敷子形象牙の生地に花鳥の透し彫、笄ハ丹の高彫りなど好みにて價七圓宗、之に白象形の中蓋對を好むもの、價十五圓内外なり

御新造様さんにて夏向き鳴田、丸髷の重き髪ひ嚊せり時繪の櫛、笄ハ金蒔繪に木地に好みの時繪したる櫛、笄を用ふる者あり是等は最も新規を絵る意匠の設錦に屈指する人々なるべし價四圓五十錢以上十二三圓迄

總じて近年一般の流行は御婦風と稱へて高蒔、鼈甲、銀造りを專とし木地類に向ふやうす又工夫する者も無かりしに機轉して昨年の夏より木地こそ當世風と賞美するに至るなるを加へ後ろ挿り鼈甲清し稱なる無地の瑪瑙六分玉に烏鐵絲葉足のもの大流行にて價並べの四五圓より最上二十圓位迄なり是は若向にて金無垢の足、瑪瑙の玉を嫌味なりとする貴澤界の好みなりとかや又年齢三十以上にて貴素一方の世帯持ち云ム向い同じ造りに玉い四分半の好ム多し見て石入りの管掛、珠の類ハ慰れて瑪瑙の三分玉流行せり價ハ十圓以上なりとのこと

最上等匂袋定價

ウテ百花園　蔚香入製紙珍地櫛　蔚香入製紙珍地櫛　蔚香入製紙珍地櫛

●臨時博覽會事務局委員會　臨時博覽會事務局にては今回同局より巴里萬國博覽會に出品すべき美術品及び美術工藝品出陳の順序方針に關し去る十五、十六兩日間撰擇の調査委員十五名出席して評議會を開き九鬼副總裁は席の上一場の演說ありて夫れより種々審議する所ありしが當日調査議決せし次第ハ左の如し尤も愈〻實施の期に臨んでハ或ハ多少變更あるやも測り難しと云ふ

議決

一事務局より出品すべき美術品及び美術工藝品の種類點數及び補助額左の如し

一日本畫　三十枚　六千圓

一西洋畫　六十枚　六千圓

以上は日本美術協會、京都美術協會、日本繪畫協會、明治美術會、白馬會等に照會し其會員中優等のものを撰擇して製作物を提出し事務局に於て撰擇の上出品に適すと認むるものに限り相當の補助金を支給して之を出品せしむ但撰擇の上適當のもの少なきときハ必ずしも前記の數に滿たしむるを要せざる事

一日本彫刻　五點　一點六百圓　三千圓

一西洋彫刻　三點　一點六百圓　千八百圓

明治美術會及白馬會に照會し其會員中優等のものをして製作物を提出せしめ事務局に於て撰擇の上出品に適すと認むるものには相當の補助を支給して之を出品せしむ但適當のもの少なきときハ必ずしも前記の數に滿たしむるを要せざる事

一日本彫刻　五點　一點六百圓　三千圓

一西洋彫刻　三點　一點六百圓　千八百圓

明治美術會及白馬會員中優等のものをして製作物を提出せしめ事務局に於て撰擇の上出品に適すと認むるものには相當の補助を支給して之を出品せしむ但適當のもの少なきときハ必ずしも前記の數に滿たしむること

建築圖案　五點　一點三百圓　千五百圓

彫刻　十點　一點百五十圓　千五百圓

一萬九千八百圓

陶磁器　四點　一點六百圓　千八百圓

七寶　三點　一點三百圓　四千五百圓

蒔繪　三點　一點三千圓　九千圓

彫金　四點　一點二百圓　四千五百圓

牙彫刻　五點　一點二百圓　六千圓

錺金　二點　一點三千圓　六千圓

刺繍　二點　一點五百圓　千圓

綴錦　一點　一點　千圓

象嵌　三點　一點五百圓　千五百圓

銀金　三點　一點五百圓　千五百圓

一萬三千二百圓

內外國室內裝飾　三萬三千圓

計　三萬三千圓

共巴黎會展覽有等賞上　一萬五千圓

計一萬五千圓

合計十萬圓

一日本彫刻及陶磁器以下寫眞全までの各種物品ハ製作費用五割を限度として補助すると雖も以上の物品は製作せしむる事

但製作品製子の上事務局へ提出せしめて之を鑑査し際て申出の費用に對し不相當と認むるときハ補助額を減ずることあるべし

又鑑査の上出品に適すと認め出品せざるときハ審て定めたる補助金額の半を支給す

一日本彫刻ハ製作を命ずる前製作者をして豫め費用を申出でしむる事

一美術工藝品の製作を命ずるの前事務局より豫め製作の品柄及び寸法の概略を示し製作者をして之に對する略圖案及び製作費用を申出でしむ事務局に於て之を鑑定し適當と認めたる本圖案を調製せしむる事

●鶏林奬業團命令書　此程農商務省より鶏林奬業團へ金一萬圓を貸與せられしは豫て聞く所なりしが其際同團への命令書は左の如くなりと

在朝鮮國仁川港鶏林奬業團本部

明治三十年四月より來る三十一年三月迄の朝鮮貿易に關する別紙の事項調査を囑託し右報酬として金一萬圓を附與の事

一朝鮮各團市場の實見狀況

一內地行商の狀況

一本邦產の朝鮮人民の嗜好需用の適否

同上其嗜好に適せしむる改良事項

一本邦より朝鮮、輸出する商品を他の外國より輸入する同種商品との比較並に競爭の狀況

一本邦と朝鮮との爲替金融の便否

一朝鮮國內に於ける本邦人間及び本邦商人と彼國商人間の爲替金融の情況

一奬勵團規約第二章第十一條伍長の報告事項の類聚記載しむること

內地行商の狀況

其他何等にか拘らず商國間の通商上有益と認めたる事項

右各項目々に一回宛報告すべし

明治卅年四月廿八日　農商務省

●酒精の騰貴　輸入品の近來一般に沈降なるに拘らず獨り輸入アルコールのみハ賣行非常に活潑にして相場ハ一頃引締り百甘封度入り四錢一國十圓二十錢迄ありしが其後五厘に騰貴せり蓋し內地候下者及び精製者共大抵無價格にて賣越の結果なるべしと云ふ

●酒造の稅　酒造の稅ハ不正酒の原料へ勿論夏季麦酒の原料に使用するもの多き爲なりといふ

●無鉛毒白粉元祖

宮内省御用

登錄商標

●右薔薇散ノ二有之候處今回●白粉ハ是迄●水製●粉製

肉色●煉製　特別大瓶入
白色●水製　大瓶入
●粉製　中瓶入
小曲入

●煉白粉ヲ精製倍舊之御愛顧ヲ以テ發賣仕候ニ付何卒本舗上候

陸續御注文之程伏而

製造元寶丹散本舗　東京　比留間民藏

元發賣本舗　東京横山町壹丁目　天野源七

陽西一手大販賣　大坂市南久寶寺町三丁目　萩原吉兵衛

特約一手大販賣

販賣店　東京小間物商組合中

○賣捌所ハ市内及各地有名ノ小間物店賣藥店等ニ於テ大勉强販賣仕候

銀座一丁目　馬喰町一丁目　通二丁目　橋場町二丁目　下谷　江川町　神田　坂町　上野　馬喰町一丁目

府販賣店

やまふきん本舗　佐々木芝兵衛
小町水舗　尾賀平
柳屋五三郎
清香本舗
白光散本舗
橋場喜次郎
丸見善兵衛
見善善兵衛
小間物商屋
櫻香本舗
めさやー本舗
高屋金五郎

第四回内國勸業博覽會受賞

新發明專賣特許

雲井織

名政良森乃子

織元　京都　坂根兄弟商會

御婦人用

花元結手胡麻手ふり地　▲金入り　▲金なし

織物にして今其織ると雖も新奇なる絞に用の大略を述べんに該品は從來に於ける三浦絞の類なれ共織たるに輪ぬたるに非ず又絞りたるにも非ず即ち一種の新發明に依て顧る叮嚀に之を織成し汚染るものなれば假令清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみな原絲染料共に充分其精を撰びつくあるを幾度洗ふとも爲め地質を損しまた伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の道にも適ひ流行季節向何れも御好み次第に之ゆゑ御試用の上極端御注文の程伏而奉願候

日本橋區横山町四丁目電話浪花四四八番

製造一手　江州川並　外村新五郎
販賣　元京都烏丸六角下ル　加納作之助

この雲井織と例するは繁店が多年の經驗と幾多の苦辛とを積み漸やく茲に發明製造せし前代未曾有の織物にして今其織ると雖も新奇なる絞に用の大略を述べんに該品は從來に於ける三浦絞の類なれ共織たるに輪ぬたるに非ず又絞りたるにも非ず即ち一種の新發明に依て顧る叮嚀に之を織成し汚染るものなれば假令清水にて之を洗ふ時は再び元の美麗に立戻るのみな原絲染料共に充分其精を撰びつくあるを幾度洗ふとも爲め地質を損しまた伸縮變色等の憂ひは決して之なく殊に價格も廉にして經濟の道にも適ひ流行季節向何れも御好み次第に之ゆゑ御試用の上極端御注文の程伏而奉願候

日本橋區横山町四丁目電話浪花四四八番

東京發賣元丸見屋善兵衛

特約大販賣天野源七

日本橋區横山町二丁目

特約大販賣森本支店

日本橋區横山町二丁目

特約東京小間物問屋各店

其他全國到る處の小間物商屋雜店に販賣仕候

東京及ビ諸國小間物問屋にて廣價卸賣仕候

○生白粉各種
○煉白粉元料
○各地製造者と特約仕候
○司磨香油
○流し類
○水白粉元料
○白粉入各種
○其外白粉一料一式
○製造用卸賣
○仕居り極めて廣價に卸賣仕候間多少に限らず御取引致す度此段謹告候也

東京神田佐柄木町　山本逸造

天下敵

なら無雜の淺粉弊店專賣品なり

賣人社會に信用を博せり

登錄

雪の艶

商標

壹錢　壹錢　壹錢

定價　壹錢入　壹錢五錢入　壹錢三十錢、特別製五十錢、同製箱入拾五錢入　壹錢五錢入　壹錢五錢入　壹錢五錢入　壹錢五錢入　壹錢五錢入

越相成度候也

發賣店　吉田雷名堂

東京市日本橋區横山町四丁目

電話浪花四四八番

東京市日本橋區横山町四丁目

小間物問屋　丸見屋善兵衛

東京市日本橋區通町五番地

廣告

高尚優美蒔繪術

高尚優美蒔繪術

善

本甲臺蒔繪彫刻揃物櫛笄
惣張臺黑唐代生地繪金地
高評漣彫揃物櫛笄簪中差
推朱彫揃物櫛笄簪兩天一貫
新形朱推朱政子●政子鬢
各種共柳鬢糸政子形鈎形
上等玉入簪向差長房付簪

○遠山霞

（第十八回）

一瓢子稿

忠常は大紋の袖後ろへはねて廣元が前へ進み寄り思然らば拙者は邸に歸り急き邸黨を召集て要慮〳〵を餐固致一市中の騒ぎを取鎮めて御沙汰を相待つ事に致さうといへば廣元打點頭き　廣何分其儀頼み申す拙者へ結城殿右京之進殿立會の上尚よく三平太を吟味致し事の始末を言上致す其手續を計らひやうさう和田殿へ御苦勞ながら是より大奥へ罷り出て女房阿波のお局をもつて昨夜以來の一伍一仆政子樣御前迄で御執奏が願ひ度尊長つて御坐る品山殿にハ御繼家の好誼北條殿へ罷り越し是迄の精しく唯今の一儀を　馬京之進赤らひ顔を押隱し義盛が前に頭を下げ　曾委細畏まりすて御坐る拙者命に代て救ひ出しやすべければ必らず御安堵下されといへば重忠も傍はらより　馬成程是は其處許に限るちと難儀なる御儀は拙分共其油斷なる樣と心を注けて立出でぬ跡に仲業　両人の心強え難有しとも嬉しとも譬ムべき樣もなくしや梶原が邸に於て數多の武士よ取囲まれ其場に討死を遂ぐるとも惜しからぬ命なりと心の内に勇みをなし廣元の調べを聞　間ぬ早く日暮れよ夜になれよと時の至るを待ち居れり

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

ゝ少しく笑を浮べ　馬お聞の通り拙者ども大切なる用事を帶し夫々の向へ罷り越すが然氣がさらない綾衣殿の身の上結城殿へ心强く忠義の爲にハ要らぬ娘と那の通りに云はれたが恩愛の情い又格別救ひ得らゝ命なら救ふてやるが武士の道天も所在知れぬなら致し方も御坐らぬ其處許に御承知の通り正しく梶原が邸へ捕はれ難儀致し居る事と存ずる間大江殿の調べ相濟んだれと其許御若勞でも人知れず梶原が邸へ忍び入り綾衣殿を救ひ出し大江殿邸まで お伴ないが願ひ度い尤も倉中へ用心堅く入るべき樣もあるまじとけれど今宵は丁度廿日の闇月なる宵を幸ひにと云含ひれば右痛はしや綾衣が梶原が邸の奥一座を離れし獄の屋の一間の中に取込められ情用殺の荒縄に繊弱き身体を縛しめられて身動きへも儘ならず傍へにハ復奪せし殺れれ男五七人いと厳とかに固めたれバ逃れ出づでき樣なく厳に取られし小雀の羽搏きも出せ甲斐なくこて泣くより外の事となき武士とゝ坐ろに哀れと見て「コレサ綾衣殿やら唯夜此方へ來た時ゝ度々源大殿がわせられて言葉を盡てしやるやうやまで氣强くすとつい應と靡いた方が徳ちや方や富時雲倉で狂狼のよい梶原殿の嬢女となれバ禁廷葉華心の儘ちゝ例が今日の事ちやとなれ此處の親と那が大江殿の和田殿お抓の振舞を氣に食はぬとてるかい腹立明日　家人を引具して將軍樣の御前へ出て彼等の罪ゝ鳴らすと　邸の内外ハ用心堅固綱旦那の電光に會ふてはエ田も皆な一般ゝ何うで叶ハぬ事ちと强情いと丈頑とハもの斯ういふ内にも又例の若旦那が來さつしやるゝ早ふ思案して其鍵を解いて貰ふ樣に云ふたがよいと諄ゝいふ程耳に蛙　綾エ、汚らはしい其樣な事聞く耳持たぬ假令此身ハ殺るゝいとも梶原如く依者に從がふてよいものゝ寄なくゝ計ハ女に涙を飲み居たる折柄如ハ丹　原季が通行を聞て入來

○廣告

新發明化粧品元祖西洋人造麝香入り花いかだ　乙女肌　二付注意

定價
貝入一箱　一箱入一貝
五箱　廿箱入

此乙女肌は冬期の販賣品をのみ御承知の御人有之故に候得共本品は白粉下に用ひて最効なる製剤なれバ夏冬共御使用あれバ皮膚の軟密に光澤を顯し且ゝ多量の人造麝香を配合すれバ使用後香氣薫郁として匂袋を携帶せるが如くなれば夏期に至り候共續々賣行あるは發賣以來御販賣諸君の既に御承知候得共其規御販賣者に在ては夏期に至り腐敗變色等は香氣消滅等の患ひ有之故に御擬念有之候得共本品は從來の花袋又は同種類の模造品と大に製久敵なれば石等の患無之事は弊堂の確証る所なれば續々御販賣被下度奉希上候

東京日本橋區横山町　丁目
内外有名化粧品御問屋
牡丹　精本店　田中花王堂
クリーメン水

▲最近登錄商標摘要

◎品名、石鹼　隸書高尾石鹼の文字
東京府　原　清　三郎
◎品名、紅粉、顏料、鉛粉、波紋を有し足を象首に擬したる臺形の火鉢を挿したる圖
横濱及神戸居留地英國
ウイルフリー、ウヨング、トンスチル商會代理人
◎品名、齒磨、洗粉　高田を以て向ける蜂を書き其下方に隸書にて蜂印と書下たるもの
東京府　平澤　重助
◎品名、麝香、石鹼、其他藥品類圖　東れたる柴を脊負ひたる一頭の牛が紙牌を掛て一個の童子を載せ左方に向ひて地上を歩める圖を畫きたるもの　同
一個の婦人が一個の嬰兒を懷にし壁手にて紐を背負ひて頭上に翳し隻手にて一個の少年を撞て左方に向て蹠躍し右側に一個の少年が隻手に杖を持ち刀を帶び左向して立ちたる圖を畫き其左上方に隸書にて「常勝石鹼」の四字を稍く斜めに畫たるもの　同
◎品名、紅、白粉　顏料、其他雜類種類より成る横長方形欄を設け其内邊に沿て菱形狀をもつて二箇の漏形を稍く斜に左右より交互に併列し欄内上部中央に鍔狀をもつて同形のものを設け其内邊に沿て菱形狀の二箇の鍔

◎日本人恐るゝに足らず　左に錄する所い印度タイムス新聞が日本は商業上の敵として恐るゝに足らざるを論ぜしものにて其言實藥に中らざるもなれど亦我國民の警省すべき點もあるに依り其大要を抄譯す

製鐵所の紹介

誰か日本國を目して將來恐るる可き敵なりと云ふや苦し日本にして其現域を目下鳩國に限らしめ其發達も亦知る可きのみなを製鐵所の例に看よ日本は此點に於て決して泰西と競爭するを能はず既に鐵及び鋼鐵を產出せざる國は決して歐洲に大競爭者と爲るを能はざるなり日本政府は今や製鐵所を設けんが爲に大に盡力し居れり而して其結果の良好ならざる可きは今より之を推測するを得べし

人は云ふ日本の石炭は遠く南ツールスの石炭を壓倒するに至るべしと然れども此如き傾向は何れにあるや專門家の調査する所に據れば日本炭礦の年々の產出額は三百萬噸に過ぎず若し之に非常の盡力を加ふるも僅に百萬噸を增加し得るのみ之を英國が毎年二億萬噸の產出に比すれば決して問題の談にわらざるなり且つや日本の鐵石を製造物の繁盛及び薪木の不足は忽ち石炭の需要を減ずるに至る可し

輸入品の石炭

過去十六年間に於て日本の人口は人口と食物

三千五百萬より四千二百萬に增加せり而して田野の開拓に六百二十二萬七千エーカルより六百七十萬二千エーカルを增加せしのみ且つ日本の山國なるを以て耕作に適するの地限りあり是を以て米價の次第に騰貴し勢外國の米を輸入せざる可からざるに至れり

日本人の習癖

日本人は外國米を厭嫌し極めて臭穢なる勞働者と雖も亦之を買ふことを敢てせざるなり博士ドロパース氏の日本人の此習癖を以て人口の增加及び產業の繁昌を妨害するものとせり實に日本人にして其食物に就て其習癖を改むるあらずんば決して大なる產業物となる能はざるなり

日本人の泰西人と競爭して常に勝者の位置に立つ所以のものは日本人の賃銀の低廉なるにわり然るに現今日本に於ては文明と共に其生活の程度非常に高きりたるを以て古昔の粗樂物の增加を要求し大家の給料賃銀に於ては一日に賃銀の七分の增加を爲し他の地方も亦賃銀增加の傾向を生じたるを以て漸次に進歩し外國と同一の程度に至る可き無くんば決して遠に外國と同一の程度に至る可き無くんば決して遠に外國と競爭するに足らざるなり

日本人の從來成功したる所以は日本人の勤勉なるに在り然れども其實に健全確固たる產業國人となるんと欲せば先づ此模擬心を打破し獨創自立の性質を發揚して以て國家の基礎となさゝるを可からず然れども日本人果して此點に性を有するや否やは之を將來に到て調査するの外なし此上の事實より推測せば世界の日本人を恐れざるものは唯清國人のみなり云々

◎生絲御產商の營業稅

生絲に附する荷爲替立替金に一種の貸金にして營業稅法の金錢貸付業なりと認定し横濱稅務署い東京管理局長の命に依り課稅の手續を執行せしとせしかば生絲商の之に反對し其理由を陳じ萬一決心して運動中なりと大藏省政務課を進迫し決心して運動中なりと大藏省に再請の本法文の解釋い兎に角之を屬行せざ地方の實業に至大の影響を與へ貿易の消長に關するのみならず目下奬勵中の殖產興業の發達上如何害少からず且つ該法施行の初年より官民間に一種の疑惑を釀すい甚だ遺憾なりとて行政處分上遂に執行を中止するに省議一變し其旨訓令する所ありたれば生絲商に對する營業稅法の施行は單に仲買業のみ着に出でしむるとなれり然るに生絲商と事實を同うする海產乾物賣込商いに稅務署の命を奉し金錢貸付業と屆出めしいとの如く決定し屆出に及ばざる旨を通達したる由有り單に横濱のみならず神戸港の同業者へも其筋より同一の通達を爲したりと聞く

帝國唯一人躰垢落し廣告

第一はだをやわらかに色を白く飾を出し眞のやまとはだにそむかざる無垢の垢落しなり

製造元　東京第一垢尾崎氣藥堂
同第二工場　高木新助
發賣代理店　江川支店
關西特約店　海津與兵衛
大坂府八賣寺町三丁目　小山由藏
同　京都市堀原通高倉西エ入　同
日本橋區馬喰町一丁目　平尾贊平
同區十軒店角　大橋博愛堂
名古屋銀商町三丁目　森本善七

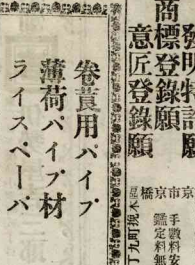
定價　小袋六十包紙入袋付金十五錢　同　服賣代望ノ方ハ通知次第割引法　申進候

特約店

日本橋區廣小路町二丁目　田中花王堂
同區橋町四丁目　丸見屋善兵衛
京橋區銀坐二丁目　佐々木玄兵衛

其他販賣店ハ東京小間物卸商組合各店又ハ賣藥店ニ賣捌仕候

兎月石鹼は世界流行石鹼の王



皇室御用品

發賣元　東京通り油町　清水開花堂
關西代理店　大坂府八賣寺町貳丁目　萩原吉右衛門

發明特許願
商標登錄願
意匠登錄願

東京府麹町區三番町
東京市麻布區
手數料安
鑑定料無
麹町區
橋
日目九番地

卷莨用パイプ
薄荷パイプ材
ライスペーパ
各種製造元
舶來パイプ問屋
東京市日本橋區通鹽町四番地
營谷爲吉

●代金引換小包郵便　昨年十一月開始し可来本年三月迄に取扱へる個數一萬七十九此金額八萬四千四八十五圓六十二銭七厘にして最も多きは富山宮崎山口香川佐賀最も少きは東京埼玉神奈川大阪奈良等なり

●個人貸付と各銀行　日本銀行が個人取引を開始したるに付一般銀行者の多少の影響を受くるなるべしと雖世人の想像する所なりしも一般銀行者の貸出し日少と雖も日本銀行より一般銀行者への貸出し日歩との間には現在四五厘の鞘ありて鞘取のみに熱中するも未だ割高からず且担保（日本銀行の所謂見返り品）格は日本銀行に於て時價の六掛けを標準としたるより比較的割多き一般銀行者に融通し難くなるは當然の結果と謂へべし故に従来の如く法外の鞘を利する能はざる迄に格別の差響きい無し但し保証品價格を六掛けと爲せしより従来より借出し高減少せる者あり此等は一般取引者には然る時は従来に比し頭金を多額にせざるを得ざる不便あり て勢ひ小資本の高利借銀行に多少の餘響を及ぼすならんといへり

▲平尾氏近縣旅行日記　（承前）

五月廿三日　早朝笛林を一巡し佐野を經て足利に至り一泊す

佐野は人口二万七千余戸にして四町位先づ笛林に劣旅なり同業者重なるも五六名あり足利は栃木縣中第三の市街にして人口一萬五千、所謂足利氏勃興の地なり織物を以て名あり商業地なりとす

足利を發し佐野に至り直に下田沼に至る。荷生等を一巡し再び佐野に立戻りて後田沼に入り人口一百有餘あれども町は左程に盛ならず

佐野は人口五千四百餘あれども最て繁盛の地にあらず

栃木町は人口二萬有餘あり商業の盛なるは宇都宮に讓らず流石は舊城郭のありし土地だけあり て同業者多く遙かに宇都宮に優れり

此地一里餘を隔て太平山の麓あり此山上に登れば遠く大江戸方を望め又若松・唐澤の諸山あり又關東の平野は總て一眸の中に在るものの如し

同廿五日　宇都宮市に至り一泊す

宇都宮市は近郊第一の都市なり日光を遂んで著しく進歩し子が四五年以前此地に至りし頃とは亦渺からず

同廿六日　日光より今市・鹿沼等を經て小山に至り一泊す

日光は人口六千八百餘に過ぎざるも善く名の如く同業者多く人口三萬餘あり人情合には同業者少なく人情は比較的良し

今市は舊日光街道にして人口五千五百餘。町の盛なるは日光に優れり

鹿沼は人口一萬一千餘。同業者多くなるもの五六名あり。今市・佐野等に比すれば稍く盛なるが如し

小山は人口五千六百餘。鐵道・四通する以全國唯一の地なり故に盛なり歴史上より其名高しと雖も町は左程に盛なりとは謂ひ難し

同廿七日　朝早く出発して古河に至り再び小山に戻り結城・下館を經て水戸に至る

古河は人口一萬餘。商業盛にして同業者重なるも結城は人口一萬一千餘。其盛古河に優ること數倍なり

下館は人口六千有餘。殆と結城・伯仲す

正誤　前號記載の該日記中拙劣とある以境町の誤植

義士外傳　忠僕直助傳　第四席

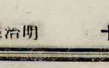
錦雲舎・真玉　御伽草子　新作　講談

扨山十の雷頭藤兵衛の一味、直助さん、前今日の事を知らないのならば話をしやう。今近藤様の仰しやるに、今日相繋ぐ十五夜の會で大勢列んで居る場所で、元老の大野の旦那が岡崎様にお鑑定をして貰つたと云ふ。スルと夫がチャンと分つた。大野様い驚いて人の腰の物を其位に見分る貴公ゆゑ、嘸立派な物を差して居るであらうといつて岡崎様に聞かう夫を見たいと望んださうだ　真ウム然うか夫を家の旦那に因つたら、無理に取て見せるとお前。見せに鋪てるひとい刀だ　真、貴様ア乃公の所の旦那だつて鋪たのばかだ　真、貴様ア乃公の所の旦那が悪いのを差して鋪ないんだ　真、スルと大野様が怒つて人の腰の物を其位に見分る貴公ゆゑ、嘸立派な物を差して居るであらうといつて岡崎様に聞かう夫を見たいと望んださうだ　真ウム然うか夫を家の旦那に因つたら、無理に取て見せるとお前。見せに鋪てるひとい刀だ

雲南麝香入

式部石鹸

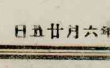
壹個美麗箱入　代金三十錢



麝香入

歌姫石鹸

壹個美麗箱入　代金廿五錢



麝香入

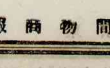
梅ケ枝

壹個代　金拾五錢

麝香入

花の露

壹個箱入　代金拾八錢



理化應用衛生化粧

大日本

壹個代　金拾貳錢

今回弊社發賣ノ右五種石鹸ハ品質善良高尚優美ニシテ其原料及ヒ製造法ノ如キハ數年間鳳國太曾有ノ石鹸ヲ精製セント欲シ大ヒニ奮發シ銀燭辛苦ノ結晶ニ成リ今回精製シタルガ者ナレハ當今富有博覽等ノ証明賞辭ヲ得スルハ時勢ノ然ラシムル所ナリ然シテ此等ノ証明賞辭ハ流行品ナリ弊社明賞辭ヲ有スルモノニ云ヘカラス從來ノ信用ト云フ確實ナル証明ヲ以テ又タ御幼ヲ論セス原料及製造法ノ異ナルチカヒ知リテ是ハ御品評ヲフランヲ

諸石鹸發賣元　東京堀江町貳丁目　平谷合資會社

洗粉之元祖

弊店に於て從來製造するかみあらひ粉の儀原賞を悉く撰み製造を專とするを以て大に需用の高を增加し廣く江湖に販賣する所なり然るに本品ハ原來蜜人の精粗を識別するに最も敏しとせるものなれ𪜈隱て奸商の輩弊店製造のかみあらひ粉の袋面を經ひ粗惡の僞造品販賣すると近年に至り其數多しとす故に需用者又は該品を取扱ふ諸君の迷惑を生する又少からしとせず之に因て是等の弊害を矯正せんが爲め去る十九年農商務省の認可を以て前記の如き商標專用の權を得たり依て右商標を篤と御調査の上御購求あらんことを希望す此段廣告候也

美好形

●此美好形ハ弊店の專賣にして燈心入製高尚優美なる形なり

新橋形

●此新橋形は燈心製にして最も意氣なる高尚の形なり

東京市神田區小川町十二番地

美好堂　細井富五郎

金石川區櫻木町

工場　細井工場

專賣特許

第二八一三號

きあぶらけつけび

○京都紀念博覽會ニ於テびんつけ。すきあぶらニ有功賞牌ヲ得タルハ偏リ弊店ノミ

○髮ニシテ意匠嘉許
○翻然トシテ香氣芳烈
○粕着セズ衛生有益
○暴晒モ不變不損
○在來モノニ非同日語
○價廉ナルモ無敵
○定價一個壹錢以上稱々
請賣望ノ方ハ申込アレ

○此原料ハ透明ニシテ淡黄色無臭
●發火點華氏二百七十五度
●比重八五
●氣溜ニシテ酸化セズ
●揮發ニシテ冷凝固セズ
○寒暑ニ遇フモ不變
○白蝋油壹斗ノ價格
○本油壹斗ノ價格
○石油壹斗ノ價格
○石炭五斗ノ價格
○殆ンド無用ノ物
○定ナレハ以テ代用ス
○請フテ得ベシ
○賣ノ徳用トナル

純香料販賣

東京市坂下門内九丁目十七番地

近藤商店

東京市日本橋區佐柳木町四番地

近藤支店

最上米國製本目入あつま玉新荷着謹告

今回荷着發賣致し候本入あつま玉は米國本會社に於て多年苦心の末好結果を奏したる精功の奇品にして本目鮮明一見眞珊瑚と識別に難からざむる程高尚優美の品に候得ば從來無地東玉同樣陸續御用向きの程偏に奉願候

發賣元謹白

江川商塵賣品廣告

◎鼈甲珊瑚珠蒔繪物推朱彫各種
◎舶來最上黑茶本ゴム櫛各種
◎舶來最上人造ゴム無地鼈甲ばらふ各種
◎舶來最上人造ゴム象牙櫛笄簪各種

弊店發賣之ゴム諸種ハ當ナ米國汗ニ英國ノ薩賞ナル會社ト特約直輸入致シ君候間物品ハ精々粗製濫造ヲ以テ販賣注意一層御愛顧之程奉願上候

東京市日本橋區蠣殼町二丁目六番地

發賣元　上總屋江川金右衛門

同町十四番地（電話浪花二百十九番）

本舗　小間物問屋同支店

●臺灣住民國籍決定の狀況

五月八日に於ける臺灣住民國籍決定の狀況は、今度其筋へ達したる臺灣總督の五月三十一日附報告は左の如し

馬關條約第五條に依り本年五月八日は臺灣住民の去就決定期に付其動靜は向後の施政上不一容易關係を有するものに付各縣知事及び島司に命じ臺灣察爲致候處臺南城内の住民を除き他の大部分の住民は極めて平穩にして國籍決定に關しても殆ど自身に何等の關係をも有せざるもの、如く各其業に安んじ居る景況に有之其各縣知事及び島司より報告の要領の左の如し

臺北縣

一般平生に異ななく國籍決定の大問題を知らざるもの、如し然れども或は少數の嶋民ハ且帝國の民籍に編入せらるゝ平等の迷想を抱き一時躊躇せしものなるに非ざりしも少しく事理に通ずるものは漸く我施政の方針を知得し爲政府の比にあらざるを見て益に退去の念を斷たり會々退去する者は清國内地に家族又は財產等を有する事情あるものにして本嶋に不動產を有し安堵の墳墓あるものに至ては退去せしもの極めて少し而して其退去せしもの、總數は戶數に於て三百六十九人口に於て千五百七十四名

臺中縣

縣下到る所部隊無事にして能く我帝國臣民たるを覺べるもの、如く退去者僅に三百一人にして現に清國へ旅行中のものにして帝國臣民たるの意を表明せし者百七十五人分家して別に戶主を立て帝國臣民となりたる者十二人一時清國へ旅行を爲し居りたる者にして帝國臣民たらんが爲め歸臺せしもの七人なり而して其退去者へ概ね清國に祖先の墳墓傳來の財產を有するものにして我施政上に對し異見を有するものにあらざるなり

臺南縣

臺南住民國籍決定期に際し何片令實施期も切迫し種々の謠言流布せるに迷はされ故國を退轉し退去する者多くあるべきを聞知せしに依り懲め注意を加へ國籍分限に就ても屬々重立ちたる者へ論示し且告諭を發し誤解なきを期し謠言流說に就ても支廳長警察署長等に嚴達し深く之が取締を爲さしめたる百餘ヶ通等の爲め其目的を達するとを得ず遂に約四千五百以上の退去者を出すに至れり然れども退去者の大部分は臺南城内外の住民にして他へ銅り阿里港部内の廣東人百三十人餘退去せしまでにして除は極めて少數なり而して當時住民間に流布せし風説言語の二三を擧ぐれば曰く五月八日以後ハ風俗習慣を打破せざる可べし曰く人頭稅家屋稅其他種々苛酷の課稅あるべし曰く微兵令を布かるべし曰く或ハ清國との交通を杜絕せらるべしと是等當住民を動搖し多數の退去者を出だすしめ其田園家屋を賣却するに際し暴利を貪らんとするの徒輩が流布せしものにして多ハ真實誤に勝るべきの徒輩が流布せしものにして多ハ真實誤に勝るべきの遂巡躊躇の折柄黑死病流行の爲め衆防消毒上決行せし交通遮斷ハ甚しく住民の感情を害し遂に疑心暗鬼を生ぜしめたる結果遂に多數の退去を見るに至れり

澎湖嶋

本嶋及諸嶋共極めて平穩にして帝國住民となり本嶋に永住の決心を爲せしハ如く退去者ハ僅に八十一人にして其原因概ね清國内地に親戚あり知已あり且等と國籍を異に一衡水疎遠に流るゝを恐るゝに外ならざるものゝ如し

以上記載の通りの實況に付退去者ハ何れも政治上に關し何等の意味も無之故國を懷ふ念慮と流言蜚語に迷ひ方向を誤り候ものに可有之と被認候條滿定の通り本年度に於て辨務警察等の行政機關具備の上ハ上下の事情疎通の組立ち候に付嶋民其堵に安んじ帝國臣民たるの實を擧くるを得べく存候

●報告候也

婦人の美容は髮の美容
髮の美容は油の美容
髮の美容は油の美容
髮の美容は油

◎都市際ノ教育大會　（過日東京府教育會常議員會ニ於テ決議セル全國都市聯合教育大會ハ其後委員ニ向ヒ會方法ヲ取調ベ中なりしに愈〻調査を終へ人議員報告に及べり開會期日ハ來十月六、七、八三日間東京に於て開會都市教育に關する十數件之協議ある筈にて其趣意ハ元來都市の教育乏純朴なる僻村の教育と其情を異にし學生の氣風動もすれば輒れ易しと從て其教授方法の如き頗る研究を要すべき者あり即ち此に關する特別の教育事項を調査せんが爲に開く者にて時恰も帝國教育會總會の開際なれば両會互に對峙するの姿一層の見物らんとなり

◎博覽會出品補助費　時博覽會事務局出品の美術工藝品に關し攪當の調査會議決要項中刺繍織錦及禰の三品に對する補助金額ハ他の工藝品に比し割合に少き嘆の聞あるは如何なる次第かと聞く曰く上の當業者ハ他の製作家工人等と異なり充分の實力を有し官の補助を仰かずとも偉大なる出品を企望するものなれ此等當業者に限りて補助無意なる勿れ奮て雄大精巧のものを出陳せしめんとする事に在りて自然他の美術工藝品の補助とハ大に其趣を異にせざる能はざるなりと乎

◎紡績商業會議所ニ關シ回答　（東京商業會議所）於て紡績業に關する調査會議所及び紡績業者に對し去月二十一日臨時會議を開ひたる結果第二十二日附を以て米國大統領に上院委員紡績商業會議所及び星公使へ長文の電報を發したるに今度右電報に對し紡績商業會議所より左の如く回答ありたり

拝啓本月二十二日電報を以て日下議會に於て審議中に係る關稅改正法案ハ目米両國間の貿易を阻害すべき旨に付本會議所に於て議決案及利益の儀付協力候樣御照會の趣拝承即ち右は本會議所關稅協力及び關稅改正法案を調査委員へ提出致候処別紙は該委員の報告にして各議會議員に配布致候もに候右御貴意及照會申越候

一千八百九十七年五月廿四日

紡績商業會議所書記長

東京商業會議所會頭澁澤榮一殿

別紙

紡績商業會議所外國貿易及び國庫歳入法調査委員長ガスタヴ、エーチ、シフッブ」ハ目下議會に於て審議中に係る關稅改正法案に關し左の報告書及び決議案を提出致

外國貿易及國庫歳入法調査委員ハ今般下院に提出せられたる一合衆國政府の歳入ハ供し且内地工業を奬勵する法案」即ちマンクリー氏提出の報告に付調査を遂げ法案の結果は左の如し

本委員ハ該法案を調査するに方り財政上或格段なる課稅主義となく總て自家一國の私說若くハ偏見を捨て商業者たるの眼光を以て公平の私に廣く該法案實施の結果が合衆國の利害か商業消長如何なる影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證するを用ひざるも該法案ハ「マクキンレー」案と為して知られたる一千八百九十年の關稅法に揭げ本委員ハ該法案に對し其利害の影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證するを用ひざるも該法案ハ「マクキンレー」案と為して知られたる一千八百九十年の關稅法に揭げ本委員ハ該法案に對し其利害の影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證して貨物の種類によりてハ彼稅率より遙か增加したるものもあり亦少しく減ずるものもあり

本委員ハ該法案を以て詳細に比較論議するを要せず其法案に該法案を以て增加したるとを他の條件と相伴ふて合衆國商業の全體に甚しく影響を與ふべきものなれて本委員ハ國の商業ハ深く之に對して熟考せざる可らずと確信せり從來關稅の變動によりて少からざる危惧と懷疑とを抱くの者ハ稅關稅率不動なると之に伴ふて商業の安全なるを以て今日に於て其最も熱心に希望する所なり

本委員ハ該法案を提出したる政府黨の改正法案に比して内地工業に在りて自然他の美術工藝品の補助とハ大に其趣を異にせざる能はざるなり乎

本委員ハ該法案の結果が合衆國の利害か商業消長如何なる影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證するを用ひざるも該法案ハ「マクキンレー」案と為して知られたる一千八百九十年の關稅法に揭げ本委員ハ該法案に對し其利害の影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證して貨物の種類によりてハ彼稅率より遙か增加したるものもあり亦少しく減ずるものもあり

本委員ハ該法案の結果が合衆國の利害か商業消長如何なる影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證して貨物の種類によりてハ彼稅率より遙か增加したるものもあり亦少しく減ずるものもあり

本委員ハ該法案を以て詳細に比較論議するを要せず其法案に該法案を以て增加したるとを他の條件と相伴ふて合衆國商業の全體に甚しく影響を與ふべきものなれて本委員ハ國の商業ハ深く之に對して熟考せざる可らずと確信せり從來關稅の變動によりて少からざる危惧と懷疑とを抱くの者ハ稅關稅率不動なると之に伴ふて商業の安全なるを以て今日に於て其最も熱心に希望する所なり

本委員ハ該法案を提出したる政府黨の改正法案に比して内地工業に在りて自然他の美術工藝品の補助とハ大に其趣を異にせざる能はざるなり乎

本委員ハ該法案の結果が合衆國の利害か商業消長如何なる影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證するを用ひざるも該法案ハ「マクキンレー」案と為して知られたる一千八百九十年の關稅法に揭げ本委員ハ該法案に對し其利害の影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證して貨物の種類によりてハ彼稅率より遙か增加したるものもあり亦少しく減ずるものもあり

本委員ハ該法案の結果が合衆國の利害か商業消長如何なる影響を及ぼすべきやを確めんと努めたり今該法案を詳細に用論證して貨物の種類によりてハ彼稅率より遙か增加したるものもあり亦少しく減ずるものもあり

安麗爾
東京　永香舎製造
平　石鹸
廣告

優香

三日月

菊印

特約販賣東京小間物問屋各店

本製造元　遠州　森川積善堂
東京日本橋區橋町四丁目小間物問屋
舗　丸見屋善兵衛
電話浪花四八八番

◎本品の特色◎
普通品に比し價格低廉にして量多し
光澤頗艶麗にして而も永くはげず
之つけるもつきにくしなり
分可申上候

日本橋區長谷川町別番地
本造元　東京花園堂

特許　人造珊瑚珠
結び方及價格表
東京神田須田町
類小間物商
特約發賣元　商長岡商店
日本橋區橋町四丁目
小間物問屋　花電話四八番
丸見屋善兵衛

反古志ゝべ

◎近世奇跡考（抄錄）

○其角雨乞句考

其角牛嶋にて、雨乞する者にかはりて「五元集」夕立や田をみめぐりの神ならば

とせしは、いづれの日にや、髯らかならざるにより、予三囲の社主につきて、たづねしに、元祿六年六月廿八日の事とア、然れば即ち其角三十三歳の時なり、一説に南茅場町、回船問屋、某、俳名を白雲（其角門人）といふ人にいざなわれ、船わなびに出で、此事ありしとぞ、接ずるに能因法師雨乞の歌に「金葉」

銀河なはしろ水にせきくだせ
天くだりますは神ならば神ゝ

此歌にもとづきたる句なり「五元集」に翌日雨ふるとあるを以て、須臾にふりしといふ説を、日ごろいぶかりおもひけるに、元祿六年に生れたる隱士「舉一堂之記」を見るに、左の如き文あり

晋其角、或年與門人同船而遊隅田川、旱魃、雨田面無水、門人等望雨乞之句、晋辞不止、故作句、須臾雨降、世人感其徳、云々

此記露ばかりも、いつはりがましき事をいふべきにあらず、是に於てかも、元祿中の人、すでに此事を傳へて、凱流の話柄をしたるを、舉一堂しるしおきたるなられば、雨の降しいづれの日にもあれ、世てぞをりて此事を語り傳ふるは、其角がはまれといふべし、彼の句ハも、ユタカといふ折句なり、ひとへに風雅の意を以て祝したらんと、著作堂主人はいへり

◎秋色・櫻桂に短冊

秋色い、小網町菓子屋のもすめ、幼名を秋といふ、十三歳の時、上野の花見にまかりて、清水観音堂の邊、井の端にわりし、大般若といふ櫻を見て

井のはたの櫻おぶなし　孤醉

と口すさみぬ、しかりしより後、その櫻を秋色櫻と呼けるゝ上に浩涼が記に見も、彼の櫻老木にて、六年ばかり以前へありしと、予、接するに、ゐ秋、貞享の頃其角の門人となり、秋色といふ、後に佛諦の剃者となり、翁后亭と號す、つひに其角の点印を附屬す「いつを昔にけり習にとかきて覩どり早苗にならふ女哉」

といふ句あり、是秋色、其角に入門の時の句なるよし「夢中庵夜話」に見へたり

再び接するに、秋色は、窠玉（俗稱辻かならず）といふ者の妻となり、男女あまたの子をうめり、一男俳號を林鳥といふ、二男俳號を紫萬と云ふ、ともに俗稱辻かならず、孫女を富といへり

秋色、享保十年乙巳四月十九日申刻身まかりぬ

見し夢ゝさめても色のかきつはた　秋色

以上秋色追善句集「両三聲」に見も

◎女中庸（承前）　作者不詳

一繼母の繼子を惡む事の太甚しきに至りては、然は、しきことがかし繼子の我子の兄弟なり繼ひ我血をわけずといふとも我子の父の骨肉をわけたるの、なれ、夫婦一体の理にてはまさしき我子なり何として繼子を、ひとへに憎み隔つべきや我にくむの心を止て、眞實愛憐をなすべしされば繼母といふ繼たる母も、文字にも書けり物を合するにも美物に惡き物をつがず同じやうなる物ならでハ接合せがたし蜂といふ虫は外の虫を取集て我に似よ〳〵といふて育つるに親の形に違はず必らず蜂になるとかや心なき虫ゝ猶然り況や人間をや繼ひ不仁の生涯たりとも我に似よと養育し憎み給ふ事ハ、いかなる人間の道にあらざゝへ

（まだある）

廣告

岳善廣告

最新流行　御髮結入

改良　柳ばし形
一文字形
御てんがた
歌舞伎俠新形
一名　樂屋好
かづらがた
旬入　新小町形

軍艦　歯磨本店　岳海屋

横山町壹丁目角
岳善

佐野善衛

ダイヤモンド石鹼

本舗　定價　一錢二錢三錢五錢十錢
日本橋區小傳馬町廿六丁目二番地
田村庄太郎

勉強
廣告

廣告

第四回内國勸業博覽會褒狀賜
塗櫛　篠原武兵衛
一木櫛類一切製造卸
一元結水引類製造卸
一かもし類製造卸

長野縣飯田市本町
弊店儀今般左記之所ニ支店ヲ設ケ諸品精撰製造之上大勉强販賣仕候間多少ニ不拘御引立御注文之程伏テ奉願上候

東京日本橋區横山町二丁目十四番地
蔦武支店

沼倉商會

餘興

▲狂歌

今昔衣服

春雨のふる手をひさぐ柳原　手形裏垣
燕の尾てふ服もありけり　繪馬屋
今もあの恩にこと着れさ拜領の草小紬　星の屋
摺箔の花見小紬は雨にあひて　朴
唄ひ女の吾妻こうとの梅ひびすけて　素
花紅葉うめ出しをはいにしへの　九梨園
吉野高雄かさたる極福　雅吉
麗の物たばさみし世の詩の　彌生庵
小紋も武ぼる大小あられ　都柳軒
漆紋つけしうぶらの帷子は　自然庵
心京しき武士や着にけむ　鸞興
戰捷を祝ふ兵士の　星の屋
身巾をふろく仕立てかきる　不二の屋
秋の野の千手の　自然庵
草はけゆく藤谷羽　鸞興
花結びにも露をやどしつ　星の屋
裏表ひかつ千家の師匠とて　秋の屋
きる茶微塵の両面羽織
鳥がなく吾妻こうとも流行に　常州油龜子
虫干に風の手ばかり通しけり
飛ぶが如くに出る仕入れ物
昔現樣のはなり小紬は　丸本田舍生

◎藤　花

わか宿の松にはふなる藤の花
さいれゆく瀧の碧根に色深く
はひまつはれる藤浪の花

◎山　吹

白露の玉もこうねの色みへて
あさ日に匂ふ山吹の花

◎夕　立

ゆふ日さへ、まはゆき空を涼しくも
夕立もなり高鈴の演

◎早　苗

賤の女に植わたされて小山田は
早苗のみとりはてなかも鳧

名古屋　田中豊眞

◎祝東京小間物商報二週年

生ひ出てまた二歳の若穂も
千代をこめたる色を見へける

◎同　上州高崎　永田雄吾

湧きかへりつゝ深くなる清水哉

同

よき友とよき處まて涼み哉
夕立の打出して行く田螺哉
串まても反かと思ふ小籠哉
云ひ分へなし給若たこゝろ持
文鑑の穴も通るか夏はをり
このもしき庵の作りや風雲る
牡丹見て思はす直も衣紋哉
若鮎の石を飛越す力かな
研あけた鏡にうつる新樹哉
大鯖もおし分て來ぬ松魚賣
ひく臼の雷めくや入梅のあけ
ねり塀に苦の生へたる茂り哉
木の知らぬ風あり月の廻の中
みし〳〵と笠さく音や雲の峰
夏の雨石もつゝぬく計りなり

同

ひさし野や浪うつ草に夏の月
握り行く手に光りもる螢かな
すゝしさや松にはなれぬ月の影

骨皮道人

◎狂句

口を酸ばく梅若の能をほめ
載醫の体裁氣のぬけた山英演
火花をちらす鰹屋のさくら炭
敵を呑む勇氣瓢箪を馬印
性へ尊樣鑑も製して西洋紙
お茶人が謂ものらしい字治抬這
峠茶屋足元に聞く音手鳥
是も花山吹色の返りさき
呉猛今なら注意して沸掃除
谷底にあるやう下女の獅子ゑ
英へ使節名譽の牡丹供
櫻井に散れと效へし人の花
祝祠にも節のないのゝ村の稱宜
濱車も頭覆才子にもある過失
村蘂者象牙の撥を鼻にかり
狂歌でハ二三の人ゾ六樹園
物へ云ひやう鬼殺し般若湯
垢抜の人は渴水の金遣ひ
道八も六兵衛も出る茶の坐敷
官省の改革糞生に呑む下剤

浅草連

喜一翠　如風外　三生　一禪齋　其舞　く子　ん子

八王子　嬉好　〃幸喜　〃佳遊　千金可古　一貫堂夫

優等　麝香入

特別練製　發賣元

東京市神田區柳原川岸十番地　小林富治郎

特〇優等麝香入高評石鹼　定價壹箱一個廿五錢

柳此石鹼は世間在來の物と大に其質を異にたゞ純好なる原料に練性麝香を混和せるを以て芳香佳烈一滑かに色澤を加へ一種得なる匂を含み其爽快なる云ふ斗りなし風に江湖貴紳の高評を博し日一日需用の增加するハ實に其名に背かざるを以てなり乞ふ益々御愛顧御試用之程伏而願希望候

販賣品廣告

學校用品及小荒物雜貨　卸商　萬屋源藏　神田區橋本町三丁目四番地

めざまし　橋本舗萬金出店

注文御詞

學校用具一式　各種帶揚類　文庫針箱類
和洋鉛筆類　各種石鹼類　流行軟膏手遊類
和洋手帖類　新形糸瓜細工　其他雜貨數品

品質ハ吟味シ價ハ最モ廉ニ勉强可仕候間多少共御用向ヲ希フ

煉製大博士（粉狀）

東京横山町壹丁目　大博士　衛生七德　登錄商標

東京本町四丁目　松本伊兵衛

粉狀

三ヶ月用　煉製　鑄器入　金貳拾錢
一ヶ月用　同器入　金壹拾錢
半ヶ月用　同器入　金五錢

同　同　同　

六月中注文の利益

無類　獨逸石鹸

は大木商店化粧品部の發賣にして今日より以降各地小間物賣藥商各位の深厚なる御愛顧を希ふべき化粧用衛生用の石鹸なり其品質の精良なるは勿論總てに就て義良無比なるは敢て本舗の自賛を要せず自然各位の實見により判明する處なり

本舗は本品發賣披露の爲め且は將來の御引立を仰がゝが爲め今特に限り **六七月中申込の注文** に限り **御直賣を廉にして** 販賣御望みの向は此際本舗或は各便利店に就て御申込あらば利益常に千倍す

左記の特約を附す

規則直段

一打以上一圓三個　五打以上　十打以上　卅打以上
入四圓七拾入錢　七拾七錢　七拾五錢　七拾參錢

一左の特約は明治卅年六七月中に獨逸石鹸を本舗及び左記の各販賣店より御買取相成た向に限り實行候事

二右明限中の御注文に張り不拘御價を引下げ御注文に相應じむる場合に於て永く御取引可仕事

三本舗は壞傷の爲め本品廣告を當市下及其他の新聞雜誌掲載し又は略傍看板等掲示の酷は便利店に限り都合上文字の大小に不拘拝借可致事

但一期月以降の御注文は本舗に於ては堅く規則に回復す

四書通小取次と雖ども時々贈名新聞紙上へ無借掲入す

五便利店に限り御望みに從ひ相當なる看板其他調製進呈す

六一時に卅打入（壹箱）を貳箱以上御注文の方を以て獨逸石鹸の便利店に相顧特別割引の外年内賣額の若干分を割戻しすべし

七今回限り 左の割合にて **看板引札フラフ等無代價進呈す** 但し此行何れも御注文に應じ進呈可致に付御注文の際豫め御撰び何々入用の旨御書添有之度候事

貴名看板　一打付　壹枚
十數遍石版刷　二打付　壹枚
四五打付　壹枚
五打付　壹枚
七打付　壹枚
貳十打以上　壹面
大小各種　即壹箱

黒文字貴名入
五十打以上

小形フラフ看板
引札　看板
ポール看板　ペンキ漆木看板
柱掛美麗ペンキ漆木看板
大形フラフ看板
硝子入黒縁付額掛美麗看板
前記石版摺挿入
同金縁付
柱掛ケヤキ看板
屋掛商傍面白版畫入黒文字ケヤキ看板
軸石版畫入黒文字ケヤキ看板
貴名入
○右に述べたる代價を以て看板等進呈する事あり

東京兩國廣小路（電話浪花七二三番）

本舗　大木口哲　御部

卸木口哲分店

大木會社

東京神田通り四十八番（電話本局十四十八番）

便利店

東京めがね橋　同横山町　同横山町　同横山町

石鹸御試用被下度　夏期ハ特ニ御好評ニ御引立ノ程願ヒ上ケ候

本舗　東京　一樂堂謹製

日本橋薬品問屋　亀忠
同　柏善
同　大善
同　村善
同　小善
同　佐善
同　近源
同　平尾

特約元販賣所

同橋町三丁目浅井
同馬喰町一丁目三善
同橋区銀座一丁目佐善
同橋品横山町一丁目近源
同馬喰町一丁目平尾

イリス粉石鹸發賣廣告

粉名ハ多年ノ經驗ニ依テ製造シ化粧料ニ一歩ヲ進メ已ニ歐米諸文明國ニテ專ラ稱用セラルヘキ一種ノ品ニシテ善良ニ香氣ノ佳快ナル他製品及ヲ所ニ比スレハ加フルニ藥品配合ノ宜キヲ以テ常用トシ最ト皮膚ニ飽ク保全又容器ハ他ニ比ル故ニ旅行携帯ニ尤モ適ス

意匠登録出願中

登録商標

イリス石鹸
製造元
發明藥劑
配合
東京日本橋區横山町一丁目
松澤化粧品部
安永舍

大販賣　天野源七

東京小間物卸商各店にあり

平尾賛平夏期賣出廣告

創設廿五年紀念博覽會
有功銅牌拝受

第四回内國勧業博覽會
第五回内國勧業博覽會
第全國品評會
賞牌拝受
賞牌拝受

定價　第二錢小箱三錢大箱五錢回形壜付壜入八箱五十錢入十錢紙袋入壜高等木箱入拾錢

本品ハ明治廿四年創業以來内外各地ニ非常ナル好評ヲ博シ從テ販賣高多キ事日本全國中第一ト云フ且品質ヲ純良ト價格ヲ低廉ナラシム普ク吾人ノ認ル處也

元祖

大日本帝國農商務省御登録済

東京馬喰町壹丁目
蓬陽堂平尾賛平製

新意匠懐中高等香物入

名一ヶ年保險香物入

香水

麝香水

蓬莱油

レモン油

今回弊舗に於て研製發賣致し前記四品の器ハ從來世に有觸たる硝子器物と違ひ實に高雅優美なる意匠にて取扱ひ容易に破壊せざる様に工夫を凝し又は鉄に入れ置くも錆を生ずる事なく四品共に極軽量なり殊に携帯に輕便なり殊に懐中